

## 分担研究報告書

### 薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査

分担研究者 和田 清 国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部長  
研究協力者 中野良吾 同上 流動研究員  
尾崎米厚 国立公衆衛生院 疫学部 感染症室長  
勝野眞吾 兵庫教育大学 学校教育学部 教授

**研究要旨** 中学生における薬物乱用の広がりを把握し、特に有機溶剤乱用に関する危険因子を特定することによって、中学生に対する薬物乱用防止対策の基礎資料として資するために、無作為で選ばれた全国208校の全生徒を対象に、薬物乱用に関する意識・実態調査を実施した。その結果、148校（対象校の71.2%）より、71,796人（対象校の全生徒の63.4%前後）の有効回答を得た。ただし、回答が得られなかった県が2県あり、都道府県毎の回答率には、未だ少々ばらつきがあることをふまえた上で、本調査の結果を利用する必要がある。①男子では1.7%（1年生1.2%、2年生1.6%、3年生2.3%）、女子では0.9%（1年生0.9%、2年生0.8%、3年生1.1%）、全体では1.3%（1年生1.1%、2年生1.2%、3年生1.7%）の者が、これまでに有機溶剤乱用の経験がある回答した。これは、1996年に実施した第1回全国調査の結果よりは微増であった。②しかし、有機溶剤乱用目撃率は、第1回調査よりやや減少しており、有機溶剤乱用に誘われたことのある率は同じで、身近に乱用者を知っている率は微増していた。③一方、1990年から同種の調査を継続実施している千葉県では、男子での「誘われた」率が微増した以外は、生涯経験率も目撃率も乱用者を知っている率も、明らかに低下していた。④したがって、総合的に判断した場合、わが国の中学生の有機溶剤乱用の広がりは、1996年と比べて、横這いであると解釈するのが妥当であろう。⑤ただし、「少年非行等の概要（平成10年1～12月）」（警察庁生活安全局少年課）によれば、1998年のシンナー等の摂取・所持で補導した犯罪少年は、平成2年以来8年ぶりの増加となっており、今回の生涯経験率の微増は、その反映の可能性もあり、有機溶剤乱用の動向には、これまで以上に注意が必要である。⑥有機溶剤乱用経験者群（以下、経験者群）では、非経験者群に比べて、日常生活の規則性、学校生活、家庭生活、友人関係において、好ましくない傾向が有意差を持って強いことが再確認された。⑦その背景には、家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられる。経験者群では、「親との相談頻度」「家族との夕食頻度」が有意に低く、逆に「大人不在での時間」が有意に長く、家庭は「うまくいっていない」を選んだ者が有意に多かった。⑧結局、経験者群は、総体的にみれば、家庭にも、学校にもなじみず、友人関係も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供たち」と推定することができよう。⑨また、中学生における喫煙と大人が同伴しない飲酒は、有機溶剤乱用と強い繋がりを持っており、有機溶剤乱用への「ゲイトウェイ」となっている可能性が強く示唆された。⑩有機溶剤乱用による医学的害については、「歯の腐食」、「無動機症候群」、「フラッシュバック」についての知識は、男女共に、経験者群の方が知っているという結果であり、「知識」と「行動」の不一致を改めて確認する結果となった。⑪大麻の生涯経験率は、男子で0.9%、女子で0.5%、全体で0.7%であり、覚せい剤の生涯経験率は、男子で0.7%、女子で0.3%、全体で0.5%であった。これらは、第1回調査よりは微増を示しているが、数字自体が無回答の者の割合よりも低く、積極的に論じることができない。⑫違法性薬物の入手可能性については、経験者群では、大麻でも覚せい剤も、「手に入る」を選んだ者が男女共に50%強であったことは、第3次覚せい剤乱用期を象徴するような結果であった。⑬法の遵守については、喫煙に関しては非喫煙群全体の12%の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、有機溶剤乱用については、それを選んだ者は非経験者群全体の4.1%に過ぎず、大麻では非経験者全体の2.4%であったことは、同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤・大麻乱用への垣根は高いことを物語っている。しかし、有機溶剤乱用の経験と大麻・覚せい剤乱用の経験とには、強い結びつきが認められ、大麻・覚せい剤乱用への「ゲイトウェイ」としての有機溶剤乱用の持つ意味が強く示唆された。

## A. 研究目的

本研究者らによるこれまでの調査研究によれば、わが国では、薬物乱用により、精神障害をきたして精神病院を受診した患者のうち、約23%は有機溶剤乱用が原因であり、約56%は覚せい剤乱用が原因であった<sup>1)</sup>。また、覚せい剤乱用により精神障害をきたして精神病院を受診した患者の約1/3の者は、覚せい剤乱用以前に有機溶剤乱用の既往があった<sup>2)</sup>。つまり、わが国では、飲酒・喫煙を除けば、有機溶剤の乱用が精神医療の面からみて、その後の覚せい剤の乱用への門を開く「ゲイトウェイ・ドラッグ」であろうと推定できる。

この有機溶剤乱用は、14歳から16歳で開始されることが多く<sup>3)</sup>、予防対策上は中学生が重要であ

る。したがって、中学生における「シンナー遊び」の実態を把握し、「シンナー遊び」に関連するハイリスク・ファクターを特定することは、わが国における薬物乱用防止対策上、不可欠である。

同時に、中学生における喫煙、飲酒は、「シンナー遊び」と強い関係を有していると推定され<sup>4)5)</sup>、中学生における喫煙、飲酒の一部が「シンナー遊び」開始ないしは継続への「ゲイトウェイ」になっている可能性が高い。

さらに、1993年頃から、外国人による大麻の路上での密売と、その後の覚せい剤の密売が社会問題化し、1995年以降は第3次覚せい剤乱用期に入ったと考えられている<sup>6)</sup>。その一端は、覚せい剤取締法で補導された高校生及び中学生数の激増に象徴されている。高校生の補導者数は1994年まで

	対象校	回答校	実施率(%)		対象校	回答校	実施率(%)
北海道	9	8	88.9	京都	4	3	75.0
青森	3	1	33.3	大阪	12	4	33.3
岩手	3	3	100	兵庫	9	5	55.6
宮城	4	2	50.0	奈良	3	1	33.3
秋田	2	2	100	和歌山	2	1	50.0
山形	2	2	100	鳥取	2	2	100
福島	4	2	50.0	島根	2	2	100
茨城	5	5	100	岡山	3	2	66.7
栃木	4	3	75.0	広島	5	2	40.0
群馬	4	3	75.0	山口	3	3	100
埼玉	10	4	40.0	徳島	2	2	100
千葉	9	9	100	香川	2	1	50.0
東京	14	7	50.0	愛媛	3	3	100
神奈川	11	8	72.7	高知	2	1	50.0
新潟	4	4	100	福岡	8	6	75.0
富山	2	2	100	佐賀	2	2	100
石川	2	2	100	長崎	3	2	66.7
福井	2	2	100	熊本	4	4	100
山梨	2	2	100	大分	2	0	0
長野	4	4	100	宮崎	2	2	100
岐阜	4	4	100	鹿児島	4	2	50.0
静岡	6	5	83.3	沖縄	3	2	66.7
愛知	10	8	80.0				
三重	3	0	0				
滋賀	3	3	100	全体	208	148	71.2

表1 対象校の分布と回答状況

は、年間約40人前後で一定していた（警察庁生活安全局少年課）。ところが、1995年には92人、1996年には214人と、倍増し続けた。この影響は1997年には中学生にも及び、同法により補導された中学生数は対前年度比で2倍の43人にもものぼっている。

これらの状況は、わが国が現在、これまでにない薬物汚染拡大の危機に直面していることを意味している。この危機的状況を乗り切るためには、未成年者、特に有機溶剤乱用開始の最頻年齢と推定される中学生に焦点を当てた予防対策が重要である。

以上の考えから、平成10年度は、平成8年度に初めて実施した、「薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査」<sup>9)</sup>の第2回目調査を実施し、薬物乱用防止対策の基礎資料として資することを目的とした。

## B. 研究方法

調査は、下記方法によって選ばれた対象校で、原則として1998年10月中に、全生徒による自記式調査として実施された。

対象校の抽出方法には層別1段集落抽出法を用いた。抽出に用いたデータベースは、1997年版の全国学校総覧<sup>10)</sup>である。どの都道府県からも最低1校は抽出されるようにするために、都道府県を層とし、中学生数に比例して都道府県毎に対象校の抽出を行った。すなわち、中学生数の最も少ない鳥取県での調査校数を1とし、その他の都道府県での調査校数は、鳥取県の生徒数との比に従って、切り上げで決定し、その後、鳥取県での調査対象校数を2に変更した。

対象校の抽出は、各都道府県毎に、上記の手続きで決定された数の中学校を全中学校から無作為で抽出した。その際、学校毎の生徒数に比例して

抽出確率を決める確率抽出法を用い、実際の抽出には乱数を使用した。また、抽出された学校の全生徒を調査対象としたので（注1）、1段集落抽出法と呼ぶ。この場合の集落とは学校を指す。

この操作により、全国の中学校から209校が選ばれたが、そのうち東京都の1校は、調査時点で廃校となっていたため、最終的に、調査校は208校（113, 231人）となった。

調査用紙には氏名等個人を特定できる項目はなく、学年、性別、日常生活の規則正しさ、学校生活、家庭生活、友人関係、喫煙について、飲酒について、「シンナー遊び」について、大麻乱用について、覚せい剤乱用について、薬物の入手し易さについての全51項目から構成されている。

調査用紙は教師によって生徒に配られた。記載の終わった生徒は、同時に配られた個人用封筒に調査用紙を入れ、封をし、あらかじめ用意されたクラス毎の回収用封筒に個人用封筒を投函した。各学校はクラス用回収封筒をとりまとめて当研究所に郵送し、各封筒は当研究所にて初めて開封された。

208校（国立2校、公立196校、私立10校）中、調査用紙による回答を頂けた中学校は148校（国立0校、公立144校、私立4校：対象校の71.2%）であった。そのうちの13校については、各学年1クラスのみ実施した学校1校、1～2年生のみ実施した学校1校、2年生のみ実施した学校2校、3年生のみ実施した学校2校、2～3年生のみ実施した学校1校、3年生女子以外実施した学校1校、3年生の1クラス以外で実施した学校1校、1年生の2クラス以外で実施した学校1校、1年生の2クラスのみで実施した学校1校、3年生の1クラスのみで実施した学校2校であった。

以上の結果、71, 928人（対象校208校の全生徒の63.5%）の調査用紙が回収されたが、うち132通には、性別の不明、明らかな記載上の不備、また

	1年生	2年生	3年生	全体
男性	11744 (50.9)	12415 (51.1)	12581 (51.2)	36740 (51.1)
女性	11282 (48.9)	11834 (48.7)	11940 (48.6)	35056 (48.7)
無回答	63 (.3)	38 (.2)	31 (.1)	132 (.2)
全体	23089 (100.0)	24287 (100.0)	24552 (100.0)	71928 (100.0)

表2 対象の内訳

注1：本分担報告書のE. 結論の後を参照

は意図的な操作的記載が認められたため、無効とした。したがって、有効回答は71,796人(対象校208校の全生徒の63.4%)である。

また、有機溶剤の乱用の地域格差については、都市中心部と都市周辺部とでは違いがありそうだが、どちらに多いかは都市によって異なっている可能性がある<sup>13)</sup>反面、都市全体同士の比較では予想以上に地域格差がない可能性もある<sup>14)</sup>。そこで、今回の調査が全国の中学生を対象にしながらも、全国を代表していない可能性もあるため、都道府県毎の回答状況を表1に示した。表1の実施状況が今回の調査結果にどのような影響を及ぼしているかは不明であるが、本調査の限界として、表1を見ておく必要がある。

有効回答の内訳は表2の通りである。男子36,740人、女子35,056人、性別不明・無効回答者132人の計71,928人である。

結果は、性別不明者132人を除いた71,796人について分析した。結果の検定に当たっては、項目毎に回答の「不明」を除外し、それぞれの項目毎に当該薬物の経験者群(以下、経験者群)と非経験者群(以下、非経験者群)とについて $\chi^2$ 検定

をおこなった。

## C. 研究結果

### 1. 「シンナー遊び」について

#### 1. 有機溶剤乱用の広がりについて

##### (1) 「シンナー遊び」の生涯経験率について

性別・学年別の「シンナー遊び」の生涯経験率(これまでに1回でも「シンナー遊び」をしたことがある率)は表3の通りである。

生涯経験率は男子で1.7%(1年生1.2%、2年生1.6%、3年生2.3%)、女子で0.9%(1年生0.9%、2年生0.8%、3年生1.1%)であり、全体では1.3%(1年生1.1%、2年生1.2%、3年生1.7%)であった。

また、男子の生涯経験率には、学年間で有意差( $P < 0.01$ )が認められ、学年が進むにしたがって高くなる傾向が伺われた。しかし、女子では学年間での有意差は認められなかった。この結果は、1994年に千葉県と西日本A県B市で実施した結果<sup>15)</sup>、および1996年の第1回本調査<sup>9)</sup>と同じであった。

	1年生	2年生	3年生	全体
<b>男 性</b>				
「シナ-」経験・なし	11471 (97.7)	12110 (97.5)	12202 (97.0)	35783 (97.4)
「シナ-」経験・あり	143 (1.2)	196 (1.6)	290 (2.3)	629 (1.7)
無回答	130 (1.1)	109 (.9)	89 (.7)	328 (.9)
男性計	11744 (100.0)	12415 (100.0)	12581 (100.0)	36740 (100.0)
( $\chi^2=44.12562$ , $df=2$ , $p=.00000$ )				
<b>女 性</b>				
「シナ-」経験・なし	11120 (98.6)	11676 (98.7)	11764 (98.5)	34560 (98.6)
「シナ-」経験・あり	102 (.9)	94 (.8)	131 (1.1)	327 (.9)
無回答	60 (.5)	64 (.5)	45 (.4)	169 (.5)
女性計	11282 (100.0)	11834 (100.0)	11940 (100.0)	35056 (100.0)
( $\chi^2=5.98010$ , $df=2$ , $p=.05029$ )				
<b>全 体</b>				
「シナ-」経験・なし	22591 (98.1)	23786 (98.1)	23966 (97.7)	70343 (98.0)
「シナ-」経験・あり	245 (1.1)	290 (1.2)	421 (1.7)	956 (1.3)
無回答	190 (.8)	173 (.7)	134 (.5)	497 (.7)
全体	23026 (100.0)	24249 (100.0)	24521 (100.0)	71796 (100.0)
( $\chi^2=43.17343$ , $df=2$ , $p=.00000$ )				

表3 これまでに一回でも「シンナー遊び」を経験したことのある率(生涯経験率)

なお、生涯経験率の推移については、考察で論じる。

### (2) 「シンナー遊び」の1年経験率について

この1年間での「シンナー遊び」の経験率（1年経験率）は表4の通りである。

男子で1.0%（1年生0.6%、2年生0.9%、3年生1.3%）、女子で0.6%（1年生0.6%、2年生0.5%、3年生0.7%）であり、全体では0.8%（1年生0.6%、2年生0.7%、3年生1.0%）であった。

また、男女共に学年間で有意差が認められたが、男子では学年が進むにしたがって高くなる傾向が明らかであった。

### (3) 「シンナー遊び」の目撃について

「あなたは、『シンナー遊び』をしているところを実際に見たことがありますか？」との問いに対する回答の分布を表5に示した。

男女ともに約10～11%の生徒が見たことがあるという結果であった。同時に、男女ともに、学年

が進むにつれて見たことのある者が有意に増えていく傾向が示唆された。

なお、この目撃率の推移については、考察で論じる。

### (4) 「シンナー遊び」経験者の存在の身近さについて

「あなたの身近に、『シンナー遊び』をしている人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表6に示した。

男女ともに、約5～6%の者が「いる」と答えており、学年間で有意差が認められ（ $P < 0.01$ ）、同時に、学年が進むに従って、「いる」と答えた者の割合が高くなっていくことが示唆された。しかも、男子よりも女子に多い傾向は以前の同種の調査と同じであった<sup>9)11)</sup>。

なお、上記についての年次推移については、考察で論じる。

### (5) 「シンナー遊び」への誘惑について

	1年生	2年生	3年生	全体
男性				
ない	11282 (96.1)	12008 (96.7)	12187 (96.9)	35477 (96.6)
ある	75 (.6)	113 (.9)	165 (1.3)	353 (1.0)
無回答	387 (3.3)	294 (2.4)	229 (1.8)	910 (2.5)
男性計	11744 (100.0)	12415 (100.0)	12581 (100.0)	36740 (100.0)
				( $\chi^2=28.19705$ , $df=2$ , $p=.00000$ )
女性				
ない	11003 (97.5)	11571 (97.8)	11691 (97.9)	34265 (97.7)
ある	63 (.6)	57 (.5)	87 (.7)	207 (.6)
無回答	216 (1.9)	206 (1.7)	162 (1.4)	584 (1.7)
女性計	11282 (100.0)	11834 (100.0)	11940 (100.0)	35056 (100.0)
				( $\chi^2=6.31749$ , $df=2$ , $p=.04248$ )
全体				
ない	22285 (96.8)	23579 (97.2)	23878 (97.4)	69742 (97.1)
ある	138 (.6)	170 (.7)	252 (1.0)	560 (.8)
無回答	603 (2.6)	500 (2.1)	391 (1.6)	1494 (2.1)
全体	23026 (100.0)	24249 (100.0)	24521 (100.0)	71796 (100.0)
				( $\chi^2=30.01570$ , $df=2$ , $p=.00000$ )

表4 この1年間に「シンナー遊び」を一回でも経験したことのある者の率（一年経験率）

	1年生	2年生	3年生	全体
男性				
ない	10655 (90.7)	11145 (89.8)	10878 (86.5)	32678 (88.9)
ある	1027 (8.7)	1232 (9.9)	1670 (13.3)	3929 (10.7)
無回答	62 (.5)	38 (.3)	33 (.3)	133 (.4)
男性計	11744 (100.0)	12415 (100.0)	12581 (100.0)	36740 (100.0)
				( $\chi^2=140.71035$ , $df=2$ , $p=.00000$ )
女性				
ない	10328 (91.5)	10687 (90.3)	10546 (88.3)	31561 (90.0)
ある	932 (8.3)	1123 (9.5)	1376 (11.5)	3431 (9.8)
無回答	22 (.2)	24 (.2)	18 (.2)	64 (.2)
女性計	11282 (100.0)	11834 (100.0)	11940 (100.0)	35056 (100.0)
				( $\chi^2=71.55370$ , $df=2$ , $p=.00000$ )
全体				
ない	20983 (91.1)	21832 (90.0)	21424 (87.4)	64239 (89.5)
ある	1959 (8.5)	2355 (9.7)	3046 (12.4)	7360 (10.3)
無回答	84 (.4)	62 (.3)	51 (.2)	197 (.3)
全体計	23026 (100.0)	24249 (100.0)	24521 (100.0)	71796 (100.0)
				( $\chi^2=207.84319$ , $df=2$ , $p=.00000$ )

表5 「シンナー遊び」を実際に見たことがありますか？

	1年生	2年生	3年生	全体
男性				
いない	11248 (95.8)	11738 (94.5)	11691 (92.9)	34677 (94.4)
いる	398 (3.4)	605 (4.9)	831 (6.6)	1834 (5.0)
無回答	98 (.8)	72 (.6)	59 (.5)	229 (.6)
男性計	11744 (100.0)	12415 (100.0)	12581 (100.0)	36740 (100.0)
				( $\chi^2=131.62096$ , $df=2$ , $p=.00000$ )
女性				
いない	10754 (95.3)	11080 (93.6)	11005 (92.2)	32839 (93.7)
いる	459 (4.1)	687 (5.8)	883 (7.4)	2029 (5.8)
無回答	69 (.6)	67 (.6)	52 (.4)	188 (.5)
女性計	11282 (100.0)	11834 (100.0)	11940 (100.0)	35056 (100.0)
				( $\chi^2=117.06003$ , $df=2$ , $p=.00000$ )
全体				
いない	22002 (95.6)	22818 (94.1)	22696 (92.6)	67516 (94.0)
いる	857 (3.7)	1292 (5.3)	1714 (7.0)	3863 (5.4)
無回答	167 (.7)	139 (.6)	111 (.5)	417 (.6)
全体計	23026 (100.0)	24249 (100.0)	24521 (100.0)	71796 (100.0)
				( $\chi^2=247.17737$ , $df=2$ , $p=.00000$ )

表6 身近に「シンナー遊び」をしている人がいますか？

「あなたは、『シンナー遊び』に誘われたことがありますか？」との問いに対する回答の分布を表7に示した。

男子で1.9%、女子で1.4%の者が誘われたことが「ある」と答えており、男女ともに、学年間で有意差が認められ ( $P < 0.01$ )、学年が進むにつれて、誘われたことのある率が高くなる傾向が伺われた。

なお、この誘われ経験率の推移については、考察で論じる。

## 2. 有機溶剤乱用に対する捉え方

### (1) 「シンナー遊び」への関心について

『シンナー遊び』について、あなたの気持ちはどれに最も近いですか？」との問いに対する未経験者群での回答の分布を表8に示した。

男女ともに、学年間で有意差が認められるが ( $P < 0.01$ )、男子では学年とともに「関心がない」者が増加し、女子では、1996年の第1回調査と同様に、2年生で「見てみたい」「試してみたい」と答

えた者が増える傾向が伺われた。

「シンナー遊び」の生涯経験率が男子では学年とともに増加し、女子では2年生で最低となったことを考えると(表3)、男子では「シンナー遊び」をする者としなない者とが学年とともに乖離し、女子では2年生で、好奇心を持つ者が若干増える可能性を示唆していると考えられる。

### (2) 「シンナー遊び」と法の遵守について

『シンナー遊び』は法律で禁じられています、その『シンナー遊び』をすることをどう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表9に示した。

回答の分布には、男女共に有意差が認められ ( $P < 0.01$ )、未経験者群では男女共に約93~94%の者が「法律で禁止されているから、すべきではない」を選んだのに対して、経験者群では、男女共に「法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う」「法律を守る必要は全然ないと思う」と答えた者が50%を上回った。

	1年生	2年生	3年生	全体
男 性				
ない	11057 (94.2)	11568 (93.2)	11554 (91.8)	34179 (93.0)
ある	110 (.9)	222 (1.8)	348 (2.8)	680 (1.9)
無回答	577 (4.9)	625 (5.0)	679 (5.4)	1881 (5.1)
男性計	11744 (100.0)	12415 (100.0)	12581 (100.0)	36740 (100.0)
			( $\chi^2=113.65997$ , $df=2$ , $p=.00000$ )	
女 性				
ない	10541 (93.4)	10926 (92.3)	10970 (91.9)	32437 (92.5)
ある	96 (.9)	162 (1.4)	222 (1.9)	480 (1.4)
無回答	645 (5.7)	746 (6.3)	748 (6.3)	2139 (6.1)
女性計	11282 (100.0)	11834 (100.0)	11940 (100.0)	35056 (100.0)
			( $\chi^2=44.35595$ , $df=2$ , $p=.00000$ )	
全 体				
ない	21598 (93.8)	22494 (92.8)	22524 (91.9)	66616 (92.8)
ある	206 (.9)	384 (1.6)	570 (2.3)	1160 (1.6)
無回答	1222 (5.3)	1371 (5.7)	1427 (5.8)	4020 (5.6)
全 体	23026 (100.0)	24249 (100.0)	24521 (100.0)	71796 (100.0)
			( $\chi^2=154.94463$ , $df=2$ , $p=.00000$ )	

表7 「シンナー遊び」に誘われた経験

	1年生	2年生	3年生	全体
<b>男性</b>				
関心がない	10469 (90.2)	11141 (91.2)	11323 (92.1)	32933 (91.2)
見てみたい	799 (6.9)	795 (6.5)	658 (5.4)	2252 (6.2)
試してみたい	166 (1.4)	178 (1.5)	211 (1.7)	555 (1.5)
無回答	167 (1.4)	105 (.9)	99 (.8)	371 (1.0)
男性計	11601 (100.0)	12219 (100.0)	12291 (100.0)	36111 (100.0)
			( $\chi^2=30.63455$ , $df=4$ , $p=.00000$ )	
<b>女性</b>				
関心がない	9930 (88.8)	10386 (88.5)	10671 (90.4)	30987 (89.2)
見てみたい	986 (8.8)	1099 (9.4)	894 (7.6)	2979 (8.6)
試してみたい	150 (1.3)	180 (1.5)	169 (1.4)	499 (1.4)
無回答	114 (1.0)	75 (.6)	75 (.6)	264 (.8)
女性計	11180 (100.0)	11740 (100.0)	11809 (100.0)	34729 (100.0)
			( $\chi^2=27.13186$ , $df=4$ , $p=.00002$ )	
<b>全体</b>				
関心がない	20399 (89.5)	21527 (89.8)	21994 (91.3)	63920 (90.2)
見てみたい	1785 (7.8)	1894 (7.9)	1552 (6.4)	5231 (7.4)
試してみたい	316 (1.4)	358 (1.5)	380 (1.6)	1054 (1.5)
無回答	281 (1.2)	180 (.8)	174 (.7)	635 (.9)
全体	22781 (100.0)	23959 (100.0)	24100 (100.0)	70840 (100.0)
			( $\chi^2=51.02299$ , $df=4$ , $p=.00000$ )	

表8 「シンナー遊び」についての気持ち（未経験者についてのみ）

	すべきではない	少々ならかまわない	禁止を守る必要なし	無回答	全体
<b>男性</b>					
「シナ-」経験・なし	33207 (92.8)	1403 (3.9)	1068 (3.0)	105 (.3)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	308 (49.0)	134 (21.3)	183 (29.1)	4 (.6)	629 (100.0)
無回答	207 (63.1)	18 (5.5)	13 (4.0)	90 (27.4)	328 (100.0)
男性計	33722 (91.8)	1555 (4.2)	1264 (3.4)	199 (.5)	36740 (100.0)
				( $\chi^2=1803.95914$ , $df=2$ , $p=.00000$ )	
<b>女性</b>					
「シナ-」経験・なし	32408 (93.8)	1507 (4.4)	568 (1.6)	77 (.2)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	131 (40.1)	98 (30.0)	95 (29.1)	3 (.9)	327 (100.0)
無回答	109 (64.5)	9 (5.3)	5 (3.0)	46 (27.2)	169 (100.0)
女性計	32648 (93.1)	1614 (4.6)	668 (1.9)	126 (.4)	35056 (100.0)
				( $\chi^2=1855.12324$ , $df=2$ , $p=.00000$ )	
<b>全体</b>					
「シナ-」経験・なし	65615 (93.3)	2910 (4.1)	1636 (2.3)	182 (.3)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	439 (45.9)	232 (24.3)	278 (29.1)	7 (.7)	956 (100.0)
無回答	316 (63.6)	27 (5.4)	18 (3.6)	136 (27.4)	497 (100.0)
全体	66370 (92.4)	3169 (4.4)	1932 (2.7)	325 (.5)	71796 (100.0)
				( $\chi^2=3627.24748$ , $df=2$ , $p=.00000$ )	

表9 「シンナー遊び」についてどう思いますか？（法の遵守）



(3) 「シンナー遊び」と法規制の必要性について

「法律で『シンナー遊び』を禁止しているのをどう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表10に示した。

回答の分布には、男女共に有意差が認められ ( $P < 0.01$ )、非経験者群では、男女ともに約86%の者が「当然だと思う」を選んだのに対して、経験者群では、「麻薬・覚せい剤とちがって、シンナーくらい禁止しなくてもいいのではないかと思う」「そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う」と答えた者が相当数いた (男子で38.8%、女子で45.0%)。

(4) 「シンナー遊び」をしている者への見方 (その1)

『シンナー遊び』をしている人について、どう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表11に示した。

回答の分布には、男女共に有意差が認められ ( $P$

$< 0.01$ )、非経験者群では男女共に約92~93%の者が「自分には無関係の人だと思う」を選んだのに対して、経験者群では『シンナー遊び』をする気持ちが理解できる気がする」ないしは「親しみを感じる」を選んだ者が相当数いた (男子で54.7%、女子で65.1%)。この結果は、「シンナー遊び」への好奇心を調べた表8の経験者群・未経験者群での乖離現象と同様に考えられる。

(5) 「シンナー遊び」をしている者への見方 (その2)

『シンナー遊び』をしている人と親しくなる事について、どう考えますか？」との問いに対する回答の分布を表12に示した。

回答の分布には、男女共に有意差が認められた ( $P < 0.01$ )。非経験者群では「親しくなりたくない」を選んだ者が、男女共に60~67%だったのに対して、経験者群では男女共に「シンナー遊びだけで決めたくない」を選んだ者と「すでに親しい」を選んだ者との合計の方が多かった。

	当然だと思 う	しかたない	シンナ-くらい 禁止しなく ていい	個人の自由	無回答	全 体
<b>男 性</b>						
「シンナ-」経験・なし	30820 (86.1)	2827 (7.9)	365 (1.0)	1704 (4.8)	67 (.2)	35783 (100.0)
「シンナ-」経験・あり	258 (41.0)	119 (18.9)	63 (10.0)	181 (28.8)	8 (1.3)	629 (100.0)
無回答	185 (56.4)	33 (10.1)	4 (1.2)	13 (4.0)	93 (28.4)	328 (100.0)
男性計	31263 (85.1)	2979 (8.1)	432 (1.2)	1898 (5.2)	168 (.5)	36740 (100.0)
( $\chi^2=1368.55972$ , $df=3$ , $p=.00000$ )						
<b>女 性</b>						
「シンナ-」経験・なし	29707 (86.0)	3057 (8.8)	322 (.9)	1410 (4.1)	64 (.2)	34560 (100.0)
「シンナ-」経験・あり	110 (33.6)	66 (20.2)	46 (14.1)	101 (30.9)	4 (1.2)	327 (100.0)
無回答	90 (53.3)	19 (11.2)	4 (2.4)	10 (5.9)	46 (27.2)	169 (100.0)
女性計	29907 (85.3)	3142 (9.0)	372 (1.1)	1521 (4.3)	114 (.3)	35056 (100.0)
( $\chi^2=1230.12545$ , $df=3$ , $p=.00000$ )						
<b>全 体</b>						
「シンナ-」経験・なし	60527 (86.0)	5884 (8.4)	687 (1.0)	3114 (4.4)	131 (.2)	70343 (100.0)
「シンナ-」経験・あり	368 (38.5)	185 (19.4)	109 (11.4)	282 (29.5)	12 (1.3)	956 (100.0)
無回答	275 (55.3)	52 (10.5)	8 (1.6)	23 (4.6)	139 (28.0)	497 (100.0)
全 体	61170 (85.2)	6121 (8.5)	804 (1.1)	3419 (4.8)	282 (.4)	71796 (100.0)
( $\chi^2=2573.01403$ , $df=3$ , $p=.00000$ )						

表10 法律で「シンナー遊び」を禁止しているのをどう思いますか？ (法規制の必要性)

	自分には無関係	気持ちか 理解できる	親しみを 感じる	無回答	全 体
<b>男 性</b>					
「シナ-」経験・なし	33251 (92.9)	2036 (5.7)	304 (.8)	192 (.5)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	273 (43.4)	201 (32.0)	143 (22.7)	12 (1.9)	629 (100.0)
無回答	205 (62.5)	24 (7.3)	12 (3.7)	87 (26.5)	328 (100.0)
男性計	33729 (91.8)	2261 (6.2)	459 (1.2)	291 (.8)	36740 (100.0)
( $\chi^2=3314.42213$ , $df=2$ , $p=.00000$ )					
<b>女 性</b>					
「シナ-」経験・なし	31651 (91.6)	2533 (7.3)	127 (.4)	249 (.7)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	107 (32.7)	143 (43.7)	70 (21.4)	7 (2.1)	327 (100.0)
無回答	108 (63.9)	11 (6.5)	2 (1.2)	48 (28.4)	169 (100.0)
女性計	31866 (90.9)	2687 (7.7)	199 (.6)	304 (.9)	35056 (100.0)
( $\chi^2=3268.01677$ , $df=2$ , $p=.00000$ )					
<b>全 体</b>					
「シナ-」経験・なし	64902 (92.3)	4569 (6.5)	431 (.6)	441 (.6)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	380 (39.7)	344 (36.0)	213 (22.3)	19 (2.0)	956 (100.0)
無回答	313 (63.0)	35 (7.0)	14 (2.8)	135 (27.2)	497 (100.0)
全 体	65595 (91.4)	4948 (6.9)	658 (.9)	595 (.8)	71796 (100.0)
( $\chi^2=6462.74301$ , $df=2$ , $p=.00000$ )					

表11 「シンナー遊び」をしている人についてどう思いますか？

	親しくなり たくない	シナ-だけで決 めたくない	すでに親しい	無回答	全 体
<b>男 性</b>					
「シナ-」経験・なし	23839 (66.6)	11450 (32.0)	334 (.9)	160 (.4)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	180 (28.6)	252 (40.1)	187 (29.7)	10 (1.6)	629 (100.0)
無回答	146 (44.5)	83 (25.3)	5 (1.5)	94 (28.7)	328 (100.0)
男性計	24165 (65.8)	11785 (32.1)	526 (1.4)	264 (.7)	36740 (100.0)
( $\chi^2=3771.90361$ , $df=2$ , $p=.00000$ )					
<b>女 性</b>					
「シナ-」経験・なし	20666 (59.8)	13452 (38.9)	288 (.8)	154 (.4)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	66 (20.2)	151 (46.2)	100 (30.6)	10 (3.1)	327 (100.0)
無回答	71 (42.0)	52 (30.8)	2 (1.2)	44 (26.0)	169 (100.0)
女性計	20803 (59.3)	13655 (39.0)	390 (1.1)	208 (.6)	35056 (100.0)
( $\chi^2=2737.71014$ , $df=2$ , $p=.00000$ )					
<b>全 体</b>					
「シナ-」経験・なし	44505 (63.3)	24902 (35.4)	622 (.9)	314 (.4)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	246 (25.7)	403 (42.2)	287 (30.0)	20 (2.1)	956 (100.0)
無回答	217 (43.7)	135 (27.2)	7 (1.4)	138 (27.8)	497 (100.0)
全 体	44968 (62.6)	25440 (35.4)	916 (1.3)	472 (.7)	71796 (100.0)
( $\chi^2=6610.49869$ , $df=2$ , $p=.00000$ )					

表12 「シンナー遊び」をしている人と親しくなる事についてどう思いますか？

(6) 「シンナー遊び」をする理由について

『シンナー遊び』をしている人たちは、どうして『シンナー遊び』をするのだと思いますか?との問いに対する回答の分布を表13に示した。

非経験者群では、男女ともに「本人に問題があるから」ないしは「家庭に問題があるから」が上位2つを占めたが、女子では「家庭に問題があるから」を選んだ者の多さが目立った。

一方、経験者群では男子では、4つの選択枝の割合には、ほとんど違いがなく、女子では「家庭に問題があるから」「学校に問題があるから」が上位2つとなった。

女子では、有機溶剤乱用の経験に関わらず、「家庭に問題があるから」を重要視する傾向が男子よりは強い傾向が伺われた。

3. 有機溶剤乱用による医学的害について

(1) 「シンナー」吸引による急性中毒死について

『シンナー遊び』で死亡すること（急性中毒死）があるのを知っていますか?との問いに対する回答の分布を表14に示した。

回答の分布には、男女ともに有意差が認められず、男子では、むしろ経験者群の方で「知っている」者が多かった。この経験者群の方で急性中毒死を知っている者が多いと言う結果は、これまでに報告された結果と同様であり<sup>4)11)12)13)</sup>、知識教育のいっそうの充実の必要性と共に、「知識が行動に結びつくとは限らない」という薬物乱用・依存問題の重要な問題性を提起しており、薬物乱用防止教育実施の際には考慮すべき点であると考えられる。

	本人に問題	家庭に問題	学校に問題	社会に問題	全 体
<b>男 性</b>					
「シナ-」経験・なし	21944 (61.3)	19293 (53.9)	12807 (35.8)	12257 (34.3)	35783(100.0)
「シナ-」経験・あり	283 (45.0)	303 (48.2)	295 (46.9)	281 (44.7)	629(100.0)
無回答	161 (49.1)	142 (43.3)	99 (30.2)	92 (28.0)	328(100.0)
男性計	22388 (60.9)	19738 (53.7)	13201 (35.9)	12630 (34.4)	36740(100.0)
$\chi^2$	69.34292	8.20836	33.11692	29.72942	
df	1	1	1	1	
p	.00000	.00417	.00000	.00000	
<b>女 性</b>					
「シナ-」経験・なし	19034 (55.1)	24893 (72.0)	16236 (47.0)	12249 (35.4)	34560(100.0)
「シナ-」経験・あり	131 (40.1)	211 (64.5)	180 (55.0)	135 (41.3)	327(100.0)
無回答	73 (43.2)	104 (61.5)	65 (38.5)	57 (33.7)	169(100.0)
女性計	19238 (54.9)	25208 (71.9)	16481 (47.0)	12441 (35.5)	35056(100.0)
$\chi^2$	29.49615	9.03579	8.46096	4.82794	
df	1	1	1	1	
p	.00000	.00265	.00363	.02800	
<b>全 体</b>					
「シナ-」経験・なし	40978 (58.3)	44186 (62.8)	29043 (41.3)	24506 (34.8)	70343(100.0)
「シナ-」経験・あり	414 (43.3)	514 (53.8)	475 (49.7)	416 (43.5)	956(100.0)
無回答	234 (47.1)	246 (49.5)	164 (33.0)	149 (30.0)	497(100.0)
全 体	41626 (58.0)	44946 (62.6)	29682 (41.3)	25071 (34.9)	71796(100.0)
$\chi^2$	86.55732	33.02375	27.42206	31.23156	
df	1	1	1	1	
p	.00000	.00000	.00000	.00000	

表13 どうして「シンナー遊び」をするのだと思いますか? (複数回答)

	知っている	知らない	無回答	全 体
男 性				
「シナ-」経験・なし	23397 (65.4)	12330 (34.5)	56 (.2)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	427 (67.9)	198 (31.5)	4 (.6)	629 (100.0)
無回答	161 (49.1)	86 (26.2)	81 (24.7)	328 (100.0)
男性計	23985 (65.3)	12614 (34.3)	141 (.4)	36740 (100.0)
				( $\chi^2=2.18076$ , $df=1$ , $p=.13975$ )
女 性				
「シナ-」経験・なし	24283 (70.3)	10226 (29.6)	51 (.1)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	214 (65.4)	109 (33.3)	4 (1.2)	327 (100.0)
無回答	81 (47.9)	48 (28.4)	40 (23.7)	169 (100.0)
女性計	24578 (70.1)	10383 (29.6)	95 (.3)	35056 (100.0)
				( $\chi^2=2.59458$ , $df=1$ , $p=.10723$ )
全 体				
「シナ-」経験・なし	47680 (67.8)	22556 (32.1)	107 (.2)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	641 (67.1)	307 (32.1)	8 (.8)	956 (100.0)
無回答	242 (48.7)	134 (27.0)	121 (24.3)	497 (100.0)
全 体	48563 (67.6)	22997 (32.0)	236 (.3)	71796 (100.0)
				( $\chi^2=.03113$ , $df=1$ , $p=.85994$ )

表14 「シンナー遊び」による急性中毒死を知っていますか？

	知っている	知らない	無回答	全 体
男 性				
「シナ-」経験・なし	18972 (53.0)	16542 (46.2)	269 (.8)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	420 (66.8)	198 (31.5)	11 (1.7)	629 (100.0)
無回答	157 (47.9)	127 (38.7)	44 (13.4)	328 (100.0)
男性計	19549 (53.2)	16867 (45.9)	324 (.9)	36740 (100.0)
				( $\chi^2=51.64515$ , $df=1$ , $p=.00000$ )
女 性				
「シナ-」経験・なし	17617 (51.0)	16794 (48.6)	149 (.4)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	203 (62.1)	119 (36.4)	5 (1.5)	327 (100.0)
無回答	76 (45.0)	83 (49.1)	10 (5.9)	169 (100.0)
女性計	17896 (51.0)	16996 (48.5)	164 (.5)	35056 (100.0)
				( $\chi^2=17.92383$ , $df=1$ , $p=.00002$ )
全 体				
「シナ-」経験・なし	36589 (52.0)	33336 (47.4)	418 (.6)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	623 (65.2)	317 (33.2)	16 (1.7)	956 (100.0)
無回答	233 (46.9)	210 (42.3)	54 (10.9)	497 (100.0)
全 体	37445 (52.2)	33863 (47.2)	488 (.7)	71796 (100.0)
				( $\chi^2=72.38805$ , $df=1$ , $p=.00000$ )

表15 「シンナー遊び」を繰り返すと、歯がぼろぼろになりやすいことを知っていますか？

(2) 「シンナー」吸引の繰り返しによる歯の腐食について

『シンナー遊び』を繰り返すと、歯がぼろぼろになりやすことを知っていますか?との問いに対する回答の分布を表15に示した。

回答の分布には、男女ともに有意差が認められ ( $p < 0.01$ )、経験者群の方で、「知っている」を選んだ者が有意に多かった。ここでも、急性中毒死についてと同様のことが言えよう。

また、この害について、未経験者群の約半数弱が知らないを選んだという結果は憂慮すべき結果である。

(3) 「シンナー」吸引の繰り返しによる多発神経炎について

『シンナー遊び』を繰り返すと、手足の筋肉や神経が衰え、物をつかめなかつたり、歩けなくなる(多発神経炎)があるのを知っていますか?との問いに対する回答の分布を表16に示した。

回答の分布には、男子では、有意差 ( $p < 0.01$ ) をもって、経験者群の方で「知っている」を選んだ者が多かった。

この多発神経炎は有機溶剤乱用による身体的害の中でも最も重篤な害の一つであるが、未経験者群で「知っている」を選んだ者の割合は、男子で60.5%、女子で65.9%であり、今後の薬物乱用防止に関する知識教育の課題の一つと言えよう。

(4) 「シンナー」吸引の繰り返しによる有機溶剤精神病について

『シンナー遊び』を繰り返すと、何も無いのに物が見えたり(幻視)、実際には何も聞こえないのに、声が聞こえたり(幻聴)、誰も何とも思っていないのに、人が自分の事を非難していると思ひ込んだり(妄想)する状態(精神病状態)になることがあるのを知っていますか?との問いに対する回答の分布を表17に示した。

回答の分布には、女子では有意差が認められ、経験者群で「知っている」を選んだ者が多い傾向が伺われたが、男子では有意差は認められなかつ

	知っている	知らない	無回答	全体
男 性				
「シナ-」経験・なし	21637 (60.5)	13820 (38.6)	326 (.9)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	411 (65.3)	203 (32.3)	15 (2.4)	629 (100.0)
無回答	159 (48.5)	119 (36.3)	50 (15.2)	328 (100.0)
男性計	22207 (60.4)	14142 (38.5)	391 (1.1)	36740 (100.0)
				( $\chi^2=8.88614$ , $df=1$ , $p=.00287$ )
女 性				
「シナ-」経験・なし	22771 (65.9)	11606 (33.6)	183 (.5)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	196 (59.9)	125 (38.2)	6 (1.8)	327 (100.0)
無回答	79 (46.7)	77 (45.6)	13 (7.7)	169 (100.0)
女性計	23046 (65.7)	11808 (33.7)	202 (.6)	35056 (100.0)
				( $\chi^2=3.81307$ , $df=1$ , $p=.05085$ )
全 体				
「シナ-」経験・なし	44408 (63.1)	25426 (36.1)	509 (.7)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	607 (63.5)	328 (34.3)	21 (2.2)	956 (100.0)
無回答	238 (47.9)	196 (39.4)	63 (12.7)	497 (100.0)
全 体	45253 (63.0)	25950 (36.1)	593 (.8)	71796 (100.0)
				( $\chi^2=.70398$ , $df=1$ , $p=.40145$ )

表16 「シンナー遊び」を繰り返すと、多発神経炎になることがあるのを知っていますか?

	知っている	知らない	無回答	全体
男 性				
「シナ-」経験・なし	26019 (72.7)	9411 (26.3)	353 (1.0)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	454 (72.2)	158 (25.1)	17 (2.7)	629 (100.0)
無回答	177 (54.0)	101 (30.8)	50 (15.2)	328 (100.0)
男性計	26650 (72.5)	9670 (26.3)	420 (1.1)	36740 (100.0)
				( $\chi^2 = .17134$ , $df=1$ , $p = .67892$ )
女 性				
「シナ-」経験・なし	26238 (75.9)	8118 (23.5)	204 (.6)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	223 (68.2)	98 (30.0)	6 (1.8)	327 (100.0)
無回答	98 (58.0)	58 (34.3)	13 (7.7)	169 (100.0)
女性計	26559 (75.8)	8274 (23.6)	223 (.6)	35056 (100.0)
				( $\chi^2 = 8.37622$ , $df=1$ , $p = .00380$ )
全 体				
「シナ-」経験・なし	52257 (74.3)	17529 (24.9)	557 (.8)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	677 (70.8)	256 (26.8)	23 (2.4)	956 (100.0)
無回答	275 (55.3)	159 (32.0)	63 (12.7)	497 (100.0)
全 体	53209 (74.1)	17944 (25.0)	643 (.9)	71796 (100.0)
				( $\chi^2 = 2.63288$ , $df=1$ , $p = .10467$ )

表17 「シンナー遊び」を繰り返すと、精神病状態になることがあるのを知っていますか？

	知っている	知らない	無回答	全体
男 性				
「シナ-」経験・なし	16170 (45.2)	19067 (53.3)	546 (1.5)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	352 (56.0)	260 (41.3)	17 (2.7)	629 (100.0)
無回答	113 (34.5)	160 (48.8)	55 (16.8)	328 (100.0)
男性計	16635 (45.3)	19487 (53.0)	618 (1.7)	36740 (100.0)
				( $\chi^2 = 32.72965$ , $df=1$ , $p = .00000$ )
女 性				
「シナ-」経験・なし	18322 (53.0)	15900 (46.0)	338 (1.0)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	176 (53.8)	143 (43.7)	8 (2.4)	327 (100.0)
無回答	71 (42.0)	82 (48.5)	16 (9.5)	169 (100.0)
女性計	18569 (53.0)	16125 (46.0)	362 (1.0)	35056 (100.0)
				( $\chi^2 = .33915$ , $df=1$ , $p = .56032$ )
全 体				
「シナ-」経験・なし	34492 (49.0)	34967 (49.7)	884 (1.3)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	528 (55.2)	403 (42.2)	25 (2.6)	956 (100.0)
無回答	184 (37.0)	242 (48.7)	71 (14.3)	497 (100.0)
全 体	35204 (49.0)	35612 (49.6)	980 (1.4)	71796 (100.0)
				( $\chi^2 = 18.29150$ , $df=1$ , $p = .00000$ )

表18 「シンナー遊び」を繰り返すと、無動機症候群になることがあるのを知っていますか？

た。この結果は、第1回全国調査と同じである<sup>9)</sup>。

有機溶剤精神病は有機溶剤乱用による害の中で、無動機症候群、フラッシュバックと並んで、重篤な精神的障害の一つであると考えられるが、これについても、さらに教育していく必要性が示唆された。

#### (5) 「シンナー」吸引の繰り返しによる無動機症候群について

『シンナー遊び』を繰り返すと、何事にも関心が持てなくなり、結果的に学校を欠席しがちになり、どんな仕事についても長続きしなくなる（無動機症候群）を知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表18に示した。

男子では、有意差が認められ ( $P < 0.01$ )、「知っている」を選んだ者は経験者群の方で多かった。

この無動機症候群は有機溶剤乱用による害の中でも、特に重篤なものと考えられるが、これまでに述べた害の中でも、この無動機症候群についての知識普及率が最も低く、身体への害知識の普及に、ややもすれば傾きがちな薬物乱用防止教育の

今後の最大の課題であろうと考えられる。

#### (6) 有機溶剤精神病後のフラッシュバックについて

『シンナー遊び』の結果、幻視、幻聴、妄想が出るようになってしまうと、それを治療して治っても、その後「シンナー遊び」をやめていても、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻視、幻聴、妄想が再出現すること（フラッシュバック）があるのを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表19に示した。

回答の分布には男女共に有意差が認められ ( $P < 0.05$ )、男女共に、この知識をより有しているのは経験者群の方であった。しかも、男女共に「知らない」を選んだ者が、未経験者群では50%を上回っており、これも、今後の薬物乱用防止に関する知識教育の課題の一つと言えよう。

### 4. 有機溶剤乱用と日常生活の規則性について

#### (1) 起床時間について

「起床時間は、ほぼ一定していますか？」との問

	知っている	知らない	無回答	全体
<b>男 性</b>				
「シナ-」経験・なし	16962 (47.4)	18473 (51.6)	348 (1.0)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	374 (59.5)	239 (38.0)	16 (2.5)	629 (100.0)
無回答	107 (32.6)	173 (52.7)	48 (14.6)	328 (100.0)
男性計	17443 (47.5)	18885 (51.4)	412 (1.1)	36740 (100.0)
( $\chi^2=41.69908$ , $df=1$ , $p=.00000$ )				
<b>女 性</b>				
「シナ-」経験・なし	16012 (46.3)	18347 (53.1)	201 (.6)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	172 (52.6)	149 (45.6)	6 (1.8)	327 (100.0)
無回答	56 (33.1)	101 (59.8)	12 (7.1)	169 (100.0)
女性計	16240 (46.3)	18597 (53.0)	219 (.6)	35056 (100.0)
( $\chi^2=6.22636$ , $df=1$ , $p=.01259$ )				
<b>全 体</b>				
「シナ-」経験・なし	32974 (46.9)	36820 (52.3)	549 (.8)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	546 (57.1)	388 (40.6)	22 (2.3)	956 (100.0)
無回答	163 (32.8)	274 (55.1)	60 (12.1)	497 (100.0)
全 体	33683 (46.9)	37482 (52.2)	631 (.9)	71796 (100.0)
( $\chi^2=46.48341$ , $df=1$ , $p=.00000$ )				

表19 「シンナー遊び」の結果、フラッシュバックが起こることがあるのを知っていますか？

	はい	いいえ	無回答	全 体
男 性				
「シナ-」経験・なし	28906 (80.8)	6772 (18.9)	105 (.3)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	372 (59.1)	252 (40.1)	5 (.8)	629 (100.0)
無回答	240 (73.2)	74 (22.6)	14 (4.3)	328 (100.0)
男性計	29518 (80.3)	7098 (19.3)	124 (.3)	36740 (100.0)
				( $\chi^2=180.03987$ , $df=1$ , $p=.00000$ )
女 性				
「シナ-」経験・なし	29494 (85.3)	4976 (14.4)	90 (.3)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	181 (55.4)	142 (43.4)	4 (1.2)	327 (100.0)
無回答	119 (70.4)	45 (26.6)	5 (3.0)	169 (100.0)
女性計	29794 (85.0)	5163 (14.7)	99 (.3)	35056 (100.0)
				( $\chi^2=222.37526$ , $df=1$ , $p=.00000$ )
全 体				
「シナ-」経験・なし	58400 (83.0)	11748 (16.7)	195 (.3)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	553 (57.8)	394 (41.2)	9 (.9)	956 (100.0)
無回答	359 (72.2)	119 (23.9)	19 (3.8)	497 (100.0)
全 体	59312 (82.6)	12261 (17.1)	223 (.3)	71796 (100.0)
				( $\chi^2=407.68741$ , $df=1$ , $p=.00000$ )

表 20 あなたの起床時間は、ほぼ一定していますか？

	はい	いいえ	無回答	全 体
男 性				
「シナ-」経験・なし	18034 (50.4)	17580 (49.1)	169 (.5)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	210 (33.4)	416 (66.1)	3 (.5)	629 (100.0)
無回答	163 (49.7)	150 (45.7)	15 (4.6)	328 (100.0)
男性計	18407 (50.1)	18146 (49.4)	187 (.5)	36740 (100.0)
				( $\chi^2=71.88287$ , $df=1$ , $p=.00000$ )
女 性				
「シナ-」経験・なし	17661 (51.1)	16748 (48.5)	151 (.4)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	79 (24.2)	245 (74.9)	3 (.9)	327 (100.0)
無回答	68 (40.2)	96 (56.8)	5 (3.0)	169 (100.0)
女性計	17808 (50.8)	17089 (48.7)	159 (.5)	35056 (100.0)
				( $\chi^2=93.25216$ , $df=1$ , $p=.00000$ )
全 体				
「シナ-」経験・なし	35695 (50.7)	34328 (48.8)	320 (.5)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	289 (30.2)	661 (69.1)	6 (.6)	956 (100.0)
無回答	231 (46.5)	246 (49.5)	20 (4.0)	497 (100.0)
全 体	36215 (50.4)	35235 (49.1)	346 (.5)	71796 (100.0)
				( $\chi^2=158.43598$ , $df=1$ , $p=.00000$ )

表 21 あなたの就寝時間は、ほぼ一定していますか？



いに対する回答の分布を表20に示した。

男女ともに、非経験者群では80%台の者が一定しているを選んだのに対して、経験者群では、55～58%の者が一定していないを選んだ。男女共に、経験者群の起床時間は非経験者群のそれに比べて、有意 ( $p < 0.01$ ) に乱れていた。

### (2) 就床時間について

「就床時間は、ほぼ一定していますか？」との問いに対する回答の分布を表21に示した。

男女ともに、非経験者群では50～51%の者が一定しているを選んだのに対して、経験者群では、約66～75%の者が一定していないを選んだ。

男女共に、経験者群の就床時間は非経験者群のそれに比べて、有意 ( $p < 0.01$ ) に乱れていた。

### (3) 朝食について

「毎朝、朝食を食べていますか？」との問いに対する回答の分布を表22に示した。

非経験者群では男女ともに80%台の者が「ほとんど毎日 (食べている)」を選んだのに対して、経験者群では、男女ともに「ほとんど毎日 (食べている)」を選んだ者は55～58%であった。

男女共に、経験者群では、非経験者群に比べて、朝食頻度が有意 ( $p < 0.01$ ) に低いと解釈できる。

## 5. 有機溶剤乱用と学校生活について

### (1) 学校生活について

「あなたにとって、学校生活は次のどれですか？」との問いに対する回答を表23に示した。

男女共に、経験者群と非経験者群とでは、回答の分布に有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、「全く楽しくない」を選んだ者は、非経験者群では、男子で5%、女子で約4%であったが、経験者群では男子

	ほとんど毎日 食べている	時々食べる	ほとんど 食べない	無回答	全 体
<b>男 性</b>					
「シナ-」 経験・なし	29090 (81.3)	4335 (12.1)	2258 (6.3)	100 (.3)	35783 (100.0)
「シナ-」 経験・あり	366 (58.2)	128 (20.3)	130 (20.7)	5 (.8)	629 (100.0)
無回答	235 (71.6)	46 (14.0)	36 (11.0)	11 (3.4)	328 (100.0)
男性計	29691 (80.8)	4509 (12.3)	2424 (6.6)	116 (.3)	36740 (100.0)
	( $\chi^2 = 270.62591$ , $df=2$ , $p=.00000$ )				
<b>女 性</b>					
「シナ-」 経験・なし	29259 (84.7)	3632 (10.5)	1575 (4.6)	94 (.3)	34560 (100.0)
「シナ-」 経験・あり	180 (55.0)	66 (20.2)	77 (23.5)	4 (1.2)	327 (100.0)
無回答	124 (73.4)	28 (16.6)	13 (7.7)	4 (2.4)	169 (100.0)
女性計	29563 (84.3)	3726 (10.6)	1665 (4.7)	102 (.3)	35056 (100.0)
	( $\chi^2 = 311.85952$ , $df=2$ , $p=.00000$ )				
<b>全 体</b>					
「シナ-」 経験・なし	58349 (82.9)	7967 (11.3)	3833 (5.4)	194 (.3)	70343 (100.0)
「シナ-」 経験・あり	546 (57.1)	194 (20.3)	207 (21.7)	9 (.9)	956 (100.0)
無回答	359 (72.2)	74 (14.9)	49 (9.9)	15 (3.0)	497 (100.0)
全 体	59254 (82.5)	8235 (11.5)	4089 (5.7)	218 (.3)	71796 (100.0)
	( $\chi^2 = 583.26705$ , $df=2$ , $p=.00000$ )				

表 22 毎朝、朝食を食べていますか？

	とても 楽しい	どちらかと いえば楽しい	あまり 楽しくない	まったく 楽しくない	無回答	全 体
男 性						
「シナ-」経験・なし	9975 (27.9)	18219 (50.9)	5681 (15.9)	1833 (5.1)	75 (.2)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	140 (22.3)	186 (29.6)	148 (23.5)	150 (23.8)	5 (.8)	629 (100.0)
無回答	75 (22.9)	149 (45.4)	62 (18.9)	32 (9.8)	10 (3.0)	328 (100.0)
男性計	10190 (27.7)	18554 (50.5)	5891 (16.0)	2015 (5.5)	90 (.2)	36740 (100.0)
	( $\chi^2=486.04765$ , $df=3$ , $p=.00000$ )					
女 性						
「シナ-」経験・なし	10741 (31.1)	16345 (47.3)	6047 (17.5)	1341 (3.9)	86 (.2)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	66 (20.2)	101 (30.9)	61 (18.7)	96 (29.4)	3 (.9)	327 (100.0)
無回答	42 (24.9)	72 (42.6)	38 (22.5)	13 (7.7)	4 (2.4)	169 (100.0)
女性計	10849 (30.9)	16518 (47.1)	6146 (17.5)	1450 (4.1)	93 (.3)	35056 (100.0)
	( $\chi^2=545.21676$ , $df=3$ , $p=.00000$ )					
全 体						
「シナ-」経験・なし	20716 (29.4)	34564 (49.1)	11728 (16.7)	3174 (4.5)	161 (.2)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	206 (21.5)	287 (30.0)	209 (21.9)	246 (25.7)	8 (.8)	956 (100.0)
無回答	117 (23.5)	221 (44.5)	100 (20.1)	45 (9.1)	14 (2.8)	497 (100.0)
全 体	21039 (29.3)	35072 (48.8)	12037 (16.8)	3465 (4.8)	183 (.3)	71796 (100.0)
	( $\chi^2=997.03711$ , $df=3$ , $p=.00000$ )					

表 23 あなたにとって、学校生活は次のどれですか？

	積極的に参加	消極的に参加	参加して いない	無回答	全 体
男 性					
「シナ-」経験・なし	23363 (65.3)	5917 (16.5)	6184 (17.3)	319 (.9)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	268 (42.6)	132 (21.0)	225 (35.8)	4 (.6)	629 (100.0)
無回答	184 (56.1)	58 (17.7)	67 (20.4)	19 (5.8)	328 (100.0)
男性計	23815 (64.8)	6107 (16.6)	6476 (17.6)	342 (.9)	36740 (100.0)
	( $\chi^2=175.98547$ , $df=2$ , $p=.00000$ )				
女 性					
「シナ-」経験・なし	22474 (65.0)	6244 (18.1)	5527 (16.0)	315 (.9)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	115 (35.2)	78 (23.9)	130 (39.8)	4 (1.2)	327 (100.0)
無回答	88 (52.1)	33 (19.5)	44 (26.0)	4 (2.4)	169 (100.0)
女性計	22677 (64.7)	6355 (18.1)	5701 (16.3)	323 (.9)	35056 (100.0)
	( $\chi^2=163.90312$ , $df=2$ , $p=.00000$ )				
全 体					
「シナ-」経験・なし	45837 (65.2)	12161 (17.3)	11711 (16.6)	634 (.9)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	383 (40.1)	210 (22.0)	355 (37.1)	8 (.8)	956 (100.0)
無回答	272 (54.7)	91 (18.3)	111 (22.3)	23 (4.6)	497 (100.0)
全 体	46492 (64.8)	12462 (17.4)	12177 (17.0)	665 (.9)	71796 (100.0)
	( $\chi^2=337.23036$ , $df=2$ , $p=.00000$ )				

表 24 クラブ活動(部活)に参加していますか？

で24%、女子で29%であった。

経験者群に「楽しくない」傾向の者が有意に多いと解釈できる。

## (2) クラブ活動について

「クラブ活動（部活）に参加していますか？」との問いに対する回答の分布を表24に示した。

男女共に、経験者群と非経験者群との間には、

回答の分布に有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、非経験者群で「参加していない」を選んだ者は、男子で17%、女子で16%であったのに対して、経験者群では、男子で約36%、女子で40%の者が「参加していない」を選んだ。

経験者群の方で、クラブ活動（部活）に参加していない者の割合が有意に高い傾向にあると解釈できる。

	ほとんど毎日	5～6回	4回前後	3回前後	2回前後	ほとんど食べない	無回答	全体
<b>男 性</b>								
「シナ-」経験・なし	13214 (36.9)	3891 (10.9)	4039 (11.3)	3454 (9.7)	5336 (14.9)	5589 (15.6)	260 (.7)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	186 (29.6)	58 (9.2)	57 (9.1)	60 (9.5)	75 (11.9)	189 (30.0)	4 (.6)	629 (100.0)
無回答	125 (38.1)	39 (11.9)	34 (10.4)	22 (6.7)	31 (9.5)	58 (17.7)	19 (5.8)	328 (100.0)
男性計	13525 (36.8)	3988 (10.9)	4130 (11.2)	3536 (9.6)	5442 (14.8)	5836 (15.9)	283 (.8)	36740 (100.0)
( $\chi^2 = 98.10216$ , $df=5$ , $p=.00000$ )								
<b>女 性</b>								
「シナ-」経験・なし	13066 (37.8)	3591 (10.4)	3602 (10.4)	3067 (8.9)	5486 (15.9)	5504 (15.9)	244 (.7)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	70 (21.4)	36 (11.0)	37 (11.3)	27 (8.3)	37 (11.3)	117 (35.8)	3 (.9)	32 (100.0)
無回答	64 (37.9)	11 (6.5)	14 (8.3)	19 (11.2)	18 (10.7)	37 (21.9)	6 (3.6)	16 (100.0)
女性計	13200 (37.7)	3638 (10.4)	3653 (10.4)	3113 (8.9)	5541 (15.8)	5658 (16.1)	253 (.7)	3505 (100.0)
( $\chi^2 = 107.37043$ , $df=5$ , $p=.00000$ )								
<b>全 体</b>								
「シナ-」経験・なし	26280 (37.4)	7482 (10.6)	7641 (10.9)	6521 (9.3)	10822 (15.4)	11093 (15.8)	504 (.7)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	256 (26.8)	94 (9.8)	94 (9.8)	87 (9.1)	112 (11.7)	306 (32.0)	7 (.7)	956 (100.0)
無回答	189 (38.0)	50 (10.1)	48 (9.7)	41 (8.2)	49 (9.9)	95 (19.1)	25 (5.0)	497 (100.0)
全 体	26725 (37.2)	7626 (10.6)	7783 (10.8)	6649 (9.3)	10983 (15.3)	11494 (16.0)	536 (.7)	71796 (100.0)
( $\chi^2 = 193.77223$ , $df=5$ , $p=.00000$ )								

表 25 夕食を週何回くらい家族全員で食べますか？

## 6. 有機溶剤乱用と家庭生活について

### (1) 家族との夕食頻度

夕食には、「一家団らん」としての意味合いが本来あると考え、一週間における家族での夕食頻度を調査した。

「夕食を週何回くらい家族全員で食べますか？」との問いに対する回答の分布を表25に、また「母

親と週何回くらい夕食を食べますか？」「父親と週何回くらい夕食を食べますか？」の問いに対する回答の分布を、それぞれ表26、表27に示した。

すべての場合において、回答の分布には有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、かつ、「ほとんど毎日」食べるを選んだ者の割合は、常に「シンナー遊び」経験者群で明らかに低かった。同時に、両群間では、「ほとんど食べる」を選んだ者の割合の差よりは、むしろ「ほとんど食べない」、ないしは「母

	ほとんど毎日	5～6回	4回前後	3回前後	2回前後	ほとんど食べない	母親がいらない	無回答	全体
<b>男 性</b>									
「シンナ-」経験・なし	20065 (56.1)	4494 (12.6)	3270 (9.1)	2108 (5.9)	2057 (5.7)	2550 (7.1)	692 (1.9)	547 (1.5)	35783 (100.0)
「シンナ-」経験・あり	245 (39.0)	69 (11.0)	62 (9.9)	36 (5.7)	48 (7.6)	123 (19.6)	32 (5.1)	14 (2.2)	629 (100.0)
無回答	145 (44.2)	43 (13.1)	35 (10.7)	11 (3.4)	18 (5.5)	48 (14.6)	11 (3.4)	17 (5.2)	328 (100.0)
男性計	20455 (55.7)	4606 (12.5)	3367 (9.2)	2155 (5.9)	2123 (5.8)	2721 (7.4)	735 (2.0)	578 (1.6)	36740 (100.0)
( $\chi^2=200.23007$ , $df=6$ , $p=.00000$ )									
<b>女 性</b>									
「シンナ-」経験・なし	22032 (63.8)	3721 (10.8)	2551 (7.4)	1629 (4.7)	1657 (4.8)	1854 (5.4)	669 (1.9)	447 (1.3)	34560 (100.0)
「シンナ-」経験・あり	118 (36.1)	36 (11.0)	28 (8.6)	18 (5.5)	23 (7.0)	63 (19.3)	33 (10.1)	8 (2.4)	327 (100.0)
無回答	100 (59.2)	11 (6.5)	14 (8.3)	8 (4.7)	7 (4.1)	20 (11.8)	4 (2.4)	5 (3.0)	169 (100.0)
女性計	22250 (63.5)	3768 (10.7)	2593 (7.4)	1655 (4.7)	1687 (4.8)	1937 (5.5)	706 (2.0)	460 (1.3)	35056 (100.0)
( $\chi^2=267.51420$ , $df=6$ , $p=.00000$ )									
<b>全 体</b>									
「シンナ-」経験・なし	42097 (59.8)	8215 (11.7)	5821 (8.3)	3737 (5.3)	3714 (5.3)	4404 (6.3)	1361 (1.9)	994 (1.4)	70343 (100.0)
「シンナ-」経験・あり	363 (38.0)	105 (11.0)	90 (9.4)	54 (5.6)	71 (7.4)	186 (19.5)	65 (6.8)	22 (2.3)	956 (100.0)
無回答	245 (49.3)	54 (10.9)	49 (9.9)	19 (3.8)	25 (5.0)	68 (13.7)	15 (3.0)	22 (4.4)	497 (100.0)
全 体	42705 (59.5)	8374 (11.7)	5960 (8.3)	3810 (5.3)	3810 (5.3)	4658 (6.5)	1441 (2.0)	1038 (1.4)	71796 (100.0)
( $\chi^2=456.65333$ , $df=6$ , $p=.00000$ )									

表 26 母親と週何回くらい夕食を食べますか？

親・父親がいない（死別、離婚、別居、単身赴任など）」を選んだ者の割合の差が大きいことが目立った。

すなわち、「家族全員での夕食頻度」では「ほとんど食べない」を選んだ者は、非経験者群では男女共に16%であったのに対して、経験者群では、男子で30%、女子で36%であった。「母親との夕食頻度」では、「ほとんど食べない」ないしは「母親がいない」を選んだ者は、非経験者群では男子

で9%、女子で7%であったのに対して、経験者群では、男子で25%、女子で29%であった。また、「父親との夕食頻度」では、「ほとんど食べない」ないしは「父親がいない」と答えた者は、非経験者群では男子で23%、女子で24%であったのに対して、経験者群では、男子で41%、女子で47%であった。

また、「父親との夕食頻度」は、「家族全員での夕食頻度」より低く、これは論理の矛盾であるが、この矛盾は、この種の調査で毎回認められている

	ほとんど 毎日	5～6回	4回 前後	3回 前後	2回 前後	ほとんど 食べない	父親が いない	無回答	全体
<b>男 性</b>									
「シナ-」経験・なし	9227 (25.8)	4035 (11.3)	3910 (10.9)	3655 (10.2)	6159 (17.2)	5311 (14.8)	3019 (8.4)	467 (1.3)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	126 (20.0)	47 (7.5)	56 (8.9)	49 (7.8)	82 (13.0)	171 (27.2)	87 (13.8)	11 (1.7)	629 (100.0)
無回答	82 (25.0)	38 (11.6)	34 (10.4)	24 (7.3)	39 (11.9)	60 (18.3)	31 (9.5)	20 (6.1)	328 (100.0)
男性計	9435 (25.7)	4120 (11.2)	4000 (10.9)	3728 (10.1)	6280 (17.1)	5542 (15.1)	3137 (8.5)	498 (1.4)	36740 (100.0)
( $\chi^2=112.25158$ , $df=6$ , $p=.00000$ )									
<b>女 性</b>									
「シナ-」経験・なし	9000 (26.0)	3976 (11.5)	3648 (10.6)	3251 (9.4)	5945 (17.2)	4959 (14.3)	3384 (9.8)	397 (1.1)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	45 (13.8)	27 (8.3)	29 (8.9)	26 (8.0)	38 (11.6)	95 (29.1)	59 (18.0)	8 (2.4)	327 (100.0)
無回答	37 (21.9)	16 (9.5)	14 (8.3)	18 (10.7)	14 (8.3)	32 (18.9)	30 (17.8)	8 (4.7)	169 (100.0)
女性計	9082 (25.9)	4019 (11.5)	3691 (10.5)	3295 (9.4)	5997 (17.1)	5086 (14.5)	3473 (9.9)	413 (1.2)	35056 (100.0)
( $\chi^2=101.24434$ , $df=6$ , $p=.00000$ )									
<b>全 体</b>									
「シナ-」経験・なし	18227 (25.9)	8011 (11.4)	7558 (10.7)	6906 (9.8)	12104 (17.2)	10270 (14.6)	6403 (9.1)	864 (1.2)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	171 (17.9)	74 (7.7)	85 (8.9)	75 (7.8)	120 (12.6)	266 (27.8)	146 (15.3)	19 (2.0)	956 (100.0)
無回答	119 (23.9)	54 (10.9)	48 (9.7)	42 (8.5)	53 (10.7)	92 (18.5)	61 (12.3)	28 (5.6)	497 (100.0)
全 体	18517 (25.8)	8139 (11.3)	7691 (10.7)	7023 (9.8)	12277 (17.1)	10628 (14.8)	6610 (9.2)	911 (1.3)	71796 (100.0)
( $\chi^2=205.48371$ , $df=6$ , $p=.00000$ )									

表 27 父親と週何回くらい夕食を食べますか？

ことである<sup>11)12)13)</sup>。我が国の社会環境の中で、父親が夕食時に帰宅できない事情がかなり定着しており、家族全員での夕食と言ったときには、中学生の解釈では、父親は既に含まれていない傾向が強いことを示していると解釈できる。

いずれにしても、経験者群では、非経験者群に比べて、家族との夕食頻度が有意 ( $p < 0.01$ ) に少ないと解釈できる。

## (2) 家庭の円満さについて

「あなたの家庭は『うまくいっている』と思いますか?」との問いに対する回答の分布を表28に示した。

男女ともに、経験者群と非経験者群との間には、回答の分布に有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、「うまくいっていないと思う」を選んだ者の割合は、非経験者群では、男子で5%、女子で6%であったのに対して、経験者群では、男子で20%、女子で28%と大きな違いが認められた。

経験者群で、「うまくいっていない」と考えて

いる者が多いことが示唆された。

## (3) 一日での大人不在の時間について

「学校、塾、習い事、運動での時間以外、大人が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか?」との問いに対する回答の分布を表29に示した。

経験者群、非経験者群間で男女ともに有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められた。非経験者群で「3時間以上」を選んだ者は、男女ともに13~15%であるのに対して、経験者群では男女ともに30~31%であった。

経験者群で、大人不在で過ごす時間が有意に長い傾向があることが示唆された。

## (4) 親との相談について

「悩みごとがある時、親と相談する方だと思いますか?」との問いに対する回答の分布を表30に示した。

男女ともに、回答の分布には有意差 ( $p < 0.01$ )

	うまく いっている	どちらとも 言えない	うまくいって いない	無回答	全 体
<b>男 性</b>					
「シナ-」経験・なし	23115 (64.6)	10365 (29.0)	1769 (4.9)	534 (1.5)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	245 (39.0)	237 (37.7)	125 (19.9)	22 (3.5)	629 (100.0)
無回答	160 (48.8)	91 (27.7)	19 (5.8)	58 (17.7)	328 (100.0)
男性計	23520 (64.0)	10693 (29.1)	1913 (5.2)	614 (1.7)	36740 (100.0)
( $\chi^2=351.00227$ , $df=2$ , $p=.00000$ )					
<b>女 性</b>					
「シナ-」経験・なし	23205 (67.1)	8847 (25.6)	2050 (5.9)	458 (1.3)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	116 (35.5)	112 (34.3)	90 (27.5)	9 (2.8)	327 (100.0)
無回答	85 (50.3)	46 (27.2)	11 (6.5)	27 (16.0)	169 (100.0)
女性計	23406 (66.8)	9005 (25.7)	2151 (6.1)	494 (1.4)	35056 (100.0)
( $\chi^2=308.54463$ , $df=2$ , $p=.00000$ )					
<b>全 体</b>					
「シナ-」経験・なし	46320 (65.8)	19212 (27.3)	3819 (5.4)	992 (1.4)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	361 (37.8)	349 (36.5)	215 (22.5)	31 (3.2)	956 (100.0)
無回答	245 (49.3)	137 (27.6)	30 (6.0)	85 (17.1)	497 (100.0)
全 体	46926 (65.4)	19698 (27.4)	4064 (5.7)	1108 (1.5)	71796 (100.0)
( $\chi^2=639.15723$ , $df=2$ , $p=.00000$ )					

表 28 あなたの家庭は「うまくいっている」と思いますか?

が認められ、非経験者群で「ほとんど相談しない方である」を選んだ者は、男子で39%、女子で30%であったのに対して、経験者群では男女共に47～48%であった。

経験者群の方で、親との相談が少ない傾向にあることが示唆された。

同時に、「シンナー遊び」の経験の有無に関わらず、男女ともに、そもそも、「よく相談する方である」を選んだ者の少なさが目立った。

## 7. 有機溶剤乱用と友人関係について

### (1) 遊び友達について

「親しく遊べる友人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表31に示した。

男女ともに、経験者群と非経験者群との間には有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められた。男女ともに、経験者群の方で、「親しく遊べる友人がいない」を

	なし	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3時間以上	無回答	全体
<b>男 性</b>							
「シンナー」経験・なし	11886 (33.2)	6901 (19.3)	6829 (19.1)	4445 (12.4)	5256 (14.7)	466 (1.3)	35783 (100.0)
「シンナー」経験・あり	165 (26.2)	106 (16.9)	89 (14.1)	64 (10.2)	189 (30.0)	16 (2.5)	629 (100.0)
無回答	65 (19.8)	51 (15.5)	51 (15.5)	33 (10.1)	56 (17.1)	72 (22.0)	328 (100.0)
男性計	12116 (33.0)	7058 (19.2)	6969 (19.0)	4542 (12.4)	5501 (15.0)	554 (1.5)	36740 (100.0)
( $\chi^2 = 120.33748$ , $df=4$ , $p=.00000$ )							
<b>女 性</b>							
「シンナー」経験・なし	14014 (40.5)	5622 (16.3)	5811 (16.8)	4117 (11.9)	4554 (13.2)	442 (1.3)	34560 (100.0)
「シンナー」経験・あり	108 (33.0)	29 (8.9)	46 (14.1)	36 (11.0)	102 (31.2)	6 (1.8)	327 (100.0)
無回答	49 (29.0)	18 (10.7)	19 (11.2)	15 (8.9)	41 (24.3)	27 (16.0)	169 (100.0)
女性計	14171 (40.4)	5669 (16.2)	5876 (16.8)	4168 (11.9)	4697 (13.4)	475 (1.4)	35056 (100.0)
( $\chi^2 = 96.45487$ , $df=4$ , $p=.00000$ )							
<b>全 体</b>							
「シンナー」経験・なし	25900 (36.8)	12523 (17.8)	12640 (18.0)	8562 (12.2)	9810 (13.9)	908 (1.3)	70343 (100.0)
「シンナー」経験・あり	273 (28.6)	135 (14.1)	135 (14.1)	100 (10.5)	291 (30.4)	22 (2.3)	956 (100.0)
無回答	114 (22.9)	69 (13.9)	70 (14.1)	48 (9.7)	97 (19.5)	99 (19.9)	497 (100.0)
全 体	26287 (36.6)	12727 (17.7)	12845 (17.9)	8710 (12.1)	10198 (14.2)	1029 (1.4)	71796 (100.0)
( $\chi^2 = 217.99229$ , $df=4$ , $p=.00000$ )							

表 29 大人が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか？

選んだ生徒が多いのは、これまでの同種の調査結果<sup>4)11)12)13)</sup>と同じであった。

## (2) 相談事のできる友人について

「相談事のできる友人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表32に示した。

男女ともに、経験者群・非経験者群間で有意差 ( $p < 0.05$ ,  $p < 0.01$ ) が認められ、「相談できる友人

は) いない」を選んだ者は、非経験者群の男子で20%、女子で10%であったのに対して、経験者群では男子で28%、女子で21%と、違いが認められた。

経験者群の方で、相談事のできる友人が「いない」傾向がより強いことが示唆された。

## 2. 喫煙について

	よくする	どちらかと言えばする	どちらかと言えばしない	ほとんどしない	親がいない	無回答	全体
<b>男 性</b>							
「シナ-」経験・なし	3122 (8.7)	7940 (22.2)	10157 (28.4)	13799 (38.6)	110 (.3)	655 (1.8)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	50 (7.9)	64 (10.2)	160 (25.4)	298 (47.4)	37 (5.9)	20 (3.2)	629 (100.0)
無回答	22 (6.7)	54 (16.5)	76 (23.2)	104 (31.7)	2 (.6)	70 (21.3)	328 (100.0)
男性計	3194 (8.7)	8058 (21.9)	10393 (28.3)	14201 (38.7)	149 (.4)	745 (2.0)	36740 (100.0)
( $\chi^2 = 538.21949$ , $df=4$ , $p=.00000$ )							
<b>女 性</b>							
「シナ-」経験・なし	4874 (14.1)	9710 (28.1)	8920 (25.8)	10496 (30.4)	99 (.3)	461 (1.3)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	14 (4.3)	45 (13.8)	69 (21.1)	158 (48.3)	31 (9.5)	10 (3.1)	327 (100.0)
無回答	18 (10.7)	28 (16.6)	40 (23.7)	54 (32.0)	0 (.0)	29 (17.2)	169 (100.0)
女性計	4906 (14.0)	9783 (27.9)	9029 (25.8)	10708 (30.5)	130 (.4)	500 (1.4)	35056 (100.0)
( $\chi^2 = 832.01499$ , $df=4$ , $p=.00000$ )							
<b>全 体</b>							
「シナ-」経験・なし	7996 (11.4)	17650 (25.1)	19077 (27.1)	24295 (34.5)	209 (.3)	1116 (1.6)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	64 (6.7)	109 (11.4)	229 (24.0)	456 (47.7)	68 (7.1)	30 (3.1)	956 (100.0)
無回答	40 (8.0)	82 (16.5)	116 (23.3)	158 (31.8)	2 (.4)	99 (19.9)	497 (100.0)
全 体	8100 (11.3)	17841 (24.8)	19422 (27.1)	24909 (34.7)	279 (.4)	1245 (1.7)	71796 (100.0)
( $\chi^2 = 1287.07822$ , $df=4$ , $p=.00000$ )							

表 30 悩み事がある時、親と相談する方だと思いますか？



	いる	いない	無回答	全 体
男 性				
「シナ-」経験・なし	33998 (95.0)	1544 (4.3)	241 (.7)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	526 (83.6)	92 (14.6)	11 (1.7)	629 (100.0)
無回答	261 (79.6)	16 (4.9)	51 (15.5)	328 (100.0)
男性計	34785 (94.7)	1652 (4.5)	303 (.8)	36740 (100.0)
				( $\chi^2=156.29596$ , $df=1$ , $p=.00000$ )
女 性				
「シナ-」経験・なし	33142 (95.9)	1242 (3.6)	176 (.5)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	271 (82.9)	49 (15.0)	7 (2.1)	327 (100.0)
無回答	140 (82.8)	7 (4.1)	22 (13.0)	169 (100.0)
女性計	33553 (95.7)	1298 (3.7)	205 (.6)	35056 (100.0)
				( $\chi^2=121.18316$ , $df=1$ , $p=.00000$ )
全 体				
「シナ-」経験・なし	67140 (95.4)	2786 (4.0)	417 (.6)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	797 (83.4)	141 (14.7)	18 (1.9)	956 (100.0)
無回答	401 (80.7)	23 (4.6)	73 (14.7)	497 (100.0)
全 体	68338 (95.2)	2950 (4.1)	508 (.7)	71796 (100.0)
				( $\chi^2=285.29058$ , $df=1$ , $p=.00000$ )

表 31 楽しく遊べる友人がいますか？

	いる	いない	無回答	全 体
男 性				
「シナ-」経験・なし	28182 (78.8)	7111 (19.9)	490 (1.4)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	437 (69.5)	178 (28.3)	14 (2.2)	629 (100.0)
無回答	219 (66.8)	49 (14.9)	60 (18.3)	328 (100.0)
男性計	28838 (78.5)	7338 (20.0)	564 (1.5)	36740 (100.0)
				( $\chi^2=28.89791$ , $df=1$ , $p=.00000$ )
女 性				
「シナ-」経験・なし	30858 (89.3)	3341 (9.7)	361 (1.0)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	247 (75.5)	67 (20.5)	13 (4.0)	327 (100.0)
無回答	125 (74.0)	22 (13.0)	22 (13.0)	169 (100.0)
女性計	31230 (89.1)	3430 (9.8)	396 (1.1)	35056 (100.0)
				( $\chi^2=46.78797$ , $df=1$ , $p=.00000$ )
全 体				
「シナ-」経験・なし	59040 (83.9)	10452 (14.9)	851 (1.2)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	684 (71.5)	245 (25.6)	27 (2.8)	956 (100.0)
無回答	344 (69.2)	71 (14.3)	82 (16.5)	497 (100.0)
全 体	60068 (83.7)	10768 (15.0)	960 (1.3)	71796 (100.0)
				( $\chi^2=91.37860$ , $df=1$ , $p=.00000$ )

表 32 相談事のできる友人がいますか？

## 1. 喫煙の広がりについて

### (1) 喫煙の生涯経験率について

喫煙の生涯経験率（これまでに1回でも喫煙したことのある率）についての回答を表33に示した。

生涯経験率と学年の間には、男女ともに有意差が認められ（ $P<0.01$ ）、学年が進むにしたがって、生涯経験率が増加する傾向が認められた。

男子では30.7%（1年生21.7%、2年生30.7%、3年生39.1%）であり、女子では17.4%（1年生12.8%、2年生17.9%、3年生21.2%）であった。全体では1年生で17.3%、2年生で24.4%、3年生で30.4%であった。

### (2) 喫煙の1年経験率について

この1年間での喫煙の経験率（この1年間に1回でも喫煙したことのある率）についての回答を表34に示した。

生涯経験率と同様に、1年経験率と学年との間

には、男女ともに有意差が認められ（ $P<0.01$ ）、学年が進むにしたがって、経験率が増加する傾向が認められた。

男子では15.7%（1年生8.9%、2年生15.9%、3年生22.0%）であり、女子では7.4%（1年生4.7%、2年生7.6%、3年生9.9%）であった。全体では1年生で6.8%、2年生で11.8%、3年生で16.1%であった。

## 2. 喫煙に対する捉え方

### (1) 喫煙に対する関心について

「タバコを吸ってみたいと思ったことはありますか？」との問いに対する未経験者群の回答の分布を表35に示した。

男女共に、学年と共に吸ってみたいと思ったことがある生徒の割合が増加し、学年間で有意差（ $p<0.01$ ）が認められたが、その増加率は小さく、実際には、「吸ってみたい」という好奇心の存在は、学年に関係なく存在すると解釈した方が現実的であろう。

	喫煙経験						全 体	
	なし		あり		無回答			
男 性								
1年生	9016	(76.8)	2550	(21.7)	178	(1.5)	11744	(100.0)
2年生	8470	(68.2)	3810	(30.7)	135	(1.1)	12415	(100.0)
3年生	7563	(60.1)	4915	(39.1)	103	(.8)	12581	(100.0)
男性計	25049	(68.2)	11275	(30.7)	416	(1.1)	36740	(100.0)
	( $\chi^2=843.33151, df=2, p=.00000$ )							
女 性								
1年生	9753	(86.4)	1443	(12.8)	86	(.8)	11282	(100.0)
2年生	9617	(81.3)	2118	(17.9)	99	(.8)	11834	(100.0)
3年生	9327	(78.1)	2535	(21.2)	78	(.7)	11940	(100.0)
女性計	28697	(81.9)	6096	(17.4)	263	(.8)	35056	(100.0)
	( $\chi^2=290.17567, df=2, p=.00000$ )							
全 体								
1年生	18769	(81.5)	3993	(17.3)	264	(1.1)	23026	(100.0)
2年生	18087	(74.6)	5928	(24.4)	234	(1.0)	24249	(100.0)
3年生	16890	(68.9)	7450	(30.4)	181	(.7)	24521	(100.0)
全 体	53746	(74.9)	17371	(24.2)	679	(.9)	71796	(100.0)
	( $\chi^2=1089.06626, df=2, p=.00000$ )							

表33 喫煙の生涯経験率

	喫煙経験						全 体	
	なし		あり		無回答			
男 性								
1年生	10550	(89.8)	1043	(8.9)	151	(1.3)	11744	(100.0)
2年生	10322	(83.1)	1970	(15.9)	123	(1.0)	12415	(100.0)
3年生	9717	(77.2)	2773	(22.0)	91	(.7)	12581	(100.0)
男性計	30589	(83.3)	5786	(15.7)	365	(1.0)	36740	(100.0)
	( $\chi^2 = 783.96148$ , $df=2$ , $p=.00000$ )							
女 性								
1年生	10675	(94.6)	526	(4.7)	81	(.7)	11282	(100.0)
2年生	10839	(91.6)	898	(7.6)	97	(.8)	11834	(100.0)
3年生	10680	(89.4)	1182	(9.9)	78	(.7)	11940	(100.0)
女性計	32194	(91.8)	2606	(7.4)	256	(.7)	35056	(100.0)
	( $\chi^2 = 231.50704$ , $df=2$ , $p=.00000$ )							
全 体								
1年生	21225	(92.2)	1569	(6.8)	232	(1.0)	23026	(100.0)
2年生	21161	(87.3)	2868	(11.8)	220	(.9)	24249	(100.0)
3年生	20397	(83.2)	3955	(16.1)	169	(.7)	24521	(100.0)
全 体	62783	(87.4)	8392	(11.7)	621	(.9)	71796	(100.0)
	( $\chi^2 = 991.98531$ , $df=2$ , $p=.00000$ )							

表 34 喫煙の1年経験率

	喫煙経験						全 体	
	なし		あり		無回答			
男 性								
1年生	936	(36.7)	1592	(62.4)	22	(.9)	2550	(100.0)
2年生	1251	(32.8)	2528	(66.4)	31	(.8)	3810	(100.0)
3年生	1490	(30.3)	3394	(69.1)	31	(.6)	4915	(100.0)
男性計	3677	(32.6)	7514	(66.6)	84	(.7)	11275	(100.0)
	( $\chi^2 = 32.23239$ , $df=2$ , $p=.00000$ )							
女 性								
1年生	570	(39.5)	863	(59.8)	10	(.7)	1443	(100.0)
2年生	762	(36.0)	1341	(63.3)	15	(.7)	2118	(100.0)
3年生	877	(34.6)	1640	(64.7)	18	(.7)	2535	(100.0)
女性計	2209	(36.2)	3844	(63.1)	43	(.7)	6096	(100.0)
	( $\chi^2 = 9.68443$ , $df=2$ , $p=.00789$ )							
全 体								
1年生	1506	(37.7)	2455	(61.5)	32	(.8)	3993	(100.0)
2年生	2013	(34.0)	3869	(65.3)	46	(.8)	5928	(100.0)
3年生	2367	(31.8)	5034	(67.6)	49	(.7)	7450	(100.0)
全 体	5886	(33.9)	11358	(65.4)	127	(.7)	17371	(100.0)
	( $\chi^2 = 41.87814$ , $df=2$ , $p=.00000$ )							

表 35 タバコを吸ってみたいと思ったことがありますか？（未経験者についてのみ）

## (2) 喫煙と法の遵守について

「未成年者の喫煙は法律で禁じられていますが、あなたは未成年者の喫煙をどう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表 36 に示した。

回答の分布には、男女共に有意差が認められ ( $p<0.01$ )、未経験者群では、男女共に 84%の者が「法律で禁じられているから、吸うべきでない」を選んだのに対して、経験者群では、それを選んだ者は男女共に 48 ~ 50%しかおらず、逆に「法律で禁じられてはいるが、全然かまわない」を選んだ者が男子で 15%、女子で 13%いた (未経験者群では、それぞれ 4%、3%)。

これを「シンナー遊び」に関する法の遵守(表 9) と比べた場合、「すべきではない」を選んだ者は、「シンナー遊び」非経験者群では、男女共に 93 ~ 94%だったわけで、喫煙に関しては約 10%の低下と言うことになる。

## (3) 喫煙と法規制の必要性について

「未成年者の喫煙禁止をどう思いますか？」に対する回答の分布を表 37 に示した。

回答の分布には、男女共に有意差が認められ ( $p<0.01$ )、未経験者群では男女共に 63 ~ 64%の者が「当然だと思う」を選んだのに対して、経験者群では、それを選んだ者は、男子で 30%、女子で 27%であり、男女共に 22 ~ 23%の者が「そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う」を選んでいた。

これを「シンナー遊び」に関する法規制の必要性(表 10) と比べた場合、「当然だと思う」を選んだ者は、「シンナー遊び」非経験者群では、男女共に 86%だったわけで、喫煙に関しては約 20%の低下と言うことになる。

## 3. 喫煙による医学的害について

「健康面から、喫煙をどう思いますか？」との

	なし		喫煙経験 あり		無回答		全 体	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
<b>男 性</b>								
吸うべきではない	21119	(84.3)	5599	(49.7)	285	(68.5)	27003	(73.5)
少々ならかまわない	2742	(10.9)	3927	(34.8)	39	(9.4)	6708	(18.3)
全然かまわない	1100	(4.4)	1674	(14.8)	23	(5.5)	2797	(7.6)
無回答	88	(.4)	75	(.7)	69	(16.6)	232	(.6)
男性計	25049	(100.0)	11275	(100.0)	416	(100.0)	36740	(100.0)
								( $\chi^2=4803.52788$ , $df=2$ , $p=.00000$ )
<b>女 性</b>								
吸うべきではない	24227	(84.4)	2942	(48.3)	173	(65.8)	27342	(78.0)
少々ならかまわない	3650	(12.7)	2340	(38.4)	41	(15.6)	6031	(17.2)
全然かまわない	742	(2.6)	781	(12.8)	16	(6.1)	1539	(4.4)
無回答	78	(.3)	33	(.5)	33	(12.5)	144	(.4)
女性計	28697	(100.0)	6096	(100.0)	263	(100.0)	35056	(100.0)
								( $\chi^2=3974.07015$ , $df=2$ , $p=.00000$ )
<b>全 体</b>								
吸うべきではない	45346	(84.4)	8541	(49.2)	458	(67.5)	54345	(75.7)
少々ならかまわない	6392	(11.9)	6267	(36.1)	80	(11.8)	12739	(17.7)
全然かまわない	1842	(3.4)	2455	(14.1)	39	(5.7)	4336	(6.0)
無回答	166	(.3)	108	(.6)	102	(15.0)	376	(.5)
全 体	53746	(100.0)	17371	(100.0)	679	(100.0)	71796	(100.0)
								( $\chi^2=8965.07696$ , $df=2$ , $p=.00000$ )

表 36 未成年の喫煙をどう思いますか？ (法の遵守)

問いに対する回答の分布を表 38 に示した。

回答の分布には、男女共に有意差が認められ ( $p < 0.01$ )、未経験者群では男女共に 79 ~ 81% の者が「吸うべきではないと思う」を選んだのに対して、経験者群では、それを選んだ者は、男女共に 47 ~ 49% であり、男子の 14%、女子の 11% が「全然かまわないと思う」を選んでいった。

## 2. 生涯喫煙経験と日常生活の規則性について

### (1) 起床時間について

「起床時間は、ほぼ一定していますか？」との問いに対する回答の関係を表 39 に示した。

男女ともに、未経験者群では 83 ~ 87% の者が「一定している」を選んだのに対して、経験者群では、

それを選んだ者は 73 ~ 75% であった。男女共に、経験者群の起床時間は未経験者群のそれに比べて、有意 ( $p < 0.01$ ) に乱れていた。

「シンナー遊び」経験者群では、41% の者が「一定していない」を選んでしたが、生涯喫煙者群では 26% であり、生涯喫煙者群は「シンナー遊び」経験者群ほどは乱れていないと解釈できる。

### (2) 就床時間について

「就床時間は、ほぼ一定していますか？」との問いに対する回答の関係を表 40 に示した。

男女ともに、未経験者群では 54 ~ 55% の者が「一定している」と答えたのに対して、経験者群では、約 36 ~ 40% の者が一定していないと答えた。

男女共に、経験者群の就床時間は未経験者群の

	喫煙経験			全 体	
	なし	あり	無回答		
<b>男 性</b>					
当然だと思う	16157 (64.5)	3385 (30.0)	201 (48.3)	19743 (53.7)	
しかたない	5965 (23.8)	4153 (36.8)	92 (22.1)	10210 (27.8)	
吸えないのはおかしい	674 (2.7)	1254 (11.1)	18 (4.3)	1946 (5.3)	
個人の自由	2161 (8.6)	2420 (21.5)	34 (8.2)	4615 (12.6)	
無回答	92 (.4)	63 (.6)	71 (17.1)	226 (.6)	
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740 (100.0)	( $\chi^2 = 4251.58572, df=3, p=.00000$ )
<b>女 性</b>					
当然だと思う	18186 (63.4)	1659 (27.2)	130 (49.4)	19975 (57.0)	
しかたない	7122 (24.8)	2240 (36.7)	62 (23.6)	9424 (26.9)	
吸えないのはおかしい	984 (3.4)	774 (12.7)	10 (3.8)	1768 (5.0)	
個人の自由	2320 (8.1)	1395 (22.9)	31 (11.8)	3746 (10.7)	
無回答	85 (.3)	27 (.4)	30 (11.4)	142 (.4)	
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056 (100.0)	( $\chi^2 = 3312.27453, df=3, p=.00000$ )
<b>全 体</b>					
当然だと思う	34343 (63.9)	5044 (29.0)	331 (48.7)	39718 (55.3)	
しかたない	13087 (24.3)	6393 (36.8)	154 (22.7)	19634 (27.3)	
吸えないのはおかしい	1658 (3.1)	2028 (11.7)	28 (4.1)	3714 (5.2)	
個人の自由	4481 (8.3)	3815 (22.0)	65 (9.6)	8361 (11.6)	
無回答	177 (.3)	90 (.5)	101 (14.9)	368 (.5)	
全 体	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796 (100.0)	( $\chi^2 = 7592.37467, df=3, p=.00000$ )

表 37 未成年の喫煙禁止をどう思いますか？ (法規制の必要性)

	喫煙経験			全 体	
	なし	あり	無回答		
男 性					
吸うべきではない	19755 (78.9)	5252 (46.6)	243 (58.4)	25250 (68.7)	
少々ならかまわない	4325 (17.3)	4323 (38.3)	89 (21.4)	8737 (23.8)	
全然かまわない	739 (3.0)	1573 (14.0)	15 (3.6)	2327 (6.3)	
無回答	230 (.9)	127 (1.1)	69 (16.6)	426 (1.2)	
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740 (100.0)	( $\chi^2=4109.34269$ , df=2, p=.00000)
女 性					
吸うべきではない	23308 (81.2)	2989 (49.0)	166 (63.1)	26463 (75.5)	
少々ならかまわない	4839 (16.9)	2430 (39.9)	50 (19.0)	7319 (20.9)	
全然かまわない	389 (1.4)	641 (10.5)	11 (4.2)	1041 (3.0)	
無回答	161 (.6)	36 (.6)	36 (13.7)	233 (.7)	
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056 (100.0)	( $\chi^2=3387.92497$ , df=2, p=.00000)
全 体					
吸うべきではない	43063 (80.1)	8241 (47.4)	409 (60.2)	51713 (72.0)	
少々ならかまわない	9164 (17.1)	6753 (38.9)	139 (20.5)	16056 (22.4)	
全然かまわない	1128 (2.1)	2214 (12.7)	26 (3.8)	3368 (4.7)	
無回答	391 (.7)	163 (.9)	105 (15.5)	659 (.9)	
全 体	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796 (100.0)	( $\chi^2=7912.68531$ , df=2, p=.00000)

表 38 健康面から喫煙をどう思いますか？

	喫煙経験			全 体	
	なし	あり	無回答		
男 性					
はい	20923 (83.5)	8275 (73.4)	320 (76.9)	29518 (80.3)	
いいえ	4057 (16.2)	2958 (26.2)	83 (20.0)	7098 (19.3)	
無回答	69 (.3)	42 (.4)	13 (3.1)	124 (.3)	
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740 (100.0)	( $\chi^2=505.28666$ , df=1, p=.00000)
女 性					
はい	25028 (87.2)	4561 (74.8)	205 (77.9)	29794 (85.0)	
いいえ	3597 (12.5)	1513 (24.8)	53 (20.2)	5163 (14.7)	
無回答	72 (.3)	22 (.4)	5 (1.9)	99 (.3)	
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056 (100.0)	( $\chi^2=607.94388$ , df=1, p=.00000)
全 体					
はい	45951 (85.5)	12836 (73.9)	525 (77.3)	59312 (82.6)	
いいえ	7654 (14.2)	4471 (25.7)	136 (20.0)	12261 (17.1)	
無回答	141 (.3)	64 (.4)	18 (2.7)	223 (.3)	
全 体	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796 (100.0)	( $\chi^2=1232.31178$ , df=1, p=.00000)

表 39 起床時間が一定しているか

	喫煙経験			全 体	
	なし	あり	無回答		
男 性					
はい	13642 (54.5)	4553 (40.4)	212 (51.0)	18407 (50.1)	
いいえ	11294 (45.1)	6662 (59.1)	190 (45.7)	18146 (49.4)	
無回答	113 (.5)	60 (.5)	14 (3.4)	187 (.5)	
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740 (100.0)	( $\chi^2=616.13808$ , df=1, p=.00000)
女 性					
はい	15507 (54.0)	2178 (35.7)	123 (46.8)	17808 (50.8)	
いいえ	13066 (45.5)	3891 (63.8)	132 (50.2)	17089 (48.7)	
無回答	124 (.4)	27 (.4)	8 (3.0)	159 (.5)	
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056 (100.0)	( $\chi^2=677.03671$ , df=1, p=.00000)
全 体					
はい	29149 (54.2)	6731 (38.7)	335 (49.3)	36215 (50.4)	
いいえ	24360 (45.3)	10553 (60.8)	322 (47.4)	35235 (49.1)	
無回答	237 (.4)	87 (.5)	22 (3.2)	346 (.5)	
全 体	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796 (100.0)	( $\chi^2=1260.79344$ , df=1, p=.00000)

表 40 就寝時間が一定しているか

	喫煙経験			全 体	
	なし	あり	無回答		
男 性					
ほとんど毎日食べる	21274 (84.9)	8093 (71.8)	324 (77.9)	29691 (80.8)	
時々食べる	2532 (10.1)	1927 (17.1)	50 (12.0)	4509 (12.3)	
ほとんど食べない	1173 (4.7)	1219 (10.8)	32 (7.7)	2424 (6.6)	
無回答	70 (.3)	36 (.3)	10 (2.4)	116 (.3)	
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740 (100.0)	( $\chi^2=916.43706$ , df=3, p=.00000)
女 性					
ほとんど毎日食べる	24972 (87.0)	4381 (71.9)	210 (79.8)	29563 (84.3)	
時々食べる	2622 (9.1)	1068 (17.5)	36 (13.7)	3726 (10.6)	
ほとんど食べない	1031 (3.6)	620 (10.2)	14 (5.3)	1665 (4.7)	
無回答	72 (.3)	27 (.4)	3 (1.1)	102 (.3)	
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056 (100.0)	( $\chi^2=926.23162$ , df=3, p=.00000)
全 体					
ほとんど毎日食べる	46246 (86.0)	12474 (71.8)	534 (78.6)	59254 (82.5)	
時々食べる	5154 (9.6)	2995 (17.2)	86 (12.7)	8235 (11.5)	
ほとんど食べない	2204 (4.1)	1839 (10.6)	46 (6.8)	4089 (5.7)	
無回答	142 (.3)	63 (.4)	13 (1.9)	218 (.3)	
全 体	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796 (100.0)	( $\chi^2=1958.18959$ , df=3, p=.00000)

表 41 毎朝、朝食を食べるか？

それに比べて、有意 ( $p < 0.01$ ) に乱れていた。

しかし、「シンナー遊び」経験者群では、69% (表 21) の者が「一定していない」を選んでしたが、生涯喫煙者群では 61%であり、「シンナー遊び」経験者群と大差がなかった。

### (3)朝食について

「毎朝、朝食を食べていますか？」との問いに対する回答の分布を表41に示した。

非経験者群では男女ともに85%~87%の者が「ほとんど毎日食べている」を選んだのに対して、経験者群では、男女ともに「ほとんど毎日食べている」を選んだ者は72%であった。

男女共に、経験者群では、非経験者群に比べて、朝食頻度が有意 ( $p < 0.01$ ) に低かった。

しかし、「シンナー遊び」経験者群では、「ほと

んど毎日食べている」を選んだ者は57% (表 22) であり、生涯喫煙者群での朝食頻度は、「シンナー遊び」経験者群よりはまだ高いと言える。

## 2. 喫煙経験と学校生活について

### (1)学校生活について

「あなたにとって、学校生活は次のどれですか？」との問いに関する関係を表42に示した。

男女共に、経験者群と非経験者群とでは、回答の分布に有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、「まったく楽しくない」を選んだ者は、非経験者群では男子で4%、女子で約3%であり、経験者群では男女共に9%であり、経験者群に「楽しくない」傾向の者が有意に多いという解釈は弱いながらも成り立つ。

	喫煙経験			全体	
	なし	あり	無回答		
<b>男 性</b>					
とても楽しい	7537 (30.1)	2539 (22.5)	114 (27.4)	10190	(27.7)
楽しい	12970 (51.8)	5382 (47.7)	202 (48.6)	18554	(50.5)
あまり楽しくない	3530 (14.1)	2295 (20.4)	66 (15.9)	5891	(16.0)
まったく楽しくない	963 (3.8)	1034 (9.2)	18 (4.3)	2015	(5.5)
無回答	49 (.2)	25 (.2)	16 (3.8)	90	(.2)
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740	(100.0)
					( $\chi^2 = 777.24380, df=3, p=.00000$ )
<b>女 性</b>					
とても楽しい	9328 (32.5)	1446 (23.7)	75 (28.5)	10849	(30.9)
楽しい	13684 (47.7)	2712 (44.5)	122 (46.4)	16518	(47.1)
あまり楽しくない	4702 (16.4)	1395 (22.9)	49 (18.6)	6146	(17.5)
まったく楽しくない	922 (3.2)	517 (8.5)	11 (4.2)	1450	(4.1)
無回答	61 (.2)	26 (.4)	6 (2.3)	93	(.3)
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056	(100.0)
					( $\chi^2 = 595.57716, df=3, p=.00000$ )
<b>全 体</b>					
とても楽しい	16865 (31.4)	3985 (22.9)	189 (27.8)	21039	(29.3)
楽しい	26654 (49.6)	8094 (46.6)	324 (47.7)	35072	(48.8)
あまり楽しくない	8232 (15.3)	3690 (21.2)	115 (16.9)	12037	(16.8)
まったく楽しくない	1885 (3.5)	1551 (8.9)	29 (4.3)	3465	(4.8)
無回答	110 (.2)	51 (.3)	22 (3.2)	183	(.3)
全 体	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796	(100.0)
					( $\chi^2 = 1417.26144, df=3, p=.00000$ )

表 42 あなたにとって学校生活は？



しかし、「シンナー遊び」経験者群のそれぞれ16~17%、23~24%（表23）とは大きく異なっていた。

### (2) クラブ活動について

「放課後のクラブ活動に参加していますか？」との問いに対する回答の関係を表43に示した。

男女共に、経験者群と非経験者群との間には、回答の分布に有意差（ $p < 0.01$ ）が認められ、非経験者群で「参加していない」を選んだ者は男子で15%、女子で14%であったのに対して、経験者群では、男子で23%、女子で25%の者が「参加していない」を選んだ。

経験者群で、放課後のクラブ活動（部活）に参加していない者の割合が有意に多い傾向にあると解釈される。しかしここでも、「シンナー遊び」経験者群のそれぞれは、34%、40%（表24）であり、大きく異なっていた。

### 3. 生涯喫煙経験と家庭生活について

#### (1) 家族との夕食頻度

「夕食を週何回くらい家族全員で食べますか？」との問いに関する関係を表43に、また「母親と週何回くらい夕食を食べますか？」「父親と週何回くらい夕食を食べますか？」の問いに対する関係を、それぞれ表44、表45に示した。

すべての場合において、回答の分布には有意差（ $p < 0.01$ ）が認められ、生涯喫煙経験者で家族全員との夕食頻度、母親との夕食頻度、父親との夕食頻度が低かった。しかし、その程度は、有機溶剤乱用経験の有無による場合よりは小さかった（表25~27参照）。

なお、ここでも有機溶剤乱用経験の有無による場合と同様に、「父親との夕食頻度」は、「家族全員での夕食頻度」より低く、この論理的矛盾は、我が国の父親が置かれた社会状況を反映している

	喫煙経験			全 体
	なし	あり	無回答	
<b>男 性</b>				
積極的に参加	17155 (68.5)	6407 (56.8)	253 (60.8)	23815 (64.8)
消極的に参加	3931 (15.7)	2098 (18.6)	78 (18.8)	6107 (16.6)
参加していない	3767 (15.0)	2641 (23.4)	68 (16.3)	6476 (17.6)
無回答	196 (.8)	129 (1.1)	17 (4.1)	342 (.9)
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740 (100.0)
				( $\chi^2 = 513.26152, df=2, p=.00000$ )
<b>女 性</b>				
積極的に参加	19408 (67.6)	3108 (51.0)	161 (61.2)	22677 (64.7)
消極的に参加	4889 (17.0)	1409 (23.1)	57 (21.7)	6355 (18.1)
参加していない	4135 (14.4)	1528 (25.1)	38 (14.4)	5701 (16.3)
無回答	265 (.9)	51 (.8)	7 (2.7)	323 (.9)
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056 (100.0)
				( $\chi^2 = 668.28733, df=2, p=.00000$ )
<b>全 体</b>				
積極的に参加	36563 (68.0)	9515 (54.8)	414 (61.0)	46492 (64.8)
消極的に参加	8820 (16.4)	3507 (20.2)	135 (19.9)	12462 (17.4)
参加していない	7902 (14.7)	4169 (24.0)	106 (15.6)	12177 (17.0)
無回答	461 (.9)	180 (1.0)	24 (3.5)	665 (.9)
全 体	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796 (100.0)
				( $\chi^2 = 1133.61946, df=2, p=.00000$ )

表 43 クラブ活動に参加していますか？

と同時に、家族全員での夕食と言ったときに、中学生の解釈では、父親は既に含まれていない傾向が強いことを再度示していると解釈できる。

いずれにしても、経験者群では、非経験者群に比べて、家族との夕食頻度が有意 ( $p < 0.01$ ) に少ないと解釈できる。

## (2) 家庭の円満さについて

「あなたの家庭は『うまくいっている』と思いますか?」との問いに対する回答の分布を表46に

示した。

男女ともに、経験者群と非経験者群との間には、回答の分布に有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、非経験者群では、男子の4%、女子の5%が「うまくいっていないと思う」と答えたのに対して、経験者群では、男子で8%、女子で13%の者が「うまくいっていないと思う」と答えた。

この傾向は、有機溶剤乱用の経験の有無の場合と同様であるが、「シンナー遊び」経験者群での「うまくいっていない」を選んだ者の割合は、男子で20%、女子で28% (表28) であり、その程度に

	喫煙経験						全 体	
	なし		あり		無回答			
男 性								
ほとんど毎日	9649	(38.5)	3716	(33.0)	160	(38.5)	13525	(36.8)
5～6回	2803	(11.2)	1143	(10.1)	42	(10.1)	3988	(10.9)
4回前後	2841	(11.3)	1242	(11.0)	47	(11.3)	4130	(11.2)
3回前後	2422	(9.7)	1080	(9.6)	34	(8.2)	3536	(9.6)
2回前後	3816	(15.2)	1570	(13.9)	56	(13.5)	5442	(14.8)
ほとんど食べない	3348	(13.4)	2429	(21.5)	59	(14.2)	5836	(15.9)
無回答	170	(.7)	95	(.8)	18	(4.3)	283	(.8)
男性計	25049	(100.0)	11275	(100.0)	416	(100.0)	36740	(100.0)
	( $\chi^2 = 410.26631$ , $df=5$ , $p=.00000$ )							
女 性								
ほとんど毎日	11170	(38.9)	1926	(31.6)	104	(39.5)	13200	(37.7)
5～6回	3028	(10.6)	589	(9.7)	21	(8.0)	3638	(10.4)
4回前後	2964	(10.3)	664	(10.9)	25	(9.5)	3653	(10.4)
3回前後	2577	(9.0)	519	(8.5)	17	(6.5)	3113	(8.9)
2回前後	4676	(16.3)	828	(13.6)	37	(14.1)	5541	(15.8)
ほとんど食べない	4077	(14.2)	1529	(25.1)	52	(19.8)	5658	(16.1)
無回答	205	(.7)	41	(.7)	7	(2.7)	253	(.7)
女性計	28697	(100.0)	6096	(100.0)	263	(100.0)	35056	(100.0)
	( $\chi^2 = 470.63937$ , $df=5$ , $p=.00000$ )							
全 体								
ほとんど毎日	20819	(38.7)	5642	(32.5)	264	(38.9)	26725	(37.2)
5～6回	5831	(10.8)	1732	(100.0)	63	(9.3)	7626	(10.6)
4回前後	5805	(10.8)	1906	(11.0)	72	(10.6)	7783	(10.8)
3回前後	4999	(9.3)	1599	(9.2)	51	(7.5)	6649	(9.3)
2回前後	8492	(15.8)	2398	(13.8)	93	(13.7)	10983	(15.3)
ほとんど食べない	7425	(13.8)	3958	(22.8)	111	(16.3)	11494	(16.0)
無回答	375	(.7)	136	(.8)	25	(3.7)	536	(.7)
全 体	53746	(100.0)	17371	(100.0)	679	(100.0)	71796	(100.0)
	( $\chi^2 = 842.57803$ , $df=5$ , $p=.00000$ )							

表 43 週何回、家族全員で夕食を食べるか?

は大きな違いがあることが示唆された。

### (3) 一日での大人不在の時間について

「学校、塾、習い事、運動での時間以外、大人が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか？」との問いに対する回答の分布を表47に示した。

経験者群、非経験者群間で男女ともに統計学的有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、非経験者群で「3時間以上」を選んだ者は、男女ともに12~13%であるのに対して、経験者群では男女ともに21~22%であった。

経験者群で大人不在の時間が有意に長い傾向が示唆された。

この傾向は、有機溶剤乱用の経験の有無の場合

	喫煙経験						全 体	
	なし		あり		無回答			
<b>男 性</b>								
ほとんど毎日	14885	(59.4)	5359	(47.5)	211	(50.7)	20455	(55.7)
5~6回	3145	(12.6)	1406	(12.5)	55	(13.2)	4606	(12.5)
4回前後	2198	(8.8)	1134	(10.1)	35	(8.4)	3367	(9.2)
3回前後	1393	(5.6)	738	(6.5)	24	(5.8)	2155	(5.9)
2回前後	1281	(5.1)	823	(7.3)	19	(4.6)	2123	(5.8)
ほとんど食べない	1411	(5.6)	1265	(11.2)	45	(10.8)	2721	(7.4)
母親がいない	395	(1.6)	333	(3.0)	7	(1.7)	735	(2.0)
無回答	341	(1.4)	217	(1.9)	20	(4.8)	578	(1.6)
男性計	25049	(100.0)	11275	(100.0)	416	(100.0)	36740	(100.0)
	( $\chi^2 = 692.44830$ , $df=6$ , $p=.00000$ )							
<b>女 性</b>								
ほとんど毎日	18983	(66.1)	3104	(50.9)	163	(62.0)	22250	(63.5)
5~6回	3062	(10.7)	683	(11.2)	23	(8.7)	3768	(10.7)
4回前後	2049	(7.1)	525	(8.6)	19	(7.2)	2593	(7.4)
3回前後	1253	(4.4)	389	(6.4)	13	(4.9)	1655	(4.7)
2回前後	1251	(4.4)	424	(7.0)	12	(4.6)	1687	(4.8)
ほとんど食べない	1279	(4.5)	644	(10.6)	14	(5.3)	1937	(5.5)
母親がいない	455	(1.6)	245	(4.0)	6	(2.3)	706	(2.0)
無回答	365	(1.3)	82	(1.3)	13	(4.9)	460	(1.3)
女性計	28697	(100.0)	6096	(100.0)	263	(100.0)	35056	(100.0)
	( $\chi^2 = 801.14368$ , $df=6$ , $p=.00000$ )							
<b>全 体</b>								
ほとんど毎日	33868	(63.0)	8463	(48.7)	374	(55.1)	42705	(59.5)
5~6回	6207	(11.5)	2089	(12.0)	78	(11.5)	8374	(11.7)
4回前後	4247	(7.9)	1659	(9.6)	54	(8.0)	5960	(8.3)
3回前後	2646	(4.9)	1127	(6.5)	37	(5.4)	3810	(5.3)
2回前後	2532	(4.7)	1247	(7.2)	31	(4.6)	3810	(5.3)
ほとんど食べない	2690	(5.0)	1909	(11.0)	59	(8.7)	4658	(6.5)
母親がいない	850	(1.6)	578	(3.3)	13	(1.9)	1441	(2.0)
無回答	706	(1.3)	299	(1.7)	33	(4.9)	1038	(1.4)
全 体	53746	(100.0)	17371	(100.0)	679	(100.0)	71796	(100.0)
	( $\chi^2 = 1636.85921$ , $df=6$ , $p=.00000$ )							

表 44 週何回、母親と夕食を食べるか？

と同様であるが、「シンナー遊び」経験者群で「3時間以上」を選んだ者の割合は、男子で30%、女子で31%（表29）であり、男女共に、喫煙経験者の場合には約10%少なかった。

#### (4) 親との相談について

「悩みごとがある時、親と相談する方だと思

いますか？」との問いに対する回答の分布を表48に示した。

男女ともに、回答の分布に有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、非経験者群で「ほとんど相談しない方である」を選んだ者は、男子で35%、女子で28%であるのに対して、経験者群では男女共に42~47%であった。

この結果は、有機溶剤乱用の有無による場合(表

	喫煙経験						全 体	
	なし		あり		無回答			
男 性								
ほとんど毎日	6797	(27.1)	2526	(22.4)	112	(26.9)	9435	(25.7)
5～6回	2926	(11.7)	1151	(10.2)	43	(10.3)	4120	(11.2)
4回前後	2781	(11.1)	1171	(10.4)	48	(11.5)	4000	(10.9)
3回前後	2609	(10.4)	1081	(9.6)	38	(9.1)	3728	(10.1)
2回前後	4458	(17.8)	1756	(15.6)	66	(15.9)	6280	(17.1)
ほとんど食べない	3232	(12.9)	2246	(19.9)	64	(15.4)	5542	(15.1)
父親がいない	1961	(7.8)	1148	(10.2)	28	(6.7)	3137	(8.5)
無回答	285	(1.1)	196	(1.7)	17	(4.1)	498	(1.4)
男性計	25049	(100.0)	11275	(100.0)	416	(100.0)	36740	(100.0)
								( $\chi^2 = 419.08724, df=6, p=.00000$ )
女 性								
ほとんど毎日	7729	(26.9)	1288	(21.1)	65	(24.7)	9082	(25.9)
5～6回	3390	(11.8)	601	(9.9)	28	(10.6)	4019	(11.5)
4回前後	3075	(10.7)	593	(9.7)	23	(8.7)	3691	(10.5)
3回前後	2753	(9.6)	517	(8.5)	25	(9.5)	3295	(9.4)
2回前後	5109	(17.8)	850	(13.9)	38	(14.4)	5997	(17.1)
ほとんど食べない	3727	(13.0)	1317	(21.6)	42	(16.0)	5086	(14.5)
父親がいない	2588	(9.0)	855	(14.0)	30	(11.4)	3473	(9.9)
無回答	326	(1.1)	75	(1.2)	12	(4.6)	413	(1.2)
女性計	28697	(100.0)	6096	(100.0)	263	(100.0)	35056	(100.0)
								( $\chi^2 = 522.33969, df=6, p=.00000$ )
全 体								
ほとんど毎日	14526	(27.0)	3814	(22.0)	177	(26.1)	18517	(25.8)
5～6回	6316	(11.8)	1752	(10.1)	71	(10.5)	8139	(11.3)
4回前後	5856	(10.9)	1764	(10.2)	71	(10.5)	7691	(10.7)
3回前後	5362	(10.0)	1598	(9.2)	63	(9.3)	7023	(9.8)
2回前後	9567	(17.8)	2606	(15.0)	104	(15.3)	12277	(17.1)
ほとんど食べない	6959	(12.9)	3563	(20.5)	106	(15.6)	10628	(14.8)
父親がいない	4549	(8.5)	2003	(11.5)	58	(8.5)	6610	(9.2)
無回答	611	(1.1)	271	(1.6)	29	(4.3)	911	(1.3)
全 体	53746	(100.0)	17371	(100.0)	679	(100.0)	71796	(100.0)
								( $\chi^2 = 881.18761, df=6, p=.00000$ )

表 45 週何回、父親と夕食を食べるか？

30) とほとんど同じ結果であった。

同時に、喫煙経験の有無に関わらず、男女ともに「よく相談する方である」と答えた者が少ないのも、有機溶剤乱用の有無による場合と同じであった。

#### 4. 喫煙と友人関係について

##### (1) 遊び友達について

「親しく遊べる友人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表49に示した。

男女ともに、経験者群と非経験者群との間には実際上、ほとんど差がなかった。しかし、一応、経験者群の方で、「親しく遊べる友人がいない」を選んだ生徒が多い傾向が伺われた ( $p < 0.01$ )。

##### (2) 相談事のできる友人について

「相談事のできる友人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表50に示した。

男子では、経験者群・非経験者群間で有意差 ( $p < 0.05$ ) が認められず、女子では「相談できる友人は少ない」を選んだ者は、経験者群に有意 ( $p < 0.01$ ) に多いという結果ではあったが、実際上は、男女共に経験者群・非経験者群間で、ほとんど差がないと解釈されるべき程度であった。

#### 3. 飲酒について

わが国では、中学生といえども、飲酒の生涯経験率(これまでに1回でも飲酒したことのある率)は、男子では約75%、女子では66%と高く<sup>9)</sup>、飲酒機会から見たその内容は、冠婚葬祭時及び家で家族と共にの飲酒が多い<sup>6)15)</sup>こともあり、飲酒の生涯経験から中学生の飲酒を論じて、ほとんど意味がないため<sup>6)15)</sup>、本報告書では、飲酒機会ご

	喫煙経験			全 体	
	なし	あり	無回答		
男 性					
うまくいっている	17166 (68.5)	6129 (54.4)	225 (54.1)	23520 (64.0)	
どちらとも言えない	6572 (26.2)	4012 (35.6)	109 (26.2)	10693 (29.1)	
うまくいっていない	964 (3.8)	933 (8.3)	16 (3.8)	1913 (5.2)	
無回答	347 (1.4)	201 (1.8)	66 (15.9)	614 (1.7)	
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740 (100.0)	( $\chi^2 = 769.33222, df=2, p=0.00000$ )
女 性					
うまくいっている	20140 (70.2)	3109 (51.0)	157 (59.7)	23406 (66.8)	
どちらとも言えない	6824 (23.8)	2121 (34.8)	60 (22.8)	9005 (25.7)	
うまくいっていない	1372 (4.8)	759 (12.5)	20 (7.6)	2151 (6.1)	
無回答	361 (1.3)	107 (1.8)	26 (9.9)	494 (1.4)	
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056 (100.0)	( $\chi^2 = 1000.12733, df=2, p=0.00000$ )
全 体					
うまくいっている	37306 (69.4)	9238 (53.2)	382 (56.3)	46926 (65.4)	
どちらとも言えない	13396 (24.9)	6133 (35.3)	169 (24.9)	19698 (27.4)	
うまくいっていない	2336 (4.3)	1692 (9.7)	36 (5.3)	4064 (5.7)	
無回答	708 (1.3)	308 (1.8)	92 (13.5)	1108 (1.5)	
全 体	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796 (100.0)	( $\chi^2 = 1721.85352, df=2, p=0.00000$ )

表 46 家庭は「うまくいっている」と思うか

との生涯経験率を表 51、「シンナー遊び」の経験と飲酒の経験・機会を表 52 に示すのみとした。

飲酒の生涯経験者の割合は、機会に関わらず、男女ともに、学年が進むにつれて、増加していた。

機会別では、男女ともに「冠婚葬祭時」「家で家族と一緒に」での飲酒経験率が高いが、学年による伸び率は、「クラス会、打ち上げ、友人とのパーティーの時に、仲間と飲んだことがある」「その他の機会に仲間と飲んだことがある」を選んだ者で高く、3年生では「クラス会、打ち上げ、友人とのパーティーの時に、仲間と飲んだことがある」を選んだ者が、男子で14%、女子で10%、また、「その他の機会に仲間と飲んだことがある」を選

んだ者が、男子で21%、女子で15%いたという結果は注意を要する。

#### 4. 「シンナー遊び」と他の依存性薬物使用との関係

##### 1. 「シンナー遊び」と飲酒との関係

「シンナー遊び」の経験の有無と生涯飲酒経験率及びその機会との関係を表52に示した。

男女共に、飲酒経験のない者は「シンナー遊び」未経験者群で有意 ( $p < 0.01$ ) に多かった。逆に、

	喫煙経験			全 体	
	なし	あり	無回答		
男 性					
なし	8848 (35.3)	3176 (28.2)	92 (22.1)	12116	(33.0)
1時間未満	5002 (20.0)	1971 (17.5)	85 (20.4)	7058	(19.2)
1～2時間	4779 (19.1)	2127 (18.9)	63 (15.1)	6969	(19.0)
2～3時間	2979 (11.9)	1513 (13.4)	50 (12.0)	4542	(12.4)
3時間以上	3120 (12.5)	2321 (20.6)	60 (14.4)	5501	(15.0)
無回答	321 (1.3)	167 (1.5)	66 (15.9)	554	(1.5)
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740	(100.0)
				( $\chi^2 = 503.55206, df=4, p=.00000$ )	
女 性					
なし	12143 (42.3)	1944 (31.9)	84 (31.9)	14171	(40.4)
1時間未満	4810 (16.8)	828 (13.6)	31 (11.8)	5669	(16.2)
1～2時間	4777 (16.6)	1049 (17.2)	50 (19.0)	5876	(16.8)
2～3時間	3280 (11.4)	852 (14.0)	36 (13.7)	4168	(11.9)
3時間以上	3341 (11.6)	1326 (21.8)	30 (11.4)	4697	(13.4)
無回答	346 (1.2)	97 (1.6)	32 (12.2)	475	(1.4)
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056	(100.0)
				( $\chi^2 = 579.20831, df=4, p=.00000$ )	
全 体					
なし	20991 (39.1)	5120 (29.5)	176 (25.9)	26287	(36.6)
1時間未満	9812 (18.3)	2799 (16.1)	116 (17.1)	12727	(17.7)
1～2時間	9556 (17.8)	3176 (18.3)	113 (16.6)	12845	(17.9)
2～3時間	6259 (11.6)	2365 (13.6)	86 (12.7)	8710	(12.1)
3時間以上	6461 (12.0)	3647 (21.0)	90 (13.3)	10198	(14.2)
無回答	667 (1.2)	264 (1.5)	98 (14.4)	1029	(1.4)
全 体	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796	(100.0)
				( $\chi^2 = 1151.39822, df=4, p=.00000$ )	

表 47 1日の大人不在の平均時間

男女とも、すべての機会、「シンナー遊び」経験者群の方で、飲酒経験率は高かった。

しかし、男女共に、「冠婚葬祭時」「家で家族と一緒に」での飲酒経験率では、「シンナー遊び」の経験者群・非経験者群間で、有意差は認めるものの、その割合の差は小さく、逆に、「クラス会、打ち上げ、友人とのパーティーの時に、仲間と飲んだことがある」「その他の機会に仲間と飲んだことがある」者の割合は、明らかに「シンナー遊び」経験者で多かった。特に、「その他の機会に仲間と飲んだことがある」者の割合は、「シンナー遊び」経験者群の男子では42%であり、女子では51%と高く、「シンナー遊び」における「仲間

の存在とその影響力の大きさを物語っていると解釈される。

## 2. 「シンナー遊び」と喫煙との関係

「シンナー遊び」の経験の有無と、喫煙経験の有無との関係を表53に示した。

「シンナー遊び」の経験の有無と喫煙経験の有無の間には、男女共に有意差が認められた ( $P < 0.01$ )。つまり、喫煙経験は、「シンナー遊び」経験者群に有意に多い。「シンナー遊び」未経験者群での喫煙経験者は、男子で30%、女子で17%であるのに対して、「シンナー遊び」経験者群では、

	喫煙経験			全 体	
	なし	あり	無回答		
<b>男 性</b>					
よく相談する	2548 (10.2)	619 (5.5)	27 (6.5)	3194	(8.7)
どちらかといえばする	6222 (24.8)	1760 (15.6)	76 (18.3)	8058	(21.9)
どちらかといえばしない	7041 (28.1)	3237 (28.7)	115 (27.6)	10393	(28.3)
ほとんど相談しない	8776 (35.0)	5294 (47.0)	131 (31.5)	14201	(38.7)
親がない	52 (.2)	96 (.9)	1 (.2)	149	(.4)
無回答	410 (1.6)	269 (2.4)	66 (15.9)	745	(2.0)
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740	(100.0)
				( $\chi^2 = 864.18682, df=4, p=.00000$ )	
<b>女 性</b>					
よく相談する	4307 (15.0)	558 (9.2)	41 (15.6)	4906	(14.0)
どちらかといえばする	8481 (29.6)	1243 (20.4)	59 (22.4)	9783	(27.9)
どちらかといえばしない	7417 (25.8)	1557 (25.5)	55 (20.9)	9029	(25.8)
ほとんど相談しない	8054 (28.1)	2579 (42.3)	75 (28.5)	10708	(30.5)
親がない	56 (.2)	74 (1.2)	0 (.0)	130	(.4)
無回答	382 (1.3)	85 (1.4)	33 (12.5)	500	(1.4)
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056	(100.0)
				( $\chi^2 = 748.12879, df=4, p=.00000$ )	
<b>全 体</b>					
よく相談する	6855 (12.8)	1177 (6.8)	68 (10.0)	8100	(11.3)
どちらかといえばする	4703 (27.4)	3003 (17.3)	135 (19.9)	17841	(24.8)
どちらかといえばしない	4458 (26.9)	4794 (27.6)	170 (25.0)	19422	(27.1)
ほとんど相談しない	6830 (31.3)	7873 (45.3)	206 (30.3)	24909	(34.7)
親がない	108 (.2)	170 (1.0)	1 (.1)	279	(.4)
無回答	792 (1.5)	354 (2.0)	99 (14.6)	1245	(1.7)
全 体	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796	(100.0)
				( $\chi^2 = 1902.41894, df=4, p=.00000$ )	

表 48 親と相談する方か

	喫煙経験			全 体
	なし	あり	無回答	
男 性				
いる	23810 (95.1)	10644 (94.4)	331 (79.6)	34785 (94.7)
いない	1071 (4.3)	550 (4.9)	31 (7.5)	1652 (4.5)
無回答	168 (.7)	81 (.7)	54 (13.0)	303 (.8)
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740 (100.0)
				( $\chi^2 = 6.66910$ , $df=1$ , $p=.00981$ )
女 性				
いる	27606 (96.2)	5726 (93.9)	221 (84.0)	33553 (95.7)
いない	958 (3.3)	326 (5.3)	14 (5.3)	1298 (3.7)
無回答	133 (.5)	44 (.7)	28 (10.6)	205 (.6)
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056 (100.0)
				( $\chi^2 = 57.77606$ , $df=1$ , $p=.00000$ )
全 体				
いる	51416 (95.7)	16370 (94.2)	552 (81.3)	68338 (95.2)
いない	2029 (3.8)	876 (5.0)	45 (6.6)	2950 (4.1)
無回答	301 (.6)	125 (.7)	82 (12.1)	508 (.7)
全 体	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796 (100.0)
				( $\chi^2 = 54.46722$ , $df=1$ , $p=.00000$ )

表 49 親しく遊べる友人がいるか

	喫煙経験			全 体
	なし	あり	無回答	
男 性				
いる	19666 (78.5)	8897 (78.9)	275 (66.1)	28838 (78.5)
いない	5043 (20.1)	2217 (19.7)	78 (18.8)	7338 (20.0)
無回答	340 (1.4)	161 (1.4)	63 (15.1)	564 (1.5)
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740 (100.0)
				( $\chi^2 = 1.01150$ , $df=1$ , $p=.31454$ )
女 性				
いる	25694 (89.5)	5338 (87.6)	198 (75.3)	31230 (89.1)
いない	2711 (9.4)	687 (11.3)	32 (12.2)	3430 (9.8)
無回答	292 (1.0)	71 (1.2)	33 (12.5)	396 (1.1)
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056 (100.0)
				( $\chi^2 = 19.29887$ , $df=1$ , $p=.00001$ )
全 体				
いる	45360 (84.4)	14235 (81.9)	473 (69.7)	60068 (83.7)
いない	7754 (14.4)	2904 (16.7)	110 (16.2)	10768 (15.0)
無回答	632 (1.2)	232 (1.3)	96 (14.1)	960 (1.3)
全 体	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796 (100.0)
				( $\chi^2 = 55.36926$ , $df=1$ , $p=.00000$ )

表 50 相談事のできる友人がいるか



男子で76%、女子で74%と、両群間には著しい違いがあった。

これらは、中学生にとっての「シンナー遊び」が、喫煙と強い繋がりを持っていることを強く示唆するものである。

### 3. 「シンナー遊び」と大麻乱用との関係

#### (1) 大麻乱用の生涯経験率について

各学年・性別毎に大麻乱用の生涯経験率（これまでに1回でも乱用したことがある率）を表54に

示した。

1996年の第1回調査<sup>9)</sup>同様、男子では学年による経験率の違いに有意差 ( $p < 0.05$ ) が認められたが、女子では認められなかった。

生涯経験率は男子では0.9%（1年生で0.7%、2年生で0.8%、3年生で1.0%）であり、女子では0.5%（1年生で0.5%、2年生で0.4%、3年生で0.5%）であった。全体では0.7%（0.6%、0.6%、0.8%）であった。ちなみに、1996年の第1回調査では、それぞれ0.7%（0.4%、0.7%、0.8%）と0.3%（0.3%、0.3%、0.3%）であり、全体では0.5%（0.4%、0.5%、0.6%）であった。単純に比較すれば、この2年間で中学生

	飲んだこと なし	飲酒経験あり						全 体
		冠婚葬祭	家で家族と	その他 家族と	クラス会	仲間と	一人で	
男 性								
1年生	3684 (31.4)	4368 (37.2)	4568 (38.9)	1757 (15.0)	605 (5.2)	724 (6.2)	738 (6.3)	11744 (100.0)
2年生	3057 (24.6)	5340 (43.0)	5373 (43.3)	2352 (18.9)	985 (7.9)	1518 (12.2)	1286 (10.4)	12415 (100.0)
3年生	2478 (19.7)	5742 (45.6)	5959 (47.4)	2794 (22.2)	1730 (13.8)	2594 (20.6)	2099 (16.7)	12581 (100.0)
男性計	9219 (25.1)	15450 (42.1)	15900 (43.3)	6903 (18.8)	3320 (9.0)	4836 (13.2)	4123 (11.2)	36740 (100.0)
$\chi^2$	447.98008	184.93770	177.45441	209.37868	574.16770	1124.49086	673.44337	
df	2	2	2	2	2	2	2	
p	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	
女 性								
1年生	4298 (38.1)	3911 (34.7)	4377 (38.8)	1525 (13.5)	398 (3.5)	514 (4.6)	539 (4.8)	11282 (100.0)
2年生	3722 (31.5)	4463 (37.7)	5380 (45.5)	2022 (17.1)	665 (5.6)	1132 (9.6)	821 (6.9)	11834 (100.0)
3年生	3289 (27.5)	4702 (39.4)	5747 (48.1)	2228 (18.7)	1226 (10.3)	1824 (15.3)	1088 (9.1)	11940 (100.0)
女性計	11309 (32.3)	13076 (37.3)	15504 (44.2)	5775 (16.5)	2289 (6.5)	3470 (9.9)	2448 (7.0)	35056 (100.0)
$\chi^2$	303.16767	56.43029	216.03781	116.37731	456.05143	749.72943	167.85970	
df	2	2	2	2	2	2	2	
p	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	
全 体								
1年生	7982 (34.7)	8279 (36.0)	8945 (38.8)	3282 (14.3)	1003 (4.4)	1238 (5.4)	1277 (5.5)	23026 (100.0)
2年生	6779 (28.0)	9803 (40.4)	10753 (44.3)	4374 (18.0)	1650 (6.8)	2650 (10.9)	2107 (8.7)	24249 (100.0)
3年生	5767 (23.5)	10444 (42.6)	11706 (47.7)	5022 (20.5)	2956 (12.1)	4418 (18.0)	3187 (13.0)	24521 (100.0)
全 体	20528 (28.6)	28526 (39.7)	31404 (43.7)	12678 (17.7)	5609 (7.8)	8306 (11.6)	6571 (9.2)	71796 (100.0)
$\chi^2$	737.79645	225.82578	386.90881	320.30225	1029.00306	1869.40445	802.37642	
df	2	2	2	2	2	2	2	
p	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	

表 51 飲酒の生涯経験率

の大麻乱用に関する生涯経験率は増加したことになる。しかし、1996年の第1回調査同様に、男女共に、全ての学年で、無回答の者の割合が経験者の割合を上回っており、相変わらず信頼性には疑問が残る。今回も、あくまでも参考データとして提供した。(第1回調査では、この設問で「大麻(マリファナ、ハシッシ、チョコ、ハッパも同じものです)」との注を入れたことが災いし、「お菓子としての『チョコ』を食べたことがある」と記載した者もいたため、今回は(マリファナ、ハシッシ、ハッパも同じものです)と注を変更した。)

## (2) 「シンナー遊び」と大麻乱用との関係

「シンナー遊び」の経験と大麻乱用の経験との関係を表55に示した。

結果には男女ともに有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められ、「シンナー遊び」未経験者では、男子で0.4%、女子で0.2%の者が大麻乱用の経験があると答えたのに対して、経験者群では、男子で25.1%、女子で27.5%の者が大麻乱用の経験があると答えた。

この結果は、1996年の第1回調査での「シンナー遊び」未経験者での男女、及び経験者での男子

	飲んだこと なし	飲酒経験あり						全 体
		冠婚葬祭	家で家族と	その他 家族と	クラス会	仲間と	一人で	
「シナ-」経験								
男 性								
なし	9137 (25.5)	15060 (42.1)	15467 (43.2)	6642 (18.6)	3097 (8.7)	4527 (12.7)	3819 (10.7)	35783 (100.0)
あり	43 (6.8)	290 (46.1)	315 (50.1)	204 (32.4)	181 (28.8)	265 (42.1)	260 (41.3)	629 (100.0)
無回答	39 (11.9)	100 (30.5)	118 (36.0)	57 (17.4)	42 (12.8)	44 (13.4)	44 (13.4)	328 (100.0)
男性計	9219 (25.1)	15450 (42.1)	15900 (43.3)	6903 (18.8)	3320 (9.0)	4836 (13.2)	4123 (11.2)	36740 (100.0)
$\chi^2$	113.73476	4.09226	11.82858	77.89858	305.48040	470.02601	584.24564	
df	1	1	1	1	1	1	1	
p	.00000	.04308	.00058	.00000	.00000	.00000	.00000	
女 性								
なし	11255 (32.6)	12870 (37.2)	15280 (44.2)	5668 (16.4)	2172 (6.3)	3281 (9.5)	2296 (6.6)	34560 (100.0)
あり	28 (8.6)	154 (47.1)	170 (52.0)	91 (27.8)	99 (30.3)	166 (50.8)	136 (41.6)	327 (100.0)
無回答	26 (15.4)	52 (30.8)	54 (32.0)	16 (9.5)	18 (10.7)	23 (13.6)	16 (9.5)	169 (100.0)
女性計	11309 (32.3)	13076 (37.3)	15504 (44.2)	5775 (16.5)	2289 (6.5)	3470 (9.9)	2448 (7.0)	35056 (100.0)
$\chi^2$	85.18084	13.44818	7.93609	30.69654	306.34877	619.65363	610.03136	
df	1	1	1	1	1	1	1	
p	.00000	.00025	.00485	.00000	.00000	.00000	.00000	
全 体								
なし	20392 (29.0)	27930 (39.7)	30747 (43.7)	12310 (17.5)	5269 (7.5)	7808 (11.1)	6115 (8.7)	70343 (100.0)
あり	71 (7.4)	444 (46.4)	485 (50.7)	295 (30.9)	280 (29.3)	431 (45.1)	396 (41.4)	956 (100.0)
無回答	65 (13.1)	152 (30.6)	172 (34.6)	73 (14.7)	60 (12.1)	67 (13.5)	60 (12.1)	497 (100.0)
全 体	20528 (28.6)	28526 (39.7)	31404 (43.7)	12678 (17.7)	5609 (7.8)	8306 (11.6)	6571 (9.2)	71796 (100.0)
$\chi^2$	213.16151	17.87321	18.89344	115.63624	624.44691	1065.80380	1217.58154	
df	1	1	1	1	1	1	1	
p	.00000	.00002	.00001	.00000	.00000	.00000	.00000	

表 52 「シンナー遊び」の経験と飲酒の経験・機会 (複数回答)

	なし	あり	無回答	全 体
男 性				
「シナ-」経験・なし	24813 (69.3)	10661 (29.8)	309 (.9)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	139 (22.1)	479 (76.2)	11 (1.7)	629 (100.0)
無回答	97 (29.6)	135 (41.2)	96 (29.3)	328 (100.0)
男性計	25049 (68.2)	11275 (30.7)	416 (1.1)	36740 (100.0)
			$(\chi^2=641.03938, df=1, p=.00000)$	
女 性				
「シナ-」経験・なし	28537 (82.6)	5810 (16.8)	213 (.6)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	82 (25.1)	243 (74.3)	2 (.6)	327 (100.0)
無回答	78 (46.2)	43 (25.4)	48 (28.4)	169 (100.0)
女性計	28697 (81.9)	6096 (17.4)	263 (.8)	35056 (100.0)
			$(\chi^2=747.80304, df=1, p=.00000)$	
全 体				
「シナ-」経験・なし	53350 (75.8)	16471 (23.4)	522 (.7)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	221 (23.1)	722 (75.5)	13 (1.4)	956 (100.0)
無回答	175 (35.2)	178 (35.8)	144 (29.0)	497 (100.0)
全 体	53746 (74.9)	17371 (24.2)	679 (.9)	71796 (100.0)
			$(\chi^2=1419.55268, df=1, p=.00000)$	

表 53 「シンナー遊び」の経験と喫煙経験との関係

	1 年生	2 年生	3 年生	全 体
男 性				
なし	11441 (97.4)	12103 (97.5)	12269 (97.5)	35813 (97.5)
あり	87 (.7)	102 (.8)	129 (1.0)	318 (.9)
無回答	216 (1.8)	210 (1.7)	183 (1.5)	609 (1.7)
男性計	11744 (100.0)	12415 (100.0)	12581 (100.0)	36740 (100.0)
			$(\chi^2=6.00997, df=2, p=.04954)$	
女 性				
なし	11094 (98.3)	11662 (98.5)	11799 (98.8)	34555 (98.6)
あり	53 (.5)	50 (.4)	56 (.5)	159 (.5)
無回答	135 (1.2)	122 (1.0)	85 (.7)	342 (1.0)
女性計	11282 (100.0)	11834 (100.0)	11940 (100.0)	35056 (100.0)
			$(\chi^2=.37655, df=2, p=.82839)$	
全 体				
なし	22535 (97.9)	23765 (98.0)	24068 (98.2)	70368 (98.0)
あり	140 (.6)	152 (.6)	185 (.8)	477 (.7)
無回答	351 (1.5)	332 (1.4)	268 (1.1)	951 (1.3)
全 体	23026 (100.0)	24249 (100.0)	24521 (100.0)	71796 (100.0)
			$(\chi^2=4.47331, df=2, p=.10682)$	

表 54 大麻乱用の生涯経験率

	なし	あり	無回答	全 体
男 性				
「シナ-」経験・なし	35177 (98.3)	148 (.4)	458 (1.3)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	453 (72.0)	158 (25.1)	18 (2.9)	629 (100.0)
無回答	183 (55.8)	12 (3.7)	133 (40.5)	328 (100.0)
男性計	35813 (97.5)	318 (.9)	609 (1.7)	36740 (100.0)
			( $\chi^2 = 4604.25803$ , $df=1$ , $p=.00000$ )	
女 性				
「シナ-」経験・なし	34210 (99.0)	66 (.2)	284 (.8)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	228 (69.7)	90 (27.5)	9 (2.8)	327 (100.0)
無回答	117 (69.2)	3 (1.8)	49 (29.0)	169 (100.0)
女性計	34555 (98.6)	159 (.5)	342 (1.0)	35056 (100.0)
			( $\chi^2 = 5545.70256$ , $df=1$ , $p=.00000$ )	
全 体				
「シナ-」経験・なし	69387 (98.6)	214 (.3)	742 (1.1)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	681 (71.2)	248 (25.9)	27 (2.8)	956 (100.0)
無回答	300 (60.4)	15 (3.0)	182 (36.6)	497 (100.0)
全 体	70368 (98.0)	477 (.7)	951 (1.3)	71796 (100.0)
			( $\chi^2 = 9809.64268$ , $df=1$ , $p=.00000$ )	

表 55 「シンナー遊び」の経験と大麻乱用の経験

	吸うべきで ない	少々なら かまわない	まったく かまわない	無回答	全 体
男 性					
「シナ-」経験・なし	33424 (93.4)	905 (2.5)	998 (2.8)	456 (1.3)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	359 (57.1)	80 (12.7)	166 (26.4)	24 (3.8)	629 (100.0)
無回答	236 (72.0)	17 (5.2)	15 (4.6)	60 (18.3)	328 (100.0)
男性計	34019 (92.6)	1002 (2.7)	1179 (3.2)	540 (1.5)	36740 (100.0)
				( $\chi^2 = 1437.69254$ , $df=2$ , $p=.00000$ )	
女 性					
「シナ-」経験・なし	32949 (95.3)	788 (2.3)	521 (1.5)	302 (.9)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	172 (52.6)	59 (18.0)	85 (26.0)	11 (3.4)	327 (100.0)
無回答	129 (76.3)	12 (7.1)	5 (3.0)	23 (13.6)	169 (100.0)
女性計	33250 (94.8)	859 (2.5)	611 (1.7)	336 (1.0)	35056 (100.0)
				( $\chi^2 = 1550.00394$ , $df=2$ , $p=.00000$ )	
全 体					
「シナ-」経験・なし	66373 (94.4)	1693 (2.4)	1519 (2.2)	758 (1.1)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	531 (55.5)	139 (14.5)	251 (26.3)	35 (3.7)	956 (100.0)
無回答	365 (73.4)	29 (5.8)	20 (4.0)	83 (16.7)	497 (100.0)
全 体	67269 (93.7)	1861 (2.6)	1790 (2.5)	876 (1.2)	71796 (100.0)
				( $\chi^2 = 2972.66390$ , $df=2$ , $p=.00000$ )	

表 56 大麻を吸うことをどう思いますか？

の結果とほとんど同じであるが、「シンナー遊び」経験者女子での割合は、1996年の20%から、かなりの増加を示している。注意を要するところである。

### (3) 大麻吸引に対する意識について

「大麻を吸うことをどう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表56に示した。

回答の分布には、男女共に有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められた。「シンナー遊び」未経験者群では、男子で93%、女子で95%の者が「吸うべきではないと思う」を選んだのに対して、「シンナー遊び」経験者群では、それを選んだ者は、男子で57%、女子で53%であり、男女共に26%の者が「まったくかまわないと思う」を選択した。

これについては、「シンナー遊び」、喫煙、飲酒、大麻吸引、覚せい剤使用に対する意識の比較として、考察で論じたい。

### (4) 大麻吸引による医学的害について

「大麻を吸うと、精神病状態や無動機症候群になることがあるのを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表57に示した。

回答の分布には、男子では有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められたが、女子では認められなかった。しかし、男女共に、「知っている」を選んだ者は、「シンナー遊び」経験者群の方が多いという結果であった。これは有機溶剤乱用による医学的害(表14～18)の場合と同じであり、知識教育上の課題になると考えられる。

## 4. 「シンナー遊び」と覚せい剤乱用との関係

### (1) 覚せい剤乱用の生涯経験率について

覚せい剤乱用の生涯経験率(これまでに1回でも経験したことがある率)を表58に示した。

覚せい剤の生涯経験率は、男子では0.7%(1年生0.5%、2年生0.7%、3年生0.8%)で、女子では0.3%(1年生0.2%、2年生0.3%、3年生0.4%)であった。学年による有意差は男女共に認められた ( $p < 0.05$ )。ちなみに1996年の第1回調査<sup>9)</sup>では、男子

	知っている	知らない	無回答	全体
<b>男 性</b>				
「シナ-」経験・なし	17215 (48.1)	17544 (49.0)	1024 (2.9)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	329 (52.3)	251 (39.9)	49 (7.8)	629 (100.0)
無回答	101 (30.8)	168 (51.2)	59 (18.0)	328 (100.0)
男性計	17645 (48.0)	17963 (48.9)	1132 (3.1)	36740 (100.0)
			( $\chi^2 = 11.82153$ , $df=1$ , $p=.00059$ )	
<b>女 性</b>				
「シナ-」経験・なし	16044 (46.4)	18042 (52.2)	474 (1.4)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	163 (49.8)	150 (45.9)	14 (4.3)	327 (100.0)
無回答	62 (36.7)	85 (50.3)	22 (13.0)	169 (100.0)
女性計	16269 (46.4)	18277 (52.1)	510 (1.5)	35056 (100.0)
			( $\chi^2 = 3.12122$ , $df=1$ , $p=.07728$ )	
<b>全 体</b>				
「シナ-」経験・なし	33259 (47.3)	35586 (50.6)	1498 (2.1)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	492 (51.5)	401 (41.9)	63 (6.6)	956 (100.0)
無回答	163 (32.8)	253 (50.9)	81 (16.3)	497 (100.0)
全 体	33914 (47.2)	36240 (50.5)	1642 (2.3)	71796 (100.0)
			( $\chi^2 = 16.25130$ , $df=1$ , $p=.00006$ )	

表57 大麻を吸うと精神病状態や無動機症候群になることがあるのを知っていますか？

	1年生	2年生	3年生	全体
男 性				
なし	11460 (97.6)	12132 (97.7)	12281 (97.6)	35873 (97.6)
あり	60 (.5)	81 (.7)	104 (.8)	245 (.7)
無回答	224 (1.9)	202 (1.6)	196 (1.6)	622 (1.7)
男性計	11744 (100.0)	12415 (100.0)	12581 (100.0)	36740 (100.0)
			( $\chi^2=9.07116$ , $df=2$ , $p=.01072$ )	
女 性				
なし	11139 (98.7)	11667 (98.6)	11783 (98.7)	34589 (98.7)
あり	26 (.2)	35 (.3)	51 (.4)	112 (.3)
無回答	117 (1.0)	132 (1.1)	106 (.9)	355 (1.0)
女性計	11282 (100.0)	11834 (100.0)	11940 (100.0)	35056 (100.0)
			( $\chi^2=7.31441$ , $df=2$ , $p=.02580$ )	
全 体				
なし	22599 (98.1)	23799 (98.1)	24064 (98.1)	70462 (98.1)
あり	86 (.4)	116 (.5)	155 (.6)	357 (.5)
無回答	341 (1.5)	334 (1.4)	302 (1.2)	977 (1.4)
全 体	23026 (100.0)	24249 (100.0)	24521 (100.0)	71796 (100.0)
			( $\chi^2=16.15665$ , $df=2$ , $p=.00031$ )	

表 58 覚せい剤の乱用経験（生涯経験率）

	なし	あり	無回答	全 体
男 性				
「シナ-」経験・なし	35205 (98.4)	99 (.3)	479 (1.3)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	469 (74.6)	140 (22.3)	20 (3.2)	629 (100.0)
無回答	199 (60.7)	6 (1.8)	123 (37.5)	328 (100.0)
男性計	35873 (97.6)	245 (.7)	622 (1.7)	36740 (100.0)
			( $\chi^2=4669.86341$ , $df=1$ , $p=.00000$ )	
女 性				
「シナ-」経験・なし	34228 (99.0)	32 (.1)	300 (.9)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	242 (74.0)	76 (23.2)	9 (2.8)	327 (100.0)
無回答	119 (70.4)	4 (2.4)	46 (27.2)	169 (100.0)
女性計	34589 (98.7)	112 (.3)	355 (1.0)	35056 (100.0)
			( $\chi^2=5734.83582$ , $df=1$ , $p=.00000$ )	
全 体				
「シナ-」経験・なし	69433 (98.7)	131 (.2)	779 (1.1)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	711 (74.4)	216 (22.6)	29 (3.0)	956 (100.0)
無回答	318 (64.0)	10 (2.0)	169 (34.0)	497 (100.0)
全 体	70462 (98.1)	357 (.5)	977 (1.4)	71796 (100.0)
			( $\chi^2=9976.48665$ , $df=1$ , $p=.00000$ )	

表 59 「シナ-遊び」の経験と覚せい剤乱用経験との関係

では0.4% (1年生0.3%、2年生0.4%、3年生0.5%)で、女子では0.2% (1年生0.3%、2年生0.2%、3年生0.3%)であった。単純に比較すれば、この2年間で、中学生の覚せい剤乱用に関する生涯経験率は増加したことになる。しかし、1996年の第1回調査同様に、男女共に、全ての学年で、無回答の者の割合が経験者の割合を上回っており、相変わらず信頼性には疑問が残る。今回も、あくまでも参考データとして提供した。

なお、1996年の第1回調査では、設問に「覚せい剤 (スピード、エス、アイスも同じものです)」と注をつけたのが災いして、「お菓子としての『アイス』を食べたことがある」と記載した者がいたため、今回は (スピード、エスも同じものです) との注に変更した。

#### (4) 「シンナー遊び」と覚せい剤乱用経験との関係

「シンナー遊び」の経験と覚せい剤乱用経験との関係を表59に示した。

「シンナー遊び」未経験者では、覚せい剤乱用の経験があると選んだ者は、男子で0.3%、女子で0.1%、全体で0.2%であったのに対して、「シンナー遊び」経験者では、男子で22.3%、女子で23.2%の者が、覚せい剤の乱用経験ありを選んだ。

ちなみに、1996年の第1回調査では、覚せい剤の乱用経験ありを選んだ「シンナー遊び」経験者は、男子で15.7%、女子で18.0%であり、いずれも今回の方が高い。

#### (5) 覚せい剤乱用による医学的害について

「覚せい剤を使うと、精神病状態になりやすく、またフラッシュバックがあることを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表60に示した。

回答の分布には、男子では有意差 ( $p < 0.01$ ) が認められたが、女子では認められなかった。しかし、男女共に、「知っている」を選んだ者は、「シンナー遊び」経験者群の方が多という結果であった。これは有機溶剤乱用による医学的害 (表14

	知っている	知らない	無回答	全体
<b>男 性</b>				
「シナ-」経験・なし	19323 (54.0)	15966 (44.6)	494 (1.4)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	366 (58.2)	236 (37.5)	27 (4.3)	629 (100.0)
無回答	106 (32.3)	174 (53.0)	48 (14.6)	328 (100.0)
男性計	19795 (53.9)	16376 (44.6)	569 (1.5)	36740 (100.0)
				( $\chi^2 = 8.72234$ , $df=1$ , $p=.00314$ )
<b>女 性</b>				
「シナ-」経験・なし	20029 (58.0)	14287 (41.3)	244 (.7)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	185 (56.6)	136 (41.6)	6 (1.8)	327 (100.0)
無回答	66 (39.1)	85 (50.3)	18 (10.7)	169 (100.0)
女性計	20280 (57.9)	14508 (41.4)	268 (.8)	35056 (100.0)
				( $\chi^2 = .07050$ , $df=1$ , $p=.79061$ )
<b>全 体</b>				
「シナ-」経験・なし	39352 (55.9)	30253 (43.0)	738 (1.0)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	551 (57.6)	372 (38.9)	33 (3.5)	956 (100.0)
無回答	172 (34.6)	259 (52.1)	66 (13.3)	497 (100.0)
全 体	40075 (55.8)	30884 (43.0)	837 (1.2)	71796 (100.0)
				( $\chi^2 = 3.70362$ , $df=1$ , $p=.05429$ )

表 60 覚せい剤を使うと、精神病状態になりやすく、またフラッシュバックがあることを知っていますか？

～18)、大麻吸引による医学的害(表57)の場合と同じであり、知識教育上の課題になると考えられる。

## 5. 違法薬物の入手可能性について

### (1) 乱用のための有機溶剤の入手可能性について

乱用のための有機溶剤の入手可能性についての回答の分布を表61に示した。

「簡単に手に入る」「少々苦勞するが、なんとか手に入る」を選んだの者の合計は、「シンナー遊び」未経験者群では、男子で41%、女子で34%であり、経験者群では、男子で72%、女子で73%と、両群には有意差(p<0.01)が認められた。

### (2) 大麻の入手可能性について

大麻の入手可能性についての回答の分布を表62に示した。

「簡単に手に入る」「少々苦勞するが、なんとか手に入る」を選んだの者の合計は、「シンナー遊び」未経験者群では、男子で23%、女子で21%であり、経験者群では、男子で51%、女子で50%であり、両群には有意差(p<0.01)が認められた。

「簡単に手に入る」「少々苦勞するが、なんとか手に入る」を選んだの者の合計は、「シンナー遊び」未経験者群では、男子で24%、女子で23%であり、経験者群では、男女共に51%であり、両群には有意差(p<0.01)が認められた。

### (3) 覚せい剤の入手可能性について

「簡単に手に入る」「少々苦勞するが、なんとか手に入る」を選んだの者の合計は、「シンナー遊び」経験者群でのこの値は、大麻の入手可能性の値と同じか、むしろ高めである。

以上、3つの違法性薬物の入手可能性については、考察で論じたい。

## D. 考察

### 1. 本調査研究の位置づけ

	簡単に手に入る	苦勞するが手に入る	ほとんど不可能	絶対不可能	無回答	全体
<b>男 性</b>						
「シンナ-」経験・なし	8174 (22.8)	6548 (18.3)	7103 (19.9)	12883 (36.0)	1075 (3.0)	35783 (100.0)
「シンナ-」経験・あり	333 (52.9)	123 (19.6)	61 (9.7)	92 (14.6)	20 (3.2)	629 (100.0)
無回答	68 (20.7)	47 (14.3)	49 (14.9)	89 (27.1)	75 (22.9)	328 (100.0)
男性計	8575 (23.3)	6718 (18.3)	7213 (19.6)	13064 (35.6)	1170 (3.2)	36740 (100.0)
	( $\chi^2=352.47181$ , df=3, p=.00000)					
<b>女 性</b>						
「シンナ-」経験・なし	5027 (14.5)	6750 (19.5)	7026 (20.3)	14819 (42.9)	938 (2.7)	34560 (100.0)
「シンナ-」経験・あり	164 (50.2)	73 (22.3)	24 (7.3)	52 (15.9)	14 (4.3)	327 (100.0)
無回答	13 (7.7)	32 (18.9)	30 (17.8)	63 (37.3)	31 (18.3)	169 (100.0)
女性計	5204 (14.8)	6855 (19.6)	7080 (20.2)	14934 (42.6)	983 (2.8)	35056 (100.0)
	( $\chi^2=365.36667$ , df=3, p=.00000)					
<b>全 体</b>						
「シンナ-」経験・なし	13201 (18.8)	13298 (18.9)	14129 (20.1)	27702 (39.4)	2013 (2.9)	70343 (100.0)
「シンナ-」経験・あり	497 (52.0)	196 (20.5)	85 (8.9)	144 (15.1)	34 (3.6)	956 (100.0)
無回答	81 (16.3)	79 (15.9)	79 (15.9)	152 (30.6)	106 (21.3)	497 (100.0)
全 体	13779 (19.2)	13573 (18.9)	14293 (19.9)	27998 (39.0)	2153 (3.0)	71796 (100.0)
	( $\chi^2=750.36487$ , df=3, p=.00000)					

表61 有機溶剤の入手可能性



	簡単に 手に入る	苦勞するが 手に入る	ほとんど 不可能	絶対不可能	無回答	全 体
男 性						
「シナ-」経験・なし	2720 (7.6)	5410 (15.1)	8562 (23.9)	18079 (50.5)	1012 (2.8)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	161 (25.6)	157 (25.0)	114 (18.1)	178 (28.3)	19 (3.0)	629 (100.0)
無回答	32 (9.8)	46 (14.0)	66 (20.1)	112 (34.1)	72 (22.0)	328 (100.0)
男性計	2913 (7.9)	5613 (15.3)	8742 (23.8)	18369 (50.0)	1103 (3.0)	36740 (100.0)
				$(\chi^2=362.45730, df=3, p=.00000)$		
女 性						
「シナ-」経験・なし	1796 (5.2)	5409 (15.7)	7744 (22.4)	18730 (54.2)	881 (2.5)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	80 (24.5)	82 (25.1)	71 (21.7)	80 (24.5)	14 (4.3)	327 (100.0)
無回答	10 (5.9)	18 (10.7)	37 (21.9)	72 (42.6)	32 (18.9)	169 (100.0)
女性計	1886 (5.4)	5509 (15.7)	7852 (22.4)	18882 (53.9)	927 (2.6)	35056 (100.0)
				$(\chi^2=300.24681, df=3, p=.00000)$		
全 体						
「シナ-」経験・なし	4516 (6.4)	10819 (15.4)	16306 (23.2)	36809 (52.3)	1893 (2.7)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	241 (25.2)	239 (25.0)	185 (19.4)	258 (27.0)	33 (3.5)	956 (100.0)
無回答	42 (8.5)	64 (12.9)	103 (20.7)	184 (37.0)	104 (20.9)	497 (100.0)
全 体	4799 (6.7)	11122 (15.5)	16594 (23.1)	37251 (51.9)	2030 (2.8)	71796 (100.0)
				$(\chi^2=682.96736, df=3, p=.00000)$		

表 62 大麻の入手可能性

	簡単に 手に入る	苦勞するが 手に入る	ほとんど 不可能	絶対不可能	無回答	全 体
男 性						
「シナ-」経験・なし	3058 (8.5)	5386 (15.1)	8012 (22.4)	18377 (51.4)	950 (2.7)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	179 (28.5)	143 (22.7)	115 (18.3)	174 (27.7)	18 (2.9)	629 (100.0)
無回答	32 (9.8)	34 (10.4)	59 (18.0)	131 (39.9)	72 (22.0)	328 (100.0)
男性計	3269 (8.9)	5563 (15.1)	8186 (22.3)	18682 (50.8)	1040 (2.8)	36740 (100.0)
				$(\chi^2=373.25923, df=3, p=.00000)$		
女 性						
「シナ-」経験・なし	2301 (6.7)	5452 (15.8)	7273 (21.0)	18731 (54.2)	803 (2.3)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	85 (26.0)	83 (25.4)	57 (17.4)	88 (26.9)	14 (4.3)	327 (100.0)
無回答	11 (6.5)	19 (11.2)	35 (20.7)	74 (43.8)	30 (17.8)	169 (100.0)
女性計	2397 (6.8)	5554 (15.8)	7365 (21.0)	18893 (53.9)	847 (2.4)	35056 (100.0)
				$(\chi^2=247.39509, df=3, p=.00000)$		
全 体						
「シナ-」経験・なし	5359 (7.6)	10838 (15.4)	15285 (21.7)	37108 (52.8)	1753 (2.5)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	264 (27.6)	226 (23.6)	172 (18.0)	262 (27.4)	32 (3.3)	956 (100.0)
無回答	43 (8.7)	53 (10.7)	94 (18.9)	205 (41.2)	102 (20.5)	497 (100.0)
全 体	5666 (7.9)	11117 (15.5)	15551 (21.7)	37575 (52.3)	1887 (2.6)	71796 (100.0)
				$(\chi^2=646.55649, df=3, p=.00000)$		

表 63 覚せい剤の入手可能性

わが国の中学生における「シンナー遊び」の広がりについての調査研究で、地域特性を考慮して行われた大規模なものとしては、当分担研究者の知る限り、1990年に当分担研究者らによって千葉県公立中学校12校5,240人を対象に行われた調査研究<sup>4)</sup>、その後の厚生科学研究費補助金による一連の調査研究（千葉県の公立中学校14校6,121人、1992年）<sup>12)</sup>、（関東地方一都六県公立中学校12校7,166人、1993年）<sup>13)</sup>、（千葉県の公立中学校15校6,795人、及び西日本のA県B市の全12校の全中学生6,358人、1994年）<sup>11)</sup>、1996年の第1回本全国調査<sup>9)</sup>に限られている。

また、上記一連の調査研究をもとに、当分担研究者は、従来「シンナー遊び」経験者は母子家庭を中心に、「欠損家庭」（最近では「単親家庭」と呼ぶ傾向が強まっている）「崩壊家庭」の子供に多いことが指摘されてきたが、一見問題なさそうな家庭の子供における「シンナー遊び」が、近年目につくようになってきたという臨床経験に対して、夕食頻度等の結果から、たとえ両親がそろっていても、質的に家庭の団らんが少ない「精神的欠損家庭」<sup>4)16)</sup>とでも言うべき家庭の子供に「シンナー遊び」経験者が少なからずいることを示唆

してきた<sup>4)16)</sup>。

今回の調査研究は、上記一連の調査研究を継続表発展させたものであり、わが国では薬物乱用に関する第2回目の全国中学生調査である。

## 2. 「シンナー遊び」の広がりについて

今回の調査研究では、「シンナー遊び」の生涯経験率は、男子では1.7%（1年生1.2%、2年生1.6%、3年生2.3%）、女子では0.9%（1年生0.9%、2年生0.8%、3年生1.1%）、全体では1.3%（1年生1.1%、2年生1.2%、3年生1.7%）であった。この結果は、1996年に実施した第1回全国調査の結果（男子で1.4%、女子で0.7%、全体で1.1%）よりは高い値である。したがって、今回の結果を単純に比べると、1996年以降、中学生における「シンナー遊び」生涯経験率は上昇したことになる。

しかし、この種の調査で最も問題になるのは、結果の信頼性であろう。この信頼性は、自記式調査と同時に、何らかの客観的検査（たとえば尿からの馬尿酸の測定）を実施することによって、初めて明らかになることである。しかしながら、尿検査の実施は、個人の人権上の問題にも関わる難

	1990年 <sup>4)</sup>	1992年 <sup>12)</sup>	1994年 <sup>11)</sup>	1996年 <sup>9)</sup>	今回	1996年 <sup>9)</sup>	今回
男 性	2.1	2.5	1.8	1.5	1.7	1.4	1.7
1年生	1.2	1.8	1.0	1.4	0.8	1.1	1.2
2年生	2.9	3.5	2.2	1.3	1.8	1.3	1.6
3年生	2.3	2.0	2.3	1.9	2.6	1.7	2.3
女 性	0.9	1.2	1.1	0.8	0.6	0.7	0.9
1年生	0.4	0.9	1.0	0.6	0.7	0.7	0.9
2年生	0.8	1.2	1.2	0.6	0.7	0.6	0.8
3年生	1.7	1.5	1.1	1.2	0.3	0.7	1.1
全 体	1.5	1.8	1.5	1.2	1.2	1.1	1.3
1年生	0.8	1.4	1.0	1.0	0.8	0.9	1.1
2年生	1.9	2.4	1.7	1.0	1.2	1.0	1.2
3年生	1.9	1.8	1.7	1.6	1.4	1.3	1.7
対象	千葉県 12校 5,240人	千葉県 14校 6,121人	千葉県 15校 6,795人	千葉県 8校 4,521人	千葉県 9校 5,362人	全国 108校 54,048人	全国 148校 71,796人

表64 「シンナー遊び」生涯経験率の推移 (%)

しい方法であり、実施は事実上不可能である。したがって、当研究者らは、類似した方法論にもとづく継続的な調査の結果によるトレンドを見ることが、本調査研究の主目的であると考えている。同時に「シンナー遊び」の広がりが増減を判断するには、生涯経験率だけではなく、いくつかの関連する指標の結果をも考慮して、総合的に判断する必要があると考えている。

表64は、今回及び第1回全国調査の結果と千葉県での同種の一連の調査結果の比較表である。今回の調査による全国の生涯経験率は、1996年の第1回全国調査よりは確かに上昇している。しかし、1990年から本調査を継続している千葉県では、1996年との比較上は、男子では1.5%から1.7%に増加したが、女子では0.8%から0.6%に低下し、全体では、1.2%のままであり、全くの横這い状態である。

一方、「シンナー遊び」を目撃したことのある率（目撃率：表65）、身近に「シンナー遊び」をしている人がいる率（乱用者を知っている率：表66）、「シンナー遊び」に誘われたことのある率（誘われ経験率：表67）は、中学生にとっての「シンナー遊び」の身近さを示す重要な指標である。これらは全て、男女ともに、学年が進むにしたがって率が高くなっており、先の生涯経験率と表裏一

体の関係にある。本研究者らは、この目撃率、乱用者を知っている率、誘われ経験率が、「シンナー遊び」の広がりを間接的に反映する指標になると考えている。

今回の全国調査の結果では、第1回全国調査との比較では、目撃率（表65）に関しては低下している（11.8%から10.3%）が、「経験者がいる」率は微増傾向を示し（5.2%から5.4%）、「誘われた」率は横這い状態を示している（1.6%のまま）。

一方、千葉県の推移では、男子での「誘われた」率（表67）が微増した以外は、すべて明らかに低下している。

また、これは、生涯経験率にも関係する重要要素であるが、表1に示した各都道府県での実施率が無視できない。

前回（1996年）の第1回全国調査では、全国での回答率（学校数で）は58.1%であり、しかも、回答をまったくいただけなかった府県が8つあり、その中には、人口10万人当たりの覚せい剤取締法違反検挙者数が全国平均よりも高い<sup>18)</sup>府県が4つ含まれていた。その点、今回の調査では、全国での回答率が71.2%と増加し、同時に、回答を全くいただけなかった県が2つだけ（しかも、この2県は、人口10万人当たりの覚せい剤取締法違

	1990年 <sup>4)</sup>	1992年 <sup>12)</sup>	1994年 <sup>11)</sup>	1996年 <sup>9)</sup>	今回	1996年 <sup>9)</sup>	今回
男 性	27.5	24.6	19.0	16.5	9.9	12.2	10.7
1年生	23.8	21.6	17.1	12.6	6.3	9.9	8.7
2年生	26.5	18.5	19.1	17.5	9.6	12.6	9.9
3年生	31.7	21.9	20.6	19.0	13.4	14.1	13.3
女 性	27.9	20.1	16.2	15.2	7.5	11.4	9.8
1年生	22.0	17.0	12.7	11.9	6.7	9.1	8.3
2年生	27.9	13.6	17.3	15.0	7.6	12.0	9.5
3年生	32.2	16.9	18.5	18.6	8.1	13.0	11.5
全 体	27.7	22.3	17.6	15.8	8.7	11.8	10.3
1年生	22.9	19.3	15.0	12.2	6.5	9.5	8.5
2年生	27.1	16.1	18.1	16.3	8.6	12.3	9.7
3年生	32.0	19.4	19.5	18.8	10.7	13.6	12.4
対象	千葉県 12校 5,240人	千葉県 14校 6,121人	千葉県 15校 6,795人	千葉県 8校 4,521人	千葉県 9校 5,362人	全国 108校 54,048人	全国 148校 71,796人

表65 「シンナー遊び」を実際に見たことがある者の率 (%)

反検挙者数が全国平均よりも低い<sup>10)</sup>県である)であった点は、今回の結果を1996年の第1回調査の結果と比較する際には考慮すべき点であろうと考えている。

したがって、表64～表67を総合的に判断した場合、わが国における中学生の「シンナー遊び」の広がり、1996年に比べて、横這いであると解釈するのが妥当であろうと思われる。

ただし、わが国における有機溶剤乱用の広がり、の勢いを推定するためには、犯罪白書<sup>9)</sup>による「毒物及び劇物取締法」違反者数および「薬物関連精神疾患に関する全国精神病院調査」の結果<sup>1)</sup>をも参考にする必要がある。

犯罪白書<sup>9)</sup>によれば、毒物及び劇物取締法違反による送致件数は、1982年の36,796人をピークに減少し始め、1989年～1991年には27,000人～29,000人台の「横這い状態」にあったが、1992年には21,603人とさらに減少し、その後も減少を続け、1997年には7,415人となっている。また、「薬物関連精神疾患に関する全国精神病院調査」<sup>1)</sup>でも、1991年に覚せい剤を抜いて原因薬物のトップになった有機溶剤が、1993年以降は覚せい剤に次ぐ第2位となり、その後は第2位を保ちながらも大きく

低下し、1996年には、その割合は覚せい剤の56%に対して、23%となっており、どうやら、1992年ないしは1993年以降、有機溶剤の乱用は減少傾向にある(厳密には、かつてほどの流行の勢いはない)ようである。

しかし、警察庁生活安全局少年課による「少年非行等の概要(平成10年1～12月)」によれば、1998年の「シンナー等の摂取・所持で補導した犯罪少年は、4,496人で、前年に比べ339人(8.2%)増加し、平成2年以来8年ぶりの増加」となっている。人数的には、1995年の5,456人よりは少ないが、1996年の4,489人を少々上回った数であり、有機溶剤乱用が、再度増加し始めている可能性が危惧される。

したがって、今回の全国の生涯経験率の微増は、上記を反映している可能性もあり、有機溶剤乱用の動向には、これまで以上の注意が必要である。

また、この1年間での有機溶剤乱用経験率(1年経験率)については、これまでの一連の調査研究<sup>4)11)12)13)</sup>でも、論評をしてこなかったが、それは結果の数字が非常に小さく、無回答の者の方が常に多いという結果であったからである。これは今回についても同じであり、あくまでも参考資料と

	1990年 <sup>4)</sup>	1992年 <sup>12)</sup>	1994年 <sup>11)</sup>	1996年 <sup>9)</sup>	今回	1996年 <sup>9)</sup>	今回
男 性	9.4	8.0	4.6	9.1	3.7	4.8	5.0
1年生	5.6	7.0	3.7	7.0	2.3	3.5	3.4
2年生	10.4	4.2	4.2	10.8	3.6	4.5	4.9
3年生	11.8	8.9	5.7	9.4	5.1	6.4	6.6
女 性	14.0	9.0	5.4	7.3	3.6	5.6	5.8
1年生	8.2	8.2	3.3	4.8	3.5	3.9	4.1
2年生	14.2	6.0	6.5	8.3	4.1	6.2	5.8
3年生	18.1	9.5	6.5	8.6	3.2	6.8	7.4
全 体	11.6	8.5	5.0	8.2	3.6	5.2	5.4
1年生	6.8	7.6	3.5	5.9	2.9	3.7	3.7
2年生	12.2	5.0	5.2	9.5	3.8	5.3	5.3
3年生	14.9	9.2	6.1	9.0	4.2	6.6	7.0
対象	千葉県 12校 5,240人	千葉県 14校 6,121人	千葉県 15校 6,795人	千葉県 8校 4,521人	千葉県 9校 5,362人	全国 108校 54,048人	全国 148校 71,796人

表66 身近に「シンナー遊び」をしている人がいると答えた者の率 (%)

言うことになる。

### 3. 「シンナー遊び」と日常生活・家庭生活・友人関係

「シンナー遊び」経験者群と非経験者群との比較では、「起床時間の規則性」(表20)、「就床時間の規則性」(表21)、「朝食の摂取率」(表22)から見た日常生活の規則性、及び「学校生活への思い」(表23)、「クラブ活動の参加状況」(表24)、「親しく遊べる友人の存在」(表31)、「相談事の出来る友人の存在」(表32)において、統計学的有意差が認められており、「シンナー遊び」経験者群での日常生活の不規則さ、学校生活不適応、友人関係の希薄さが明かである。

これらの背景には、そもそもの家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられるが、表25～27に見る家族との夕食頻度の差は、今回の調査でも「シンナー遊び」経験者群と非経験者群とで歴然としている。

同時に、親との相談頻度の低さ(表30)と共に、家庭は「うまくいっていない」と答えた者が経験者群で有意に多い(表28) 事実は、「シンナー遊

び」が家庭のあり方と密接な関係を有していることを裏付けている。

事実、経験者群・非経験者群に関わらず、「シンナー遊び」をする原因として、「家庭に問題がある」(表13)と答えた者が、経験者群では、比較の上では、男女共に最も多い。

ところで、「父親との夕食頻度(表27)」は、「家族全員での夕食頻度(表25)」よりも低率になっており、これは明らかに矛盾であった。しかも、この矛盾は、これまでの同種の調査<sup>4)11)12)13)</sup>でも毎回認められており、中学生の考えの中には、「家族全員での夕食」と言った時、父親は既に除外されている傾向がそれなりにあることを示唆している。つまり、その背景には、父親はいつも帰りが遅いものだという中学生の考え方を伺うことができる。

そもそも、当研究者らは、夕食には「一家団欒」という意味合いがあると考えて調査項目に入れてきた。しかし、この夕食頻度には地域差が大きく、都市部ほど低く、農村部・山間部ほど高い傾向がある<sup>4)12)13)</sup>。「一家団欒」には、家族としての精神的意味合いも含まれるが、特に都市部における生活様式の多様性を考慮すると、親子の共有時間に

	1990年 <sup>4)</sup>	1992年 <sup>12)</sup>	1994年 <sup>11)</sup>	1996年 <sup>9)</sup>	今回	1996年 <sup>9)</sup>	今回
男 性	3.0	3.5	1.9	2.3	2.5	1.7	1.9
1年生	2.0	3.1	0.3	1.0	0.9	1.2	0.9
2年生	3.5	2.1	1.9	2.7	3.0	1.7	1.8
3年生	3.5	3.6	3.5	3.1	3.4	2.4	2.8
女 性	2.2	3.7	1.4	2.0	0.9	1.5	1.4
1年生	0.8	2.7	1.1	1.8	1.1	1.1	0.9
2年生	2.0	1.2	1.1	1.8	0.9	1.6	1.4
3年生	3.3	3.2	2.1	2.3	0.6	1.8	1.9
全 体	2.6	3.6	1.7	2.1	1.7	1.6	1.6
1年生	1.5	2.9	0.7	1.4	1.0	1.1	0.9
2年生	2.8	1.7	1.5	2.3	1.9	1.6	1.6
3年生	3.3	3.4	2.8	2.7	2.0	2.1	2.3
対象	千葉県 12校 5,240人	千葉県 14校 6,121人	千葉県 15校 6,795人	千葉県 8校 4,521人	千葉県 9校 5,362人	全国 108校 54,048人	全国 148校 71,796人

表67 「シンナー遊び」に誘われたことのある率の推移 (%)

ついで、もう少し直接的な項目が必要であると  
考えていた。そこで「学校、塾、習い事、運動で  
の時間以外、大人が不在の状態、毎日平均どの  
程度の時間を過ごしますか？」という項目も調べ  
ている（表29）。その結果、「シンナー遊び」非経  
験者では一日3時間以上大人不在で過ごす者は約1  
4%であるのに対して、「シンナー遊び」経験者群  
では約30%にのぼるという結果を得た。

結局、今回も、有機溶剤経験者群は、総体的に  
見れば、家庭にも、学校にもなじみず、友人関係  
も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供  
たち」<sup>4)14)</sup>が多いという推定が成り立つ。

表11～表12は「シンナー遊び」をしている者  
について、どのような気持ちを持っているのかを見  
たものである。表11～12では、経験者群と非経  
験者群での捉え方に、明らかな乖離が認められる。  
非経験者から見れば、経験者はほとんど「無関係」  
な人たち（90%以上）であり、経験者から見れば  
経験者は「気持ちがわかる」人たちである割合が  
非常に高いということである。このことは、経験  
者群での「居場所のない子供たち」<sup>4)14)</sup>という推  
論をさらに支持する結果であると思われる。

有機溶剤乱用者への治療的介入の際に、当研究  
者らは、親の参加なくして子の回復はないと考  
えており、親子の共有時間を増やすことの重要性  
を説いているが<sup>4)14)16)</sup>、今回の結果はその理由の有力  
な根拠である。

しかも、経験論的には、本調査の結果を保護者  
に紹介することが、保護者の意識変革には重要な  
ようである。

#### 4. 「シンナー遊び」による医学的害

薬物乱用防止には、薬物乱用による諸害をきち  
んと認識させることが重要である。ところが、「知  
識」があれば乱用しないかとなると、そうとも  
言えない面がある。

有機溶剤乱用による「歯の腐食」（表15）、「無  
動機症候群」（表18）、「フラッシュバック」（表19）  
についての知識は、男女共に、経験者群の方が知  
っているという結果であった。これらは、これま  
での一連の同種の調査<sup>4)11)12)13)</sup>でも認められてお  
り、「知識」と「行動」の不一致を改めて確認す  
る結果となった。

しかし、従来調査では、「急性中毒死」（表14）、

「多発神経炎」（表16）、「精神病状態」（表17）に  
ついての知識保有率も「シンナー遊び」経験者群  
の方が高かった<sup>4)11)12)13)</sup>のに対して、今回の結果で  
は、これらに対しては、「シンナー遊び」非経  
験者群の方が知識保有率が高いか、あるいは同程度  
であったという結果は、ここ数年間での薬物乱用  
防止教育推進の結果の可能性もある。

ただし、個々についての知識保有率が十分かと  
いうと、そうとも言えない点もあり、今後も薬物  
乱用防止教育を押し進めていく必要がある。

なお、薬物乱用防止教育には、「知識が行動に  
結びつくとは限らない」という大きな課題が常に  
存在するわけで、これに関しては、薬物依存から  
の回復の苦しみをドキュメンタリー形式で紹介し  
たビデオ（平成9年度文部省制作「なくした自由」）  
の活用が効果的と考えられる。

#### 5. 大麻・覚せい剤の乱用経験

今回の調査では、大麻の生涯経験率は、男子で  
0.9%、女子で0.5%、全体で0.7%であり、覚せい  
剤の生涯経験率は、男子で0.7%、女子で0.3%、  
全体で0.5%であった。1996年の第1回調査では、  
それぞれ大麻では、0.7%、0.3%、0.5%であり、  
覚せい剤では0.4%、0.2%、0.3%であった。これ  
らの結果は、大麻も覚せい剤も生涯経験率は上昇  
したと言いたくなるが、そのように結論づけられ  
ない点は、数字自体が非常に小さい「シンナー遊  
び」のこの1年間での経験率と同様である。

ただし、第3次覚せい剤乱用期と呼ばれるきっ  
かを作ったのは高校生であり<sup>8)</sup>、1997年には、覚  
せい剤取締法により補導された中学生数も倍増し  
たことから、今後も嚴重に調べていく必要がある。

#### 6. 違法薬物の入手可能性の比較

1993年以来、一部の外国人を中心に、大麻およ  
び覚せい剤が、大都会では路上で密売されるよう  
になり、第3次覚せい剤乱用期を作り出した<sup>8)</sup>。そ  
の影響と思われるが、1996年の1年間に覚せい剤  
取締法により検挙された高校生の数は対前年度比  
2.3倍と激増した<sup>8)</sup>。いくら有機溶剤乱用の勢いが  
鈍ったようだと言っても、この現実、わが国の  
薬物汚染状況の深刻化以外の何物でもない。

表68は、本調査による違法薬物の入手可能性

の比較である。

有機溶剤は日常生活上の必需品であり、その気になれば入手は極めて簡単である。しかし、表 68

の結果は「簡単に手に入る」を選んだ者が、予想外に少ない。どうやら、「シンナー遊び」のための「有機溶剤」という問いの言葉から、トルエン

	簡単に 手に入る	苦勞するが 手に入る	ほとんど 不可能	絶対不可能	無回答	全 体
「シンナー遊び」未経験群 (男子)	n=35,783					
有機溶剤	22.8	18.3	19.9	36.0	3.0	100
大麻	7.6	15.1	23.9	50.5	2.8	100
覚せい剤	8.5	15.1	22.4	51.4	2.7	100
「シンナー遊び」未経験群 (女子)	n=34,560					
有機溶剤	14.5	19.5	20.3	42.9	2.7	100
大麻	5.2	15.7	22.4	54.2	2.5	100
覚せい剤	6.7	15.8	21.0	54.2	2.3	100
「シンナー遊び」未経験群 (男子+女子)	n=70,343					
有機溶剤	18.8	18.9	20.1	39.4	2.9	100
大麻	6.4	15.4	23.2	52.3	2.7	100
覚せい剤	7.6	15.4	21.7	52.8	2.5	100
「シンナー遊び」経験群 (男子)	n=629					
有機溶剤	52.9	19.6	9.7	14.6	3.2	100
大麻	25.6	25.0	18.1	28.3	3.0	100
覚せい剤	28.5	22.7	18.3	27.7	2.9	100
「シンナー遊び」経験群 (女子)	n=327					
有機溶剤	50.2	22.3	7.3	15.9	4.3	100
大麻	24.5	25.1	21.7	24.5	4.3	100
覚せい剤	26.0	25.4	17.4	26.9	4.3	100
「シンナー遊び」経験群 (男子+女子)	n=956					
有機溶剤	52.0	20.5	8.9	15.1	3.6	100
大麻	25.2	25.0	19.4	27.0	3.5	100
覚せい剤	27.6	23.6	18.0	27.4	3.3	100
男子	n=36,740					
有機溶剤	23.3	18.3	19.6	35.6	3.2	100
大麻	7.9	15.3	23.8	50.0	3.0	100
覚せい剤	8.9	15.1	22.3	50.8	2.8	100
女子	n=35,056					
有機溶剤	14.8	19.6	20.2	42.6	2.8	100
大麻	5.4	15.7	22.4	53.9	2.6	100
覚せい剤	6.8	15.8	21.0	53.9	2.4	100
男子+女子	n=71,796					
有機溶剤	19.2	18.9	19.9	39.0	3.0	100
大麻	6.7	15.5	23.1	51.9	2.8	100
覚せい剤	7.9	15.5	21.7	52.3	2.6	100

表 68 違法薬物の入手可能性の比較

の入手を想定した者が多かった可能性がある。

ただし、大麻、覚せい剤の入手可能性に比べれば、「シンナー遊び」の経験の有無に関わらず、常にはるかに高い結果であり、実感として納得できるところである。

問題は大麻及び覚せい剤である。この設問は今回が初めてのため、推移を比較できない。しかし、「シンナー遊び」経験者群では、男女共に、大麻でも覚せい剤も、「手に入る」を選んだ者が50%強であったことは、第3次覚せい剤乱用期<sup>9)</sup>を象徴するような結果であろう。今後の継続的な調査が要求される項目である。

## 7. 薬物乱用に対する法の遵守性

わが国の規制薬物乱用が、多くの他国に比べて少ない背景には、国民の法に対する遵守性の高さがあるのではないかと本研究者は推定している。

喫煙については非喫煙群全体の12% (表36)の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、「シンナー遊び」に関しては、それを選んだ者は「シンナー遊び」非経験者群全体の4.1% (表9)に過ぎず、大麻では「シンナー遊び」非経験者全体の2.4% (表56)であったことは、同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤乱用への垣根は高いことを物語っている。(覚せい剤に関しては、今回は尋ねていない)

しかも、表55と表59に示したように、「シンナー遊び」の経験と大麻・覚せい剤乱用の経験とは、強い結びつきを持っており、「シンナー遊び」が持つ大麻・覚せい剤乱用への「ゲイトウェイ・ドラッグ」としての深刻さは明確である。

## 8. 「ゲイトウェイ・ドラッグ」としてのタバコとアルコール

中学生における喫煙及び飲酒が「シンナー遊び」への「ゲイトウェイ」になっている可能性が高いことは以前より指摘してきたが<sup>4)(11)(12)(13)</sup>、表52及び表53の結果は、大人が同伴しない飲酒と「シンナー遊び」との結びつきの強さと、喫煙経験と「シンナー遊び」との結びつきの強さを再確認させるものである。このことは、薬物乱用・依存に果たす「仲間」の役割の大きさを強く示唆している。

中学生における喫煙・飲酒防止教育を行う際に指摘すべき、重要な点の一つと考えられる。

## E. 結論

わが国の中学生における薬物乱用の広がりを把握し、特に有機溶剤乱用に関する危険因子を特定することによって、中学生に対する薬物乱用防止対策の基礎資料として資するために、飲酒・喫煙に対する意識・実態、大麻・覚せい剤乱用に対する意識・実態をも含めて、1998年10月に、層別1段集落抽出法により選ばれた全国208校の全生徒を対象に自記式調査を実施した。その結果、148校(対象校の71.2%)より、71,928人(対象校208校の全生徒の63.5%前後)の回答を得た。有効回答数は71,796人(対象校208校の全生徒の63.4%前後)であった。

ただし、回答が得られなかった県が2県あり、都道府県毎の回答率には、未だ少々ばらつきがあることをふまえた上で、本調査の結果を利用する必要がある。

このような限界はあるが、以下のような結論を得た。

- ①男子では1.7% (1年生1.2%、2年生1.6%、3年生2.3%)、女子では0.9% (1年生0.9%、2年生0.8%、3年生1.1%)、全体では1.3% (1年生1.1%、2年生1.2%、3年生1.7%)の者が、これまでに有機溶剤乱用を経験したことがあると回答した。この結果は、1996年に実施した第1回全国調査の結果(男子で1.4%、女子で0.7%、全体で1.1%)よりは高い値であった。
- ②しかしながら、有機溶剤乱用を目撃したことのある率は、1996年の11.8%から10.3%に減少しており、有機溶剤乱用に誘われたことのある率は1.6%と同率で、身近に有機溶剤乱用者がいると答えた率は5.2%から5.4%に増加していた。
- ③一方、千葉県では、1990年以降、同種の調査を継続実施しているが、その結果では、男子での「誘われた」率が微増した以外は、生涯経験率も目撃率も、身近に乱用者がいる率も、すべて明らかに低下していた。
- ④したがって、総合的に判断した場合、わが国の中学生の有機溶剤乱用の広がりは、1996年と比べて、横這いであると解釈するのが妥当であろうと考えられる。



⑤しかし、「少年非行等の概要(平成10年1~12月)」(警察庁生活安全局少年課)によれば、1998年の「シンナー等の摂取・所持で補導した犯罪少年は、4,496人で、前年に比べ339人(8.2%)増加し、平成2年以來8年ぶりの増加」となっている。人数的には、1995年の5,456人よりは少ないが、1996年の4,489人を少々上回った数であり、有機溶剤乱用が、再度増加し始めている可能性が危惧される現状にある。

したがって、今回の生涯経験率の微増は、上記の反映の可能性もあり、有機溶剤乱用の動向には、これまで以上の注意が必要である。

ただし、1996年の第1回全国調査では、全国での回答率(学校数で)は58.1%であり、しかも、回答を全くいただけなかった府県が8つあり、これらの中には、人口10万人当たりの覚せい剤取締法違反検挙者数が全国平均よりも高い<sup>18)</sup>府県が4つ含まれていた。その点、今回の調査では、全国での回答率が71.2%と増加し、同時に、回答を全くいただけなかった県が2つだけであった点は、今回の結果を1996年の第1回調査の結果と比較する際には考慮すべきであろうと思われる。

⑥有機溶剤乱用経験者群では、非経験者群に比べて、日常生活の規則性、学校生活、家庭生活、友人関係において、好ましくない傾向が統計学的有意差を持って強いことが再確認された。

⑦その背景には、家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられる。経験者群では、「親との相談頻度」「家族との夕食頻度」が有意に低く、逆に「大人不在での時間」が有意に長く、家庭は「うまくいっていない」を選んだ者が有意に多かった。

⑧結局、有機溶剤経験者群は、総体的に見れば、家庭にも、学校にもなじみず、友人関係も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供たち」と推定することができよう。

⑨また、中学生における喫煙と大人が同伴しない飲酒は、有機溶剤乱用と強い繋がりを持っており、これらは、有機溶剤乱用への「ゲイトウェイ」となっている可能性が強く示唆された。

⑩有機溶剤乱用による医学的害については、「歯の腐食」、「無動機症候群」、「フラッシュバック」についての知識は、男女共に、経験者群の方が知っているという結果であり、「知識」と「行動」の不一致を改めて確認する結果となった。

しかし、従来の調査では、「急性中毒死」、「多発神経炎」、「精神病状態」についての知識保有率も有機溶剤乱用経験者群の方が高かったのに対して、今回の結果では、これらに対しては、非経験者群の方が知識保有率が高いか、あるいは同程度であり、ここ数年間での薬物乱用防止教育推進の結果である可能性もある。

⑪大麻の生涯経験率は、男子で0.9%、女子で0.5%、全体で0.7%であり、覚せい剤の生涯経験率は、男子で0.7%、女子で0.3%、全体で0.5%であった。1996年の第1回調査では、それぞれ大麻では、0.7%、0.3%、0.5%であり、覚せい剤では0.4%、0.2%、0.3%であった。これらの結果は、大麻でも覚せい剤でも生涯経験率の微増を示しているが、結果の数字自体が、無回答の者の割合よりも低く、積極的に論じることができない。

⑫違法性薬物の入手可能性については、有機溶剤乱用経験者群では、男女共に、大麻でも覚せい剤も、「手に入る」を選んだ者が50%強であったことは、第3次覚せい剤乱用期を象徴するような結果であった。

⑬薬物の乱用経験率には、法の遵守性が大きく影響する。喫煙については非喫煙群全体の12%の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、有機溶剤乱用については、それを選んだ者は有機溶剤乱用非経験者群全体の4.1%に過ぎず、大麻では有機溶剤乱用非経験者全体の2.4%であった。同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤・大麻乱用への垣根は高いことを物語っている。

しかし、有機溶剤乱用の経験と、大麻・覚せい剤乱用の経験とには、強い結びつきが認められ、大麻・覚せい剤乱用への「ゲイトウェイ」としての「シンナー遊び」の持つ意味が強く示唆された。

#### 注1:

本調査は、対象校の全生徒を調査対象とした。しかし、1996年に実施した第1回全国調査の際、特殊学級での調査を見合わせたい旨の問い合わせが少なからずあり、また、学校の判断で、特殊学級での調査を見合わせた学校も少なからずあった。同時に、この種の調査に際しては、特殊学級の扱いをはっきりさせた方が実施上混乱が少ないとの意見もいただいた。

そのため、今回の調査に際しては、特殊学級で本調査を実施した場合、実施過程及び結果の出し

方上、生徒のプライバシーが露呈する可能性が大であるとの判断で、全生徒を対象にしながらも、「ただし、学校によっては、いわゆる特殊学級がおりかと思いますが、今回は調査対象としておりませんので、調査は結構です。」との但し書きを付けた。

これに対して、ある自治体教育委員会担当者より、「特殊学級の生徒を排除しているように受け取れる」とのご意見をいただいた。

当方には排除の意図は全くなく、上記いきさつの下での対象の限定であったことをご理解いただきたい。

## F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 第34回日本アルコール・薬物医学会にて発表予定

### 謝辞

本調査研究にご回答をいただいた、多くの学校関係者および生徒、ならびに、本調査の実施に関して御尽力いただいた多くの方々に、心よりお礼を述べさせていただきます。

また、調査用紙回収後の困難な資料整理に協力していただいた、東京ダルク、ダルク女性ハウス、日本ダルクの協力者に感謝いたします。

### 参考文献

- 1) 尾崎 茂、和田 清、福井 進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成8年度厚生科学研究費補助金（麻薬等対策総合研究事業）研究報告書「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」（主任研究者：寺元 弘）第1分冊薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究（2）。pp. 61-86. 1986.
- 2) 和田 清、福井 進：覚せい剤精神病の臨床症状--覚せい剤使用年数との関係--。アルコール研究と薬物依存 25:143-158, 1990.
- 3) Wada, K., Fukui, S.: Demographic and Social Characteristics of Solvent Abuse Patients in Japan. The American Journal on Addictions 3:165-176, 1994.
- 4) Wada, K., Fukui, S.: Prevalence of volatile solvent inhalation among junior high school students in Japan and background life style of users. Addiction 88: 89-100, 1993.
- 5) Wada, K., Price, RK, Fukui, S: Cigarette smoking and solvent use among Japanese adolescents. Drug and Alcohol Dependence 46:137-145, 1997.
- 6) Wada, K., Price, RK, Fukui, S: Reflecting Adult Drinking Culture: Prevalence of Alcohol Use and Drinking Situations among Japanese Junior High School Students in Japan. Journal of Studies on Alcohol 59: 381-386, 1998.
- 7) 和田 清：中学生における飲酒－飲酒文化の反映－。日本アルコール・薬物医学会雑誌 34: 36-48, 1999.
- 8) 和田 清：薬物乱用の現状と歴史。神経精神薬理 19: 913-923, 1997.
- 9) 和田 清、勝野真吾、尾崎米厚、中野良吾：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究。平成8年度厚生科学研究費補助金（麻薬等対策総合研究事業）研究報告書「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」（主任研究者：寺元 弘）第1分冊薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究（2）。pp. 21-60. 1996.
- 10) 文部省大臣官房調査統計企画課：全国学校総覧1998年版。原書房。東京。1997.
- 11) 和田 清：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究。平成6年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）平成6年度研究成果報告書。pp. 35-60. 1995.
- 12) 和田 清：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究。平成4年度厚

生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」  
薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する  
研究（主任研究者：福井 進）平成4年度研究  
成果報告書. pp. 25-63. 1993.

13) 和田 清：中学生における「シンナー遊び」・  
喫煙・飲酒についての調査研究. 平成5年度厚  
生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」  
薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する  
研究（主任研究者：福井 進）平成5年度研究  
成果報告書. pp. 27-54. 1994.

14) 和田 清：有機溶剤乱用発生の社会的背景--  
青少年にとり有機溶剤とは何か--. アルコール

医療研究 8: 179-184, 1991.

15) 和田 清：中学生における飲酒—飲酒文化の  
反映—. 日本アルコール・薬物医学会雑誌34:  
36-48, 1999.

16) 和田 清：有機溶剤乱用と家族. 精神保健研  
究 7: 13-17, 1994.

17) 法務省法務総合研究所：犯罪白書. 大蔵省印  
刷局.

18) 厚生省薬務局：平成7年度における麻薬・覚せ  
い剤行政の概況. 1996年. 厚生省薬務局

## 飲酒・喫煙・薬物乱用についての 意識・実態調査（第五版-98）

飲酒・喫煙・薬物乱用は、青少年の心と体の両面に様々な害を及ぼします。

本調査は、今日の中学生が飲酒・喫煙・薬物乱用をどの様と考えており、また、実際にどのくらいの人が飲酒・喫煙・薬物乱用を経験しているかを調べ、今後の対策の参考にします。

回答者がわからないように以下のように配慮されています。

- ・この調査用紙には、氏名など個人を見つけ出せそうなものを記載する欄はありません。
- ・各質問に対する答えは、自分の場合に最も近いものの数字を丸で囲んでください。
- ・先生には、必要以上に生徒の所には行かず、書き終わった生徒が用紙を提出に来るのを前で待つだけにしていただきます。
- ・生徒は記載が終わったら、配布された封筒に用紙を入れて、封をし、先生の持っている大きな袋に封筒ごと入れてください。
- ・調査用紙は、封を切られることなく（学校の先生などに結果を知られることなく）、当研究室に運ばれ、当研究室で開封し、厳重に保管され、研究以外の目的には使用しません。
- ・集計も、集められた結果を全体でまとめて処理します。個人が特定されることはありません。

各質問に対する回答は、ことわりがない限り、一つだけ選んでください。

ありのままを答えてください。

千葉県市川市国府台1-7-3  
国立精神・神経センター  
精神保健研究所 薬物依存研究部  
TEL. 047-372-0141

（質問1）あなたは男性ですか、女性ですか？

1. 男性 2. 女性

（質問2）あなたは中学何年生ですか？

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生

（質問3）あなたの起床時間は、ほぼ一定していますか？

1. はい 2. いいえ

- (質問4) あなたの就寝時間は、ほぼ一定していますか？ 1. はい 2. いいえ
- (質問5) あなたは、毎朝、朝食を食べていますか？ 1. ほとんど毎日食べている  
2. 時々食べる  
3. ほとんど食べない
- (質問6) あなたにとって、学校生活は次のどれですか？ 1. とても楽しい。  
2. どちらかといえば楽しい  
3. あまり楽しくない  
4. まったく楽しくない
- (質問7) あなたはクラブ活動(部活)に参加していますか？ 1. 積極的に参加している  
2. 消極的に参加している  
3. 参加していない
- (質問8) あなたは、夕食を週何回くらい家族全員で食べますか？  
1. ほとんど毎日 2. 5～6回 3. 4回前後 4. 3回前後 5. 2回前後  
6. ほとんど食べない
- (質問9) あなたは、母親と週何回くらい夕食を食べますか？  
1. ほとんど毎日 2. 5～6回 3. 4回前後 4. 3回前後 5. 2回前後  
6. ほとんど食べない 7. 母親がいない(死別、離婚、別居など)
- (質問10) あなたは、父親と週何回くらい夕食を食べますか？  
1. ほとんど毎日 2. 5～6回 3. 4回前後 4. 3回前後 5. 2回前後  
6. ほとんど食べない。 7. 父親がいない(死別、離婚、別居、<sup>たんしんふにん</sup>単身赴任など)
- (質問11) あなたは、あなたの家庭は「うまくいっている」と思いますか？  
1. うまくいっていると思う 2. どちらとも言えない 3. うまくいっていないと思う
- (質問12) あなたは、学校・塾・習い事・運動での時間以外、大人が不在の状態で、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか？  
1. なし、あるいは、ほとんどなし 2. 1時間未満 3. 1時間以上2時間未満  
4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上
- (質問13) あなたは、親しく遊べる友人がいますか？ 1. いる 2. いない
- (質問14) あなたは、相談事のできる友人がいますか？ 1. いる 2. いない
- (質問15) あなたは、悩みごとがある時、親と相談する方だと思いますか？  
1. よく相談する方である 4. ほとんど相談しない方である  
2. どちらかと言えば相談する方である 5. 親がいない(死別・離婚・別居・単身赴任など)  
3. どちらかと言えば相談しない方である
- (質問16) あなたは、タバコを吸ってみたいと思ったことがありますか？ 1. ない 2. ある
- (質問17) あなたは、健康面から、喫煙をどう思いますか？ 1. 吸うべきではないと思う  
2. 少々ならかまわないと思う  
3. 全然かまわないと思う
- (質問18) あなたは、これまでに一回でも、タバコを吸ったことがありますか？  
(ある場合は、初めて吸った時の年齢を選んでください。)  
1. 吸ったことがない 2. 10歳以下 3. 11歳 4. 12歳 5. 13歳  
6. 14歳 7. 15歳以上 8. 吸ったことはあるが、年齢はおぼえていない
- (質問19) あなたは、この1年間で、タバコを吸ったことがありますか？

1. 吸ったことがない
2. 1年間で数回吸った
3. 月に数回吸った
4. 週に数回吸った
5. ほとんど毎日吸った

(質問20) 未成年者の喫煙は法律で禁じられていますが、あなたは未成年者の喫煙をどう思いますか？

1. 法律で禁じられているから、吸うべきでないと思う
2. 法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思う
3. 法律で禁じられてはいるが、全然かまわないと思う

(質問21) あなたは、未成年者の喫煙禁止をどう思いますか？

1. 当然だと思う
2. しかたのないことだと思う
3. 成人が吸えて、未成年者が吸えないのはおかしいと思う
4. そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う

(質問22) あなたは、これまでに一回でも、アルコール（ビール、日本酒、焼酎<sup>しょうちゅう</sup>、ワイン、ウイスキーなど）を飲んだことがありますか？（なめただけの場合は、含めないで下さい。）

（ある場合は、初めて飲んだ時の年齢を選んでください。）

1. 飲んだことがない
2. 10歳以下
3. 11歳
4. 12歳
5. 13歳
6. 14歳
7. 15歳以上
8. 飲んだことはあるが、年齢はおぼえていない

(質問23) あなたは、これまでに、下記の時に、一回でも、アルコールを飲んだことがありますか？

（いくつ選んでもけっこうですが、なめただけの場合は、含めないで下さい。ただし、「1」を選んだときには、その他は選ばないでください。）

1. 飲んだことがない
2. 冠婚葬祭（結婚式・祭り・葬式・法事・盆・正月など）の時に飲んだことがある
3. 家で家族といっしょの時に飲んだことがある
4. その他の機会に、家族と飲んだことがある
5. クラス会、打ち上げ、友達とのパーティーの時に、仲間と飲んだことがある
6. その他の機会に、仲間と飲んだことがある
7. 一人で飲んだことがある

(質問24) あなたは、この1年間に一回でも、アルコールを飲んだことがありますか？

（いくつ選んでもけっこうですが、なめただけの場合は、含めないで下さい。ただし、「1」を選んだときには、その他は選ばないでください。）

1. 飲んだことがない
2. 冠婚葬祭（結婚式・祭り・葬式・法事・盆・正月など）の時に飲んだことがある
3. 家で家族といっしょの時に飲んだことがある
4. その他の機会に、家族と飲んだことがある
5. クラス会、打ち上げ、友達とのパーティーの時に、仲間と飲んだことがある
6. その他の機会に、仲間と飲んだことがある
7. 一人で飲んだことがある

(質問25) 未成年者の飲酒は禁止されていますが、あなたは、未成年者の飲酒をどう思いますか？

1. 法律で禁止されているから、飲むべきではないと思う
2. 法律で禁止されてはいるが、時と場合に応じては、かまわないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、全然かまわないと思う

(質問26) あなたは、未成年者の飲酒禁止をどう思いますか？

1. 当然だと思う
2. しかたのないことだと思う

3. 成人が飲めて、未成年者が飲めないのはおかしいと思う
4. そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う

(質問27) あなたは、「シンナー遊び」をしているところを実際に見たことがありますか？

1. ない
2. ある

(質問28) あなたの身近に、「シンナー遊び」をしている人がいますか？

1. いない
2. いる

(質問29) あなたは、「シンナー遊び」に誘われたことがありますか？

1. ない
2. ある

(質問30) 「シンナー遊び」について、あなたの気持ちは次のどれに最も近いですか？

1. 関心がない
2. 見てみたい
3. 試してみたい
4. 経験がある

(質問31) あなたは、「シンナー遊び」をしている人について、どう思いますか？

1. 自分には無関係の人だと思う
2. 「シンナー遊び」をする気持ちが理解できる気がする
3. 親しみを感じる

(質問32) あなたは、「シンナー遊び」をしている人と親しくなることについて、どう考えますか？

1. 親しくなりたくない
2. 「シンナー遊び」だけで決めたくはない
3. すでに親しい

(質問33) あなたは、これまでに一回でも、「シンナー遊び」を経験したことがありますか？

(ある場合は、初めて経験した時の年齢を選んでください。)

1. 経験がない
2. 10歳以下
3. 11歳
4. 12歳
5. 13歳
6. 14歳
7. 15歳以上
8. 経験はあるが、年齢はおぼえていない

(質問34) あなたは、この1年間に一回でも、「シンナー遊び」をしたことがありますか？

1. ない
2. ある

(質問35) 「シンナー遊び」は法律で禁止されていますが、あなたは「シンナー遊び」について、どう思いますか？

1. 法律で禁止されているから、すべきではないと思う
2. 法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、それを守る必要は全然ないと思う

(質問36) あなたは、法律で「シンナー遊び」を禁止しているのをどう思いますか？

1. 当然だと思う
2. しかたのないことだと思う
3. 麻薬・覚せい剤とちがって、シンナーくらい禁止しなくてもいいのではないかと思う
4. そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う

(質問37) あなたは、「シンナー遊び」で死亡すること (急性中毒死) があるのを知っていますか？

1. 知っている
2. 知らない

(質問38) あなたは、「シンナー遊び」を繰り返すと、歯がぼろぼろになりやすいことを知っていますか？

1. 知っている
2. 知らない

(質問39) あなたは、「シンナー遊び」を繰り返すと、手足の筋肉や神経が衰え、物をつかめなくなったり、歩けなくなること (多発神経炎) があるのを知っていますか？

1. 知っている
2. 知らない

(質問40) あなたは、「シンナー遊び」を繰り返すと、何もないのに物が見えたり (幻視)、実際には何も聞こえないのに、声が聞こえたり (幻聴)、誰も何とも思っていないのに、人が自分の事を非難していると思ひ込ん

だり (妄想) する状態 (精神病状態) になることがあるのを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

(質問41) あなたは、「シンナー遊び」を繰り返すと、何事にも関心が持てなくなり、結果的に学校を欠席しがちになり、どんな仕事に就いても、長続きしなくなること (無動機症候群) を知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

(質問42) あなたは、「シンナー遊び」の結果、幻視、幻聴、妄想が出るようになってしまうと、それを治療して治っても、その後「シンナー遊び」をやめていても、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻視、幻聴、妄想が再び出現すること (フラッシュバック) があるのを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

(質問43) あなたは、「シンナー遊び」をしている人たちは、どうして「シンナー遊び」するのだと思いますか？ (いくつ選んでもけっこうです。)

1. 本人に問題があるから 2. 家庭に問題があるから  
3. 学校に問題があるから 4. 社会に問題があるから

(質問44) あなたは、これまでに一回でも、大麻 (マリファナ、ハシッシ、ハッパも同じものです) を吸ったことがありますか？ (ある場合は、初めて吸った時の年齢を選んでください。)

1. 経験がない 2. 10歳以下 3. 11歳 4. 12歳 5. 13歳 6. 14歳  
7. 15歳以上 8. 経験はあるが、年齢はおぼえていない

(質問45) あなたは、大麻を吸うことをどう思いますか？

1. 吸うべきでないと思う  
2. 麻薬・覚せい剤とちがって、少々ならかまわないと思う  
3. まったくかまわないと思う

(質問46) あなたは大麻を吸うと、上記の質問40や質問41と同じ精神病状態や無動機症候群になることがあるのを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

(質問47) あなたは、これまでに一回でも、覚せい剤を (スピード、エスも同じものです) 使用したことがありますか？ (ある場合は、初めて使用した時の年齢を選んでください。)

1. 経験がない 2. 10歳以下 3. 11歳 4. 12歳 5. 13歳 6. 14歳  
7. 15歳以上 8. 経験はあるが、年齢はおぼえていない

(質問48) 覚せい剤を使うと、上記の質問40と同じ精神病状態になりやすく、また質問42のようなフラッシュバックがあることを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

(質問49) あなたが「シンナー遊び」のために有機溶剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦労するが、なんとか手に入る  
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ

(質問50) あなたが大麻を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦労するが、なんとか手に入る  
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ

(質問51) あなたが覚せい剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦労するが、なんとか手に入る  
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ

ご協力ありがとうございました。

## 薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査（要約版）

分担研究者 和田 清 国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部長  
研究協力者 中野良吾 同上 流動研究員  
尾崎米厚 国立公衆衛生院 疫学部 感染症室長  
勝野眞吾 兵庫教育大学 学校教育学部 教授

中学生における薬物乱用の広がり把握し、特に有機溶剤乱用に関する危険因子を特定することによって、中学生に対する薬物乱用防止対策の基礎資料として資するために、無作為で選ばれた全国208校の全生徒を対象に、薬物乱用に関する意識・実態調査を実施した。その結果、148校（対象校の71.2%）より、71,796人（対象校の全生徒の63.4%前後）の有効回答を得た。ただし、回答が得られなかった県が2県あり、都道府県毎の回答率には、未だ少々ばらつきがあることをふまえた上で、本調査の結果を利用する必要がある。

①男子では1.7%（1年生1.2%、2年生1.6%、3年生2.3%）、女子では0.9%（1年生0.9%、2年生0.8%、3年生1.1%）、全体では1.3%（1年生1.1%、2年生1.2%、3年生1.7%）の者が、これまでに有機溶剤乱用の経験があると回答した。これは、1996年に実施した第1回全国調査の結果よりは微増であった。

②しかし、有機溶剤乱用目撃率は、第1回調査よりやや減少しており、有機溶剤乱用に誘われたことのある率は同じで、身近に乱用者を知っている率は微増していた。

③一方、1990年から同種の調査を継続実施している千葉県では、男子での「誘われた」率が微増した以外は、生涯経験率も目撃率も乱用者を知っている率も、明らかに低下していた。

④したがって、総合的に判断した場合、わが国の中学生の有機溶剤乱用の広がりには、1996年と比べて、横這いであると解釈するのが妥当であろう。

⑤ただし、「少年非行等の概要（平成10年1～12月）」（警察庁生活安全局少年課）によれば、1998年のシンナー等の摂取・所持で補導した犯罪少年は、平成2年以來8年ぶりの増加となっており、今回の生涯経験率の微増は、その反映の可能性もあり、有機溶剤乱用の動向には、これまで以上に注意が必要である。

⑥有機溶剤乱用経験者群（以下、経験者群）では、非経験者群に比べて、日常生活の規則性、学校生活、家庭生活、友人関係において、好ましくない

傾向が有意差を持って強いことが再確認された。

⑦その背景には、家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられる。経験者群では、「親との相談頻度」「家族との夕食頻度」が有意に低く、逆に「大人不在での時間」が有意に長く、家庭は「うまくいっていない」を選んだ者が有意に多かった。

⑧結局、経験者群は、総体的にみれば、家庭にも、学校にもなじみず、友人関係も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供たち」と推定することができよう。

⑨また、中学生における喫煙と大人が同伴しない飲酒は、有機溶剤乱用と強い繋がりを持っており、有機溶剤乱用への「ゲイトウェイ」となっている可能性が強く示唆された。

⑩有機溶剤乱用による医学的害については、「歯の腐食」、「無動機症候群」、「フラッシュバック」についての知識は、男女共に、経験者群の方が知っているという結果であり、「知識」と「行動」の不一致を改めて確認する結果となった。

⑪大麻の生涯経験率は、男子で0.9%、女子で0.5%、全体で0.7%であり、覚せい剤の生涯経験率は、男子で0.7%、女子で0.3%、全体で0.5%であった。これらは、第1回調査よりは微増を示しているが、数字自体が無回答の者の割合よりも低く、積極的に論じることはできない。

⑫違法性薬物の入手可能性については、経験者群では、大麻でも覚せい剤も、「手に入る」を選んだ者が男女共に50%強であったことは、第3次覚せい剤乱用期を象徴するような結果であった。

⑬法の遵守については、喫煙に関しては非喫煙群全体の12%の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、有機溶剤乱用については、それを選んだ者は非経験者群全体の4.1%に過ぎず、大麻では非経験者全体の2.4%であったことは、同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤・大麻乱用への垣根は高いことを物語っている。しかし、有機溶剤乱用の経験と大麻・覚せい剤乱用の経験と



には、強い結びつきが認められ、大麻・覚せい剤乱用への「ゲイトウェイ」としての有機溶剤乱用

の持つ意味が強く示唆された。

